２０１９年度　市立函館高等学校　シラバス

教　科	科　目	単位数	年次・コース	教　科　担　任
国　語	現代文Ｂ （現代文Ｂ（後半））	2	３年次（文系・理系）	髙市道弘・丹　通史・齊藤裕子

使用教科書	高等学校　現代文Ｂ［改訂版］（三省堂）	使用副教材	三省堂版準拠学習課題ノート（三省堂） 新版　品詞別頻出漢字マスター３０００（尚文出版 新総合　図説国語（東京書籍）

科　目　の　目　標	道徳教育のねらい
近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、物の見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる。	人間と人間との関係の中で、互いの立場や考え方を尊重し合えるような、道徳的心情や道徳的判断力を養う。

	学習活動内容	市函ＤＰ（本校で身に付けさせたい１０の資質・能力）									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		基礎力	思考力	主体的学習力	傾聴力	自己理解・自己管理力	他者理解力	計画実行力	発信・表現力	ｽﾄﾚｽｺﾝﾄﾛｰﾙ力	実践力
1	現代文　随　筆	○		○			○				
2	現代文　評　論	○	◎	○							
3	現代文　小　説	○	○	○		◎	◎				
4	現代文　詩　歌	○		○			○		○		○
5	現代文　表　現	○	○	○	◎	○	○		◎		○
6	現代文　文学史	○		○				○			
7	現代文　語　彙	○		○				○			

評価の観点	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。	目的や場に応じて効果的に話し、また、的確に聞き取ったり話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。	相手や目的、意図に応じた適切な文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。	文章を的確に読み取ったり目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。

評価の方法

次の資料をもとに観点別評価によって総合的に評価する。

	活動の観察①（授業に対する取り組みの姿勢全般）	活動の観察②（グループ学習時の発表内容や人の意見を聞く態度）	記述の確認及び分析（ノート、ワークシート、原稿用紙等）	定期考査に対する取り組み姿勢と結果	小テストや課題確認テストに対する取り組み姿勢と結果	週末課題や長期休業中の課題に対する取り組み姿勢と成果
関心・意欲・態度	◎	○		○	○	○
話す・聞く能力		◎				
書く能力			◎			
読む能力			◎			
知識・理解				◎	◎	◎

授業計画

授　業　計　画					実　施　状　況	
	月 （時数）	単元・考査等 （配当時数）	学習のねらい	学習内容 （配当時間）	単元実施時数	実施反省
前期	４月	評論	・構成や展開、例示など論証の工夫に留意して筆者の問題意識を把握する。 ・「相互性」と「他者への想像力」との関係を考える。	オリエンテーション（１） 「ぬくみ」（鷲田清一）（５）		
	５月	評論	・論理展開に従って科学者と神の関係を整理する。 ・教材の見方や考え方を、関連した社会事象について広げ、学びを深める。	「「なぜ」に答えられない科学（池内了）（３）		
		小説	・物語の展開と、それに即した登場人物の心理の変化を読み取る。 ・物語世界を立ち上げる小説の仕組みについて考察する。	「美神」（三島由紀夫）（４）		
		◎前期中間考査（１）				
	６月	評論	・筆者の問題意識を捉え、文章の論点を正確に把握する。 ・「疑似群衆」の示す意味について考え、具体的な社会現象と関連づける。	「疑似群衆の時代」（港千尋）（７）		
	７月	評論	・論証の工夫に留意して筆者の問題意識、論旨を理解する。 ・本文を手がかりに、日本文化や日本文化論について考察する。	「陰影礼賛」（谷崎潤一郎）（４）		
	８月	小説	・エドの境遇と「私」の役割に着目し、二人の人物像を読み取る。 ・小説の表現の特徴を理解し、それにふさわしい読み方を身につける。	「涙の贈り物」（レベッカ・ブラウン／柴田元幸訳）（４）		
		◎前期期末考査（１）				
	９月	評論	・論証の工夫に留意して筆者の問題意識、論旨を理解する。 ・文化の雑種性の積極的意味について考察する。	「日本文化の雑種性」（加藤周一）（７）		
後期	１０月 １１月	小説	・「手記」として書かれた物語の構造や展開を理解する。 ・過去の自己についての反省的把握を叙述の展開に沿って整理する。 ・読書の幅を広げる。	「舞姫」（森鷗外）（１１）		※後期より、演習を随時行うため、学習内容を多少変更することもあり得る。
		評論	・論証の工夫に留意して筆者の問題意識、論旨を理解する。 ・「バイオメトリックス認証」や脳科学の問題点について考察する。	「身体〈の〉疎外」（黒崎政男）（４）		
		◎後期中間考査（１）				
	１２月 １月	評論	・論証の工夫に留意して筆者の問題意識、論旨を理解する。 ・筆者の生きた時代と現在の日本とを比較して、開化の影響について考察する。	「現代日本の開化」（夏目漱石）（７）		

２０１９年度　市立函館高等学校　シラバス

教　科	科　目	単位数	年次・コース	教　科　担　任
地理歴史	地理Ｂ演習	4	３年次・文系	横浜　隆雄

使用教科書	新詳地理Ｂ（帝国書院）	使用副教材	詳解現代地図（二宮書店） フォトグラフィア地理図説（とうほう）

科　目　の　目　標	道徳教育のねらい
現代世界の地理的事象を系統地理的に，現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し，現代世界の地理的認識を養うとともに，地理的な見方や考え方を培い，国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。	地域・社会・世界に対する認識を深め、社会の一員としての必要な自覚を養う。

	学習活動内容	市函ＤＰ（本校で身に付けさせたい１０の資質・能力）									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		基礎力	思考力	主体的学習力	傾聴力	自己理解・自己管理力	他者理解力	計画実行力	発信・表現力	ｽﾄﾚｽｺﾝﾄﾛｰﾙ力	実践力
	第Ⅲ部　現代世界の地誌的考察										
1	２章　現代世界の諸地域	○	○								○
2	３章　現代世界と日本		○	○							○
	第Ⅰ部　さまざまな地図と地理的技能										
3	１章　地理情報と地図	○	○	○							○
4	２章　地図の活用と地域調査	○	○	○							○
	第Ⅱ部　現代世界の系統地理的考察										
5	１章　自然環境	○	○	○							○
6	２章　資源と産業	○	○	○							○
7	３章　人口，村落・都市	○	○	○							○
8	４章　生活文化，民族・宗教	○	○	○							
	第Ⅲ部　現代世界の地誌的考察										
9	２章　現代世界の諸地域	○	○	○							○
10	３章　現代世界と日本	○	○	○							○
11	グループワーク		○	○	○	○	◎		◎	○	○
12	課題提出		○	◎		○		○		◎	○
13	考査	○	○					○	◎		

	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
評価の観点	現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、国際社会に主体的に生きる日本国民としての責任を果たそうとする。	現代世界の地理的事象から課題を見いだし、それを系統地理的に考察したり、歴史的背景を踏まえて地誌的に考察したりし、国際社会の変化を踏まえて公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。
評価の方法	小テストや課題、ノートや授業中の発表・発言、討議などに取り組む姿勢から、意欲的に取り組んだかを評価する。	定期考査や小テスト、課題などにより、系統地理的、地誌的に考察し、判断した過程や結果を表現できるかどうかを評価する。	定期考査や小テスト、課題などにより、地図や統計、画像などの資料を活用して情報を得て、まとめることができるかどうかを評価する。	定期考査や小テスト、課題などにより、基本的な事柄を理解し、知識を身に付けているかどうかを評価する。

地理Ｂ演習　授業計画

授業計画					実施状況	
	月 （時数）	単元・考査等 （配当時数）	学習のねらい	学習内容 （配当時間）	単元 実施 時数	実施反省
前期	4月	第Ⅲ部　現代世界の地誌的考察 2章　現代世界の諸地域(27)	・西、中央アジアについて、自然や産業、宗教などの多様な事象を項目ごとに整理して考察する。	5節　西アジアと中央アジア(3)		
	5月		・北アフリカとサハラ以南のアフリカについて、自然や歴史的背景などの観点から二つの地域を比較して考察する。	6節　北アフリカとサハラ以南のアフリカ(3)		
	6月		・ヨーロッパとロシアについて、自然や産業、日本との関わりなどの事象を項目ごとに整理して考察する。	7節　ヨーロッパ(5) 8節　ロシア(3)		
		前期中間考査(1)				
	7月		・アングロアメリカについて、自然や産業、国際社会との関係に留意して考察する。	9節　アングロアメリカ(4)		
	8月 9月		・ラテンアメリカとオセアニアについて、文化や産業などの事象を歴史的背景と関連づけて考察する。	10節　ラテンアメリカ(4) 11節　オセアニア(3)		
			・現代世界における日本について、多面的・多角的に考察し、日本が抱える地理的な諸課題の解決の方向性や将来の日本のあり方などについてまとめる。	1節　日本が抱える地理的な諸課題(0.3) 2節　日本の抱える課題の追究(1.7)		
		前期期末考査(1)				
		第Ⅰ部　さまざまな地図と地理的技能 1章　地理情報と地図(3) 2章　地図の活用と地域調査(2)	・地図の種類や特性、地域調査等について、演習問題に取り組み、理解を深める。	1,2節　地図の発達、種類とその利用(1) 3節　地理情報の地図化(2) 1,2節　地図の活用と地域調査(2)		
後期	10月	第Ⅱ部　現代世界の系統地理的考察 1章　自然環境(17)	・自然環境について、演習問題に取り組み、理解を深める。	1,2節　世界の地形と気候(8) 3節　日本の自然の特徴と人々の生活(4.5) 4節　環境問題(4.5)		
		2章　資源と産業(17)	・世界と日本の資源と産業について、演習問題に取り組み、理解を深める。	1,2節　世界の農林水産業と食料問題(5) 3節　世界のエネルギー・鉱産資源(3.5) 4節　資源・エネルギー問題(3.5) 5節　世界の工業(4) 6～8節　第3次産業、交通・通信と貿易、経済圏　(1)		
	11月	3章　人口、村落・都市(10)	・世界や日本の人口問題と村落や都市とその居住問題について、演習問題に取り組み、理解を深める。	1,2節　世界の人口と人口問題(5) 3,4節　村落と都市、居住問題(5)		
		4章　生活文化、民族・宗教(9)	・生活文化や民族・宗教と領土問題について、演習問題に取り組み、理解を深める。	1,2節　世界の衣食住、民族と宗教(5) 3,4節　現代世界の国家と領土問題(4)		
		第Ⅲ部　現代世界の地誌的考察 1章　現代世界の地域区分(0.7)	・世界各地域の自然や産業、文化等と日本との結びつきについて、演習問題に取り組み、理解を深める。	1節　地域区分とは何か(0.7)		
		2章　現代世界の諸地域(29.3)		2～5節　アジア(6.3) 6節　北アフリカとサハラ以南のアフリカ(3.5) 7,8節　ヨーロッパ、ロシア(10) 9,10節　アングロ、ラテンアメリカ(7) 11節　オセアニア(2.5)		
	12月	後期中間考査(1)				
	1月	3章　現代世界と日本(2)	・現代世界と日本について、日本が抱える地理的な諸課題の解決や将	1節　日本が抱える地理的な諸課題(0.3) 2節　日本の抱える課題の追究(1.7)		

			来の日本のあり方などについてまとめる。			

２０１９年度　市立函館高等学校　シラバス

教　科	科　目	単位数	年次・コース	教　科　担　任
国　語	古典Ａ	2	３年次（選択）	若林　一

使用教科書	古典Ａ（東京書籍）	使用副教材	古典Ａワークノート（東京書籍）

科　目　の　目　標	道徳教育のねらい
古典としての古文と漢文、古典に関連する文章を読むことによって、我が国の伝統と文化に対する理解を深め、生涯にわたって古典に親しむ態度を育てる。	人間と人間との関係の中で、互いの立場や考え方を尊重し合えるような、道徳的心情や道徳的判断力を養う。

	学習活動内容	市函ＤＰ（本校で身に付けさせたい１０の資質・能力）									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		基礎力	思考力	主体的学習力	傾聴力	自己理解・自己管理力	他者理解力	計画実行力	発信・表現力	ｽﾄﾚｽｺﾝﾄﾛｰﾙ力	実践力
1	古　文　物　語	○		○							
2	古　文　歴　史	○		○	○						
3	古　文　文法の要点	○		○							
4	漢　文　故事と寓話	○		○						○	
5	漢　文　孔子と子路	○		○		◎	○			○	
6	漢　文　漢の高祖と韓信・張良	○		○				○		○	
7											
8											
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
16											
17											
18											
19											
20											
21											
22											
23											
24											

	関心・意欲・態度	読む能力	知識･理解		
評価の観点	古典を読む楽しさを味わい、古典に親しむとともに、我が国の伝統と文化に対する関心を深めようとしている。	まとまりのある古典を読み、古典に表れた思想や感情を捉え、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴などの理解を深め、知識を身に付けている。		

評価の方法

次の資料をもとに観点別評価によって総合的に評価する。

	活動の観察①（学習活動への参加姿勢や態度）記述の確認（ノート、プリント、ワークシート）	活動の観察②（学習活動における発言内容や態度）記述の確認（ノート、プリント、ワークシート）	活動の観察③（学習活動における発言内容）記述の確認（ノート、プリント、ワークシート）			
関心・意欲・態度	◎					
読む能力		◎				
知識・理解			◎			

古典Ａ　授業計画

授業計画					実施状況	
	月 （時数）	単元・考査等 （配当時数）	学習のねらい	学習内容 （配当時間）	単元実施時数	実施反省
前期	４月 ５月 ６月 ７月 （２４）	古文編　物語（８）	様々な物語作品を読み、登場人物の心情や行動について考える。	『伊勢物語』（２） 『大和物語』（２） 『うつほ物語』（２） 『とりかへばや物語』（２）		
		漢文編　故事と寓話（７）	寓話に込められた古代中国の思想や考え方についての思索を深める。	「孟母断機」（２） 「夢為胡蝶」（１） 「従漚鳥游」（１） 「直躬」（２） 「崔杼弑其君」（１）		
		中間考査（１）				
		古文編　歴史（８）	歴史上の人物や出来事が、どのように語られているかを読み取る。	『大鏡』（４） 『栄花物語』（４）		
	８月 ９月 （１０）	漢文編　孔子と子路（９）	『論語』に描かれた孔子と子路の姿を通して、人間の生き方やあり方について考えを深める。	「子路請為弟子」（４） 「嗟乎、由死矣」（４） 『論語』における子路（１）		
		期末考査（１）				
後期	１０月 １１月 （１６）	文法の要点（１５）	古文を読むための手がかりとして学んできた基本的な文法について、その要点を改めて確認する。	紛らわしい語の識別（４） 助動詞（６）　敬語（３） 助詞（１）　和歌の修辞（１）		
		中間考査（１）				
	１２月 １月 （１０）	漢文編　漢の高祖と韓信・張良（１０）	古代中国の思想や、歴史書に描かれた人物の生き方・考え方を通して人間の生き方やあり方について考えを深める。	「法三章耳」（３） 「国士無双」（３） 「多多益善」（３） 「良薬苦口」（１）		

２０１９年度　市立函館高等学校　シラバス

教　科	科　目	単位数	年次・コース	教　科　担　任
国　語	古典Ｂ （文系古典Ｂ（後半））	3	３年次（文系）	髙市道弘・丹　通史・齊藤裕子

使用教科書	高等学校　古典Ｂ　古文編［改訂版］（三省堂）	使用副教材	三省堂版準拠学習課題ノート（三省堂） 改訂版　出る順に学ぶ頻出単語４００（Ｚ会） 新総合　図説国語（東京書籍）

科　目　の　目　標	道徳教育のねらい
国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。	人間と人間との関係の中で、互いの立場や考え方を尊重し合えるような、道徳的心情や道徳的判断力を養う。

	学習活動内容	市函ＤＰ（本校で身に付けさせたい１０の資質・能力）									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		基礎力	思考力	主体的学習力	傾聴力	自己理解・自己管理力	他者理解力	計画実行力	発信・表現力	ｽﾄﾚｽｺﾝﾄﾛｰﾙ力	実践力
1	古　文　説　話	○		○							
2	古　文　随　筆	○		○							
3	古　文　物　語	○		○							
4	古　文　日　記	○		○					○		
5	古　文　軍　記	○		○	○						
6	古　文　和　歌	○		○			○				
7	古　文　評　論	○	○	○							
8	古　文　文　法	○		○				○		○	
9	古　文　文学史	○		○				○			
10	漢　文　小　話	○		○						○	
11	漢　文　史　伝	○		○							
12	漢　文　小　説	○	○	○			○				
13	漢　文　思　想	○		○		◎	○			○	
14	漢　文　文　章	○		○							
15	漢　文　漢　詩	○		○	○		○				
16	漢　文　句　法	○		○				○		○	
17	漢　文　重要語	○		○				○			

評価の観点	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。	目的や場に応じて効果的に話し、また、的確に聞き取ったり話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。	相手や目的、意図に応じた適切な文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。	文章を的確に読み取ったり目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。

評価の方法

次の資料をもとに観点別評価によって総合的に評価する。

	活動の観察①（授業に対する取り組みの姿勢全般）	活動の観察②（グループ学習時の発表内容や人の意見を聞く態度）	記述の確認及び分析（ノート、ワークシート、原稿用紙等）	定期考査に対する取り組み姿勢と結果	小テストや課題確認テストに対する取り組み姿勢と結果	週末課題や長期休業中の課題に対する取り組み姿勢と成果
関心・意欲・態度	◎	○		○	○	○
話す・聞く能力		◎				
書く能力			◎			
読む能力			◎			
知識・理解				◎	◎	◎

授業計画

授　業　計　画					実　施　状　況	
	月 （時数）	単元・考査等 （配当時数）	学習のねらい	学習内容 （配当時間）	単元 実施 時数	実施反省
前期	４月	古文　物語（１０）	・助動詞、助詞や敬語について復習しながら内容を理解し、文章を読み味わう。 ・当時の宮廷の生活や文化について知り、他の文章を読む際の参考とする。	『枕草子』 頭の弁の、職に参り給ひて（６） 二月つごもりごろに（２） この草子目に見えて思ふことを（２）		
	５月	漢文　物語（６）	・句法や助字に注意しながら読み、展開や内容を正しく把握する。 ・比喩の対象を正しく把握し、登場人物の論理の不十分を読み取る。	『烈女伝』孟母断機（２） 『韓非子』不死之薬（２） 『説苑』江南橘為江北枳（２）		
		◎前期中間考査（１）				
	６月	古文　物語（１１）	・助動詞、助詞や敬語法について復習しながら内容を理解し、文章を読み味わう。 ・当時の宮廷の生活や文化も踏まえて登場人物の状況や心理を読み取る。	『源氏物語』藤壺の里下がり（６） 女三の宮の降嫁（５）		
	７月	漢文　史伝（５）	・句法や助字に注意しながら読み、展開や内容を正しく把握する。 ・史伝における登場人物の描かれ方に着目	『十八史略』進遇於赤壁（３） 三往乃見（２）		
	８月	古文　物語（８）	・既習の文応事項や知識を活用して文脈を掴み、内容を理解する。 ・物語の展開や人間関係を把握し、心情がどのように表現されているか読み取る。	『堤中納言物語』虫めづる姫君（４） 『住吉物語』初瀬の霊夢（４）		
		◎前期期末考査（１）				
	９月	古文　歴史物語（８）	・既習文応事項や知識を活用し、敬語法に留意して文脈を掴み、内容を理解する。 ・物語の時代背景、人間関係、当時の社会、文化についての理解を深める。	『大鏡』東風吹かば（４） 鶯宿梅（３） 三舟の才（１）		
後期	１０月	漢文　史伝（１２）	・訓読の決まりに従って正確に本文を読み、全体の内容を把握する。 ・登場人物の心理や性格についてそれぞれの言動から読み取り、『史記』の文章表現を読み味わう。	『史記』完璧帰趙（３） 澠池之会（３） 刎頸之交（３） 荊軻（３）		※後期より、演習を随時行うため、学習内容を多少変更することもあり得る。
	１１月	古文　評論（１２）	・既習の文応事項や知識を活用して文脈を掴み、内容を理解する。 ・それぞれの評論の構成や展開を把握し、筆者の考えに対して自分なりの意見を持	『俊頼髄脳』鷹狩りの歌（３） 『無名抄』深草の里（３） 『正徹物語』（３） 『源氏物語玉の小櫛』（３）　など		
		◎後期中間考査（１）				
	１２月	漢文　思想（４） 古文　日記（６）	・訓読の決まりに従って正確に本文を読み、論法や比喩内容、時代背景も踏まえそれぞれの文の主張を把握する。 ・既習の文法事項や知識を活用して文脈を掴み、内容を理解する。 ・当時の社会のあり方も踏まえ、筆者の立場や情を読み取る。	『孟子』『荀子』『老子』『荘子』 『列子』『韓非子』（４） 『蜻蛉日記』（３） 『和泉式部日記』（３）		
	１月	漢文　古詩（３） 漢文　文章（２）	・詩に表現されている情景や心情、表現の特色を理解し、作品を鑑賞する。 ・訓読の決まりに従って正確に本文を読み、筆者の主張を読み取る。	『白氏文集』長恨歌（３） 『唐宋八大家文読本』師説（２）		

２０１９年度　市立函館高等学校　シラバス

教　科	科　目	単位数	年次・コース	教　科　担　任
国　語	古典Ｂ （理系古典Ｂ(後半)）	2	３年次（理系）	髙市道弘・齊藤裕子・丹通史

使用教科書	高等学校　古典Ｂ　古文編［改訂版］（三省堂）	使用副教材	三省堂版準拠学習課題ノート（三省堂） 改訂版　出る順に学ぶ頻出単語４００（Ｚ会） 新総合　図説国語（東京書籍）

科　目　の　目　標	道徳教育のねらい
国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。	人間と人間との関係の中で、互いの立場や考え方を尊重し合えるような、道徳的心情や道徳的判断力を養う。

	学習活動内容	市函ＤＰ（本校で身に付けさせたい１０の資質・能力）									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		基礎力	思考力	主体的学習力	傾聴力	自己理解・自己管理力	他者理解力	計画実行力	発信・表現力	ｽﾄﾚｽｺﾝﾄﾛｰﾙ力	実践力
1	古　文　説　話	○		○							
2	古　文　随　筆	○		○							
3	古　文　物　語	○		○							
4	古　文　日　記	○		○					○		
5	古　文　軍　記	○		○	○						
6	古　文　和　歌	○		○			○				
7	古　文　評　論	○	○	○							
8	古　文　文　法	○		○				○		○	
9	古　文　文学史	○		○				○			
10	漢　文　小　話	○		○						○	
11	漢　文　史　伝	○		○							
12	漢　文　小　説	○	○	○			○				
13	漢　文　思　想	○		○		◎	○			○	
14	漢　文　文　章	○		○							
15	漢　文　漢　詩	○		○	○		○				
16	漢　文　句　法	○		○				○		○	
17	漢　文　重要語	○		○				○			

評価の観点	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。	目的や場に応じて効果的に話し、また、的確に聞き取ったり話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。	相手や目的、意図に応じた適切な文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。	文章を的確に読み取ったり目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。

評価の方法

次の資料をもとに観点別評価によって総合的に評価する。

	活動の観察①（授業に対する取り組みの姿勢全般）	活動の観察②（グループ学習時の発表内容や人の意見を聞く態度）	記述の確認及び分析（ノート、ワークシート、原稿用紙等）	定期考査に対する取り組み姿勢と結果	小テストや課題確認テストに対する取り組み姿勢と結果	週末課題や長期休業中の課題に対する取り組み姿勢と成果
関心・意欲・態度	◎	○		○	○	○
話す・聞く能力		◎				
書く能力			◎			
読む能力			◎			
知識・理解				◎	◎	◎

授業計画

授業計画					実施状況	
	月 （時数）	単元・考査等 （配当時数）	学習のねらい	学習内容 （配当時間）	単元実施時数	実施反省
前期	４月	随筆（古文）（６）	・助動詞、助詞や敬語について復習しながら文章を読み味わう。 ・当時の宮廷の生活や文化について知り、他の文章を読む際の参考とする。	『枕草子』頭の弁の～（４） 二月つごもりごろに（２）		
	５月	小話（漢文）（５）	・句法や助字に注意しながら読み、展開や内容を正しく把握する。 ・比喩の対象を正しく把握し、登場人物の論理の工夫を読み取る。	『烈女伝』孟母断機（３） 『韓非子』不死之薬（２）		
		◎前期中間考査（１）				
	６月	物語（古文）（５）	・助動詞、助詞や敬語について復習しながら文章を読み味わう。 ・当時の宮廷の生活や文化について知り、他の文章を読む際の参考とする。	『源氏物語』藤壺の里下がり（３） 女三の宮の降嫁（２）		
	７月	史伝（漢文）（４）	・句法や助字に注意しながら読み、展開や内容を正しく把握する。 ・史伝における登場人物の描かれ方に着目し、文章を読み味わう。	『十八史略』進遇於赤壁（２） 三往乃見（２）		
	８月	物語（古文）（４）	・既習の文法事項や知識を活用して文脈を掴み、内容を理解する。 ・物語の展開や人間関係を把握し、心情がどのように表現されているか読み取る。	『堤中納言物語』虫めづる姫君（２） 『住吉物語』初瀬の霊夢（２）		
		◎前期期末考査（１）				
	９月	歴史物語（古文）（５）	・既習の文法事項や知識を活用して文脈を掴み、内容を理解する。 ・物語の時代背景、人間関係、当時の社会、文化について理解を深める。	『大鏡』東風吹かば（２） 鶯宿梅（２） 三舟の才（１）		
後期	１０月	史伝（漢文）（８）	・訓読の決まりに従って正確に本文を読み、全体の内容を把握する。 ・登場人物の心理や性格についてそれぞれの言動から読み取り、『史記』の文章表現を読み味わう。	『史記』完璧帰趙（２） 澠池之会（２） 刎頸之交（２） 荊軻（２）		※後期より、演習を随時行うため、学習内容を多少変更することもあり得る。
	１１月	評論（古文）（８）	・既習の文応事項や知識を活用して文脈を掴み、内容を理解する。 ・それぞれの評論の構成や展開を把握し、筆者の考えに対して自分なりの意見を持つ。	『俊頼髄脳』鷹狩りの歌（２） 『無名抄』深草の里（２） 『正徹物語』（２） 『源氏物語玉の小櫛』（２）　など		
		◎後期中間考査（１）				
	１２月	思想（漢文）（３） 日記（古文）（５）	・訓読の決まりに従って正確に本文を読み、論法や比喩内容、時代背景も踏まえそれぞれの文の主張を把握する。 ・既習の文法事項や知識を活用して文脈を掴み、内容を理解する。	『孟子』『荀子』『老子』『荘子』『列子』『韓非子』（３） 『蜻蛉日記』（３） 『和泉式部日記』（２）		
	１月	古詩（漢文）（２） 文章（漢文）（２）	・詩に表現されている情景や心情、表現の特色を理解し、作品を鑑賞する。 ・訓読の決まりに従って正確に本文を読み、筆者の主張を読み取る。	『白氏文集』長恨歌（２） 『唐宋八大家文読本』師説（２）		

２０１９年度　市立函館高等学校　シラバス

教　科	科　目	単位数	年次・コース	教　科　担　任
国　語	国語研究Ｂ	2	３年次選択	坂　井　　淳・白　石　幸　恵

使用教科書		使用副教材	改訂版よむナビ現代文２．５修練編（いいずな書店） 改訂版よむナビ古典２．５修練編（いいずな書店）

科　目　の　目　標	道徳教育のねらい
現代文・古文・漢文の各分野の文章から読み解くための課題を自ら発見させ、その課題を解決する方法を工夫させることによって思考力を伸ばし、それぞれの文章を的確に読解する実践的な能力を高め、適切に文章で表現する能力を育てる。	人間と人間との関係の中で、互いの立場や考え方を尊重し合えるような、道徳的心情や道徳的判断力を養う。

	学習活動内容	市函ＤＰ（本校で身に付けさせたい１０の資質・能力）									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		基礎力	思考力	主体的学習力	傾聴力	自己理解・自己管理力	他者理解力	計画実行力	発信・表現力	ｽﾄﾚｽｺﾝﾄﾛｰﾙ力	実践力
1	現代文　随　筆	○		○			○				
2	現代文　評　論	○	◎	○							
3	現代文　小　説	○	○	○		◎	◎				
4	現代文　詩　歌	○		○			○		○		○
5	現代文　表　現	○	○	○	◎	○	○		◎		○
6	現代文　文学史	○		○				○			
7	現代文　語　彙	○		○				○			
8	古　文　説　話	○		○							
9	古　文　随　筆	○		○							
10	古　文　物　語	○		○							
11	古　文　日　記	○		○					○		
12	古　文　軍　記	○		○	○						
13	古　文　和　歌	○		○			○				
14	古　文　評　論	○	○	○							
15	古　文　文　法	○		○				○		○	
16	古　文　文学史	○		○				○			
17	漢　文　小　話	○		○						○	
18	漢　文　史　伝	○		○							
19	漢　文　小　説	○	○	○			○				
20	漢　文　思　想	○		○		◎	○			○	
21	漢　文　文　章	○		○							
22	漢　文　漢　詩	○		○	○		○				
23	漢　文　句　法	○		○				○		○	
24	漢　文　重要語	○		○				○			

評価の観点	関心・意欲・態度	話す･聞く能力	書く能力	読む能力	知識･理解
	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。	目的や場に応じて効果的に話し、また、的確に聞き取ったり話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。	相手や目的、意図に応じた適切な文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。	文章を的確に読み取ったり目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。

評価の方法

次の資料をもとに観点別評価によって総合的に評価する。

	活動の観察①（授業に対する取り組みの姿勢全般）	活動の観察②（グループ学習時の発表内容や人の意見を聞く態度）	記述の確認及び分析（ノート、ワークシート、原稿用紙等）	定期考査に対する取り組み姿勢と結果	小テストや課題確認テストに対する取り組み姿勢と結果	週末課題や長期休業中の課題に対する取り組み姿勢と成果
関心・意欲・態度	◎	○		○	○	○
話す・聞く能力		◎				
書く能力			◎			
読む能力			◎			
知識・理解				◎	◎	◎

授業計画

授業計画						実施状況	
	月（時数）	単元・考査等（配当時数）		学習のねらい	学習内容（配当時間）	単元実施時数	実施反省
前期		オリエンテーション	1	講座の目標や内容の確認	講座内容や目標の把握 1		
	4月	現　評論	1	話題をおさえる①	数学的思考法 1		
		古　説話	1	主題・主張をとらえる①　用言（動詞）	宇治拾遺物語 1		
		現　小説	1	心情をとらえる	親方と神様 1		
		古　文法のまとめ１	2	用言・助動詞の確認			
	5月	漢　歴史	1	内容をとらえる①　再読文字①	晋書 1		
		現　随想	1	話題をおさえる②	にっぽん虫の眼紀行 1		
		古　随筆	1	主題・主張をとらえる②　用言（形容詞・形容動詞）	徒然草 1		
		現　評論	1	接続語に注目する	哲学者クロサキの哲学する骨董 1		
		漢　文章	1	人物をおさえる①　再読文字②	世説新語 1		
		現　評論	1	段落展開をとらえる	身を養うということ 1		
	6月	古　随筆	1	設定をおさえる①　助動詞①	枕草子 1		
		前期中間考査	1				
		現　小説	1	描写の仕方に注目する	ポニーテール 1		
		漢　思想	1	話題をおさえる　否定①	韓非子 1		
		現　評論	1	内容を的確にとらえる①	センス・オブ・ワンダー 1		
		古　物語	1	設定をおさえる②　助動詞②	伊勢物語 1		
	7月	現　評論	1	内容を的確にとらえる②	意識とはなにか 1		
		漢　句形のまとめ１	2	再読文字・否定・疑問・反語の確認			
		漢　歴史	1	指示内容をとらえる①　否定②	戦国策 1		
		現　随想	1	表現に注目する	雪の音 1		
		古　随筆	1	話題をおさえる　助動詞③	玉勝間 1		
	8月	現　評論	1	指示語の指す内容をとらえる	私はどうして私なのか 1		
		漢　文章	1	人物をおさえる②　疑問・反語①	韓詩外伝 1		
		現　評論	1	主張の根拠をとらえる①	グローバリゼーションとは何か 1		
		古　日記	1	和歌をとらえる②　助動詞④	蜻蛉日記 1		
		前期期末考査	1				
		現　小説	1	心情の根拠をとらえる①	信念 1		
		漢　思想	1	理由をおさえる　疑問・反語②	孔子家語 1		
		現　評論	1	対比関係をとらえる	天文学と、純粋に知ること 1		
		古　随筆	1	主題・主張をとらえる③・助動詞⑤	花月草紙 1		
		現　評論	1	主題をとらえる	科学は誰のものか 1		
		計	34				
後期	10月	現　随想	1	心情の根拠をとらえる②	笑って死にたい 1		
		古　文法のまとめ２	2	助詞・呼応の副詞・敬語・識別・和歌			
		現　評論	1	主張の根拠をとらえる②	〈私〉時代のデモクラシー 1		
		漢　句形のまとめ２	2	使役・受身・限定・類歌比較・仮定・抑揚・漢詩			
	11月	漢　思想	1	人物をおさえる③　使役	淮南子 1		
		現　小説	1	選択肢判定…心情把握	スパイクス 1		
		古　物語	1	設定をおさえる③　助詞①	太平記 1		
		現　評論	1	空所補充	哲学のヒント 1		
		漢　歴史	1	会話部分をとらえる　受身	貞観政要 1		
		現　小説	1	表現の内容と特徴	夜の靴 1		
		古　評論	1	心情を把握する　助詞②	俊頼髄脳 1		
		現　評論	1	文整序	考えないヒト 1		
		漢　随筆	1	主題・主張をとらえる①　限定・累加	五雑組 1		
		現　小説	1	心情説明①	青果の市 1		
		古　評論	1	構成をとらえる　呼応の副詞	無名抄 1		
		現　評論	1	内容説明	正義の偽装 1		
		漢　歴史	1	構成をとらえる　比較	三朝名臣言行録 1		
	12月	現　小説	1	心情説明②	ざくろ 1		
		古　物語	1	和歌をとらえる　敬語	平中物語 1		
		漢　文章	1	主題・主張をとらえる	列仙伝 1		
		後期中間考査	1				
	1月	現　評論	1	主題説明	ことばの世界と身体 1		
		古　日記	1	表現の特徴をとらえる	紫式部日記 1		
		漢　文章	1	表現の特徴をとらえる	太平広記 1		
		計	26				

２０１９年度　市立函館高等学校　シラバス

教　科	科　目	単位数	年次・コース	教　科　担　任
国　語	国語教養	2	３年次（選択）	若林　一

使用教科書		使用副教材	自主教材（学校設定科目のため）

科　目　の　目　標	道徳教育のねらい
国語で適切に表現する能力を育成し、言語文化に対する関心を深め、社会生活を充実させるための基礎的な言語感覚を身に付ける。	人間と人間との関係の中で、互いの立場や考え方を尊重し合えるような、道徳的心情や道徳的判断力を養う。

	学習活動内容	市函ＤＰ（本校で身に付けさせたい１０の資質・能力）									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		基礎力	思考力	主体的学習力	傾聴力	自己理解・自己管理力	他者理解力	計画実行力	発信・表現力	ｽﾄﾚｽｺﾝﾄﾛｰﾙ力	実践力
1	現代文　漢　字	○		○				○			○
2	現代文　語　彙	○		○				○			
3	現代文　表　現	○		○					◎		
4	現代文　要　約	○		○							
5	古　文　文　法	○		○						○	
6	古　文　文学史	○		○				○			
7	漢　文　句　法	○		○						○	
8	漢　文　重要語	○		○				○			
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
16											
17											
18											
19											
20											
21											
22											
23											
24											

評価の観点	関心・意欲・態度	話す･聞く能力	書く能力	読む能力	知識･理解
	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。	目的や場に応じて効果的に話し、また、的確に聞き取ったり話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。	相手や目的、意図に応じた適切な文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。	文章を的確に読み取ったり目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。

評価の方法

次の資料をもとに観点別評価によって総合的に評価する。

	主体的な姿勢で授業に臨んでいる。提出物の期日を守っている。	目的に合った話し方ができる。	論理立てて自己の意見を述べることができる。	文章を読解することができる。	語彙力や国語の教養的な知識を身につけている。	
関心・意欲・態度	◎					
話す・聞く能力		◎				
書く能力			◎			
読む能力				◎		
知識・理解					◎	

国語教養　授業計画

授業計画					実施状況	
	月 （時数）	単元・考査等 （配当時数）	学習のねらい	学習内容 （配当時間）	単元実施時数	実施反省
前期	４月 （４）	漢字問題（４）	一つ一つの漢字を正確に読み、また、自分の手でしっかりと書く練習をする。	読み（２）　書き取り（２）		
	５月 ６月 （１６）	慣用表現・常識語・重要語問題（１５） 中間考査（１）	慣用句や故事成語を中心に理解・習得し文学的な文章の読解に役立てる。また、説明的な文章を読む力は語彙力が基礎となることを認識する。	二字熟語（３）　三字熟語（３） 四字熟語（３） 慣用表現意味、その他（３） 対義語・類義語（２） 外来語（１）		
	７月 （４）	文学史問題（４）	古代から現代に至る日本文学の歴史について理解する。	古典文学の流れ（２） 近現代文学の流れ（２）		
	８月 （２）	口語文法問題（２）	口語文法の知識は、文章構造の基礎となる点で見逃せないものであることを認識する。	品詞・識別（１） 表現（１）		
	９月 （８）	期末考査（１） 古文単語・常識問題（７）	古文読解の基礎となる単語と、古文を読む上で当然知っておくべき知識を習得する。	古文単語、文脈把握（３） 古文常識語（２） 和歌・俳諧の修辞（２）		
後期	１０月 １１月 （１６）	古文文法問題（１５） 中間考査（１）	正しい古文読解のために、活用のある語を基本として文法を再確認していく。	用言（３）　助動詞（５） 助詞、係り結び（１） 敬語（２）　識別（４）		
	１２月 （６）	漢文句法問題（６）	句形に基づいて、内容をきちんと把握する漢文の読み方を身に付ける。	否定、使役、受身（２） 疑問、反語、感嘆、選択（２） 仮定、比較、比況、抑揚（２）		
	１月 （４）	現代文要約問題（４）	文章の構成を意識して読むことで、筆者の主張を早く正確に読み取る。	１００字要約練習（２） ２００字要約練習（２）		

２０１９年度　市立函館高等学校　シラバス

教　科	科　目	単位数	年次・コース	教　科　担　任
地理歴史	世界史B(世界史B演習)	4	3年次・文系	根本寧紀

使用教科書	詳説世界史B（山川出版社）	使用副教材	ニューステージ世界史詳覧（浜島書店） 五訂　必携世界史用語（実教出版）

科　目　の　目　標	道徳教育のねらい
世界の歴史を、わが国の歴史と関連付けながら理解させ、文化の多様性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。	我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての理解と認識を深め，国際社会に主体的に生き平和で民主的な国家・社会を形成する日本国民として必要な自覚と資質を養う。

	学習活動内容	市函DP（本校で身に付けさせたい10の資質・能力）									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		基礎力	思考力	主体的学習力	傾聴力	自己理解・自己管理力	他者理解力	計画実行力	発信・表現力	ｽﾄﾚｽｺﾝﾄﾛｰﾙ力	実践力
1	第１章　オリエントと地中海世界	○	○	○					○		○
2	第２章　アジア・アメリカの古代文明	○	○	○					○		○
3	第３章　内陸アジア世界・東アジア世界の形	○	○	○					○		○
4	第４章　イスラーム世界の形成と発展	○	○	○					○		○
5	第５章　ヨーロッパ世界の形成と発展	○	○	○					○		○
6	第6章　内陸アジア世界・東アジア世界の展開	○	○	○					○		○
7	第7章　アジア諸地域の繁栄	○	○	○					○		○
8	第8章　近世ヨーロッパの形成	○	○	○					○		○
9	第9章　近代ヨーロッパの展開	○	○	○					○		○
10	第10章　近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立	○	○	○					○		○
11	第11章　欧米における近代国民国家の発展	○	○	○					○		○
12	第12章　アジア諸地域の動揺	○	○	○					○		○
13	第13章　帝国主義とアジアの民族運動	○	○	○					○		○
14	第14章　二つの世界大戦	○	○	○					○		○
15	第15章　冷戦と第三世界の独立	○	○	○					○		○
16	第16章　現代の世界	○	○	○					○		○
17	グループワーク		○	○	◎	○	◎		◎	○	○
18	課題提出		○	◎		○		○		◎	○
19	考査	○	○					○	◎		

	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
評価の観点	世界の歴史の大きな枠組みと流れに対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生きる国家・社会の一員としての責任を果たそうとする。	世界の歴史から課題を見いだし、文化の多様性と現代世界の特質を世界史的視野に立って多面的、多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断し、表現する。	世界の歴史についての諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに、追究し考	世界の歴史についての基本的な事柄を、日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。
評価の方法	小テストや課題、ノートや授業中の発表・発言、討議などに取り組む姿勢から、意欲的に取り組んだかを評価する。	定期考査や小テスト、課題などにより、多面的、多角的に考察し、公正に判断した過程や結果を表現できるかどうかを評価する。	定期考査や小テスト、課題などにより、諸資料を精査し、探究する方法を身に付け、その過程や結果を表現できるかどうかを評価する。	定期考査や小テスト、課題などにより、基本的な事柄を理解し、知識と関連づけを身に付けているかどうかを評価する。

世界史Ｂ（世界史Ｂ演習）　授業計画

学習指導計画					実施状況		
	月 （時数）	単元・考査等 （配当時数）	学習のねらい	学習内容 （配当時間）	単元実施時数		実施反省
前期	4月 5月 6月 7月 8月 9月	第10章　近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立(6) 第11章　欧米における近代国民国家の発展(20) 前期中間考査(1) 第12章　アジア諸地域の動揺(20) 第13章　帝国主義とアジアの民族運動(30) 前期期末考査(1)	・産業革命や独立革命、フランス革命の意義を考察する。 ・ウィーン体制の特色を理解する。 ・欧米の進出によるアジア諸地域の変化を、地図などの資料を活用して理解する。 ・帝国主義の背景や、世界分割の過程、その影響を、地図などを用いて理解する。	3　フランス革命とナポレオン(6) 1　ウィーン体制の成立(6) 2　ヨーロッパの再編と新統一国家の誕生(6) 3　南北アメリカの発展(6) 4　19世紀欧米の文化(2) 1　オスマン帝国支配の動揺西アジア地域の変容(7) 2　南アジア・東南アジアの植民地化(3) 3　東アジアの激動(10) 1　帝国主義と列強の展開(10) 2　世界分割と列強対立(10)		前期	
後期	10月 11月 12月 ～	第14章　二つの世界大戦(15) 第15章　冷戦と第三世界の独立(4) 第16章　現代の世界(4) 復習と演習(6) 後期中間考査(1) 復習と演習(12)	・二つの世界大戦について、諸資料を活用して理解し、多面的・多角的視野に立って考察する。 ・冷戦と第三勢力の動向を理解し、戦後社会の課題を考察する。 ・1980年代以降の国際社会の状況を理解するとともに、科学技術などがもたらす現代文明の問題点を考察する。 ・定着と実践的活用を図る。 ・定着と実践的活用を図る。	3　アジア諸国の改革と民族運動(10) 1　第一次世界大戦とロシア革命(3) 2　ヴェルサイユ体制下の欧米諸国(4) 3　アジア・アフリカ民族主義の進展(2) 4　世界恐慌とファシズム諸国の侵略(3) 5　第二次世界大戦(3) 1　戦後世界秩序の形成とアジア諸地域の独立(1) 2　米ソ冷戦の激化と西欧・日本の経済復興(1) 3　第三世界の台頭と米・ソの歩み寄り(1) 4　石油危機と世界経済の再編(1) 1　社会主義世界の変容とｸﾞﾛｰﾊﾞﾘｾﾞｰｼｮﾝの進展(1) 2　途上国の民主化と独裁政権の動揺(1) 3　地域紛争の激化と深刻化する貧困(1) 4　現代文明の諸特徴(1) プリントなどを用いた復習と演習（６） プリントなどを用いた復習と演習（１２）		後期	

２０１９年度　市立函館高等学校　シラバス

教　科	科　目	単位数	年次・コース	教　科　担　任
地理歴史	日本史Ｂ （日本史演習）	4	３年次	小林　　琢・榊原　伸哉

使用教科書	山川出版社　詳説日本史Ｂ　改訂版	使用副教材	第一学習社　最新日本史図表　初訂版 山川出版社　日本史用語集 山川出版社　流れがわかる日本史Ｂノート 山川出版社　詳説日本史10分間テスト　改訂版

科　目　の　目　標	道徳教育のねらい
我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察させ，我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって，歴史的思考力を培い，国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。	客観的かつ公正な資料に基づいて，事実の正確な理解に導くようにするとともに，多面的・多角的に考察し公正に判断する能力を育成するようにする。その際，核兵器などの脅威に着目させ，戦争を防止し，平和で民主的な国際社会を実現することが重要な課題であることを認識させる。

	学習活動内容	市函ＤＰ（本校で身に付けさせたい１０の資質・能力）									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		基礎力	思考力	主体的学習力	傾聴力	自己理解・自己管理力	他者理解力	計画実行力	発信・表現力	ストレスコントロール力	実践力
	第９章　近代国家の成立										
1	開国と幕末の動乱	○		○	○						
2	明治維新と富国強兵	○	○	○	○						
3	立憲国家の成立と日清戦争	○	○	○	○						
4	日露戦争と国際関係	○	○	○	○						
5	近代産業の発展	○			○						
	第１０章　二つの世界大戦とアジア										
6	第１次世界大戦と日本	○	○		○						
7	ワシントン体制	○		○							
8	市民生活の変容と大衆文化	○		○							
9	恐慌の時代	○	○	○	○						
10	軍部の台頭	○	○	○							
11	第２次世界大戦	○	○	○	○						
	第１１章　占領下の日本										
12	占領と改革	○	○		○						
13	冷戦の開始と講和	○	○	○							
	第１２章　高度成長の時代										
14	５５年体制	○	○		○						
15	経済復興から高度成長へ	○		○							
	第１３章　激動する世界と日本										
16	経済大国への道	○		○							
17	冷戦終結と日本社会の動揺	○	○								
18	グループワーク		○	○	○	○	◎		◎	○	○
19	課題提出	○	○	◎		○		○		◎	○
20	考査	○	○					○	◎		○

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
	我が国の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め，意欲的に追究するとともに，国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとする。	我が国の歴史の展開から課題を見いだし，世界史的視野に立って多面的・多角的に考察し我が国の文化と伝統の特色についての認識を深めるとともに，国際社会の変化を踏まえ公正に判断する。	我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し，有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに，追究し考察した過程や結果を適切に表現する。	我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を世界史的視野に立って総合的に理解し，その知識を身に付けている。

評価の方法

次の資料をもとに観点別評価によって総合的に評価する。

	授業での取組	課題への取組	定期考査	提出物	その他の資料	その他
関心・意欲・態度	◎	◎		◎	○	○
思考・判断	○	○	○		○	○
技能・表現	○		○	○	○	○
知識・理解	○	○	◎	○	○	○

日本史Ｂ（日本史演習）　授業計画

授業計画					実施状況	
	月 （時数）	単元・考査等 （配当時数）	学習のねらい	学習内容 （配当時間）	単元実施時数	実施反省
前期	4 5 6 7 8 9	第Ⅳ部　近代・現代 第９章　近代国家の成立 (44) 第10章　二つの世界大戦とアジア (46)	○日米和親条約・修好通商条約締結、開港による経済・社会の情勢変化に着目して、政局への影響を考察させる。公武合体、尊王攘夷、倒幕の動きに着目して、権力構造の変化を理解させる。 ○廃藩置県・徴兵制・四民平等・秩禄処分・地租改正・殖産興業政策に着目して、明治政府が中央集権体制を構築していく過程を考察させる。近代化政策や欧米文化の導入について、国民の間に受容と反発があったことを理解させる。また、武力反抗から言論による抵抗に移行する要因を考察させる。国境画定を含む明治初期の外交政策について、欧米諸国への対応とアジア諸国への対応の違いを多面的・多角的にとらえさせる。 ○国会開設要求の運動などに見られる国民の政治的関心の高揚と挫折の過程について考察させる。また、憲法の特色、議会と内閣の在り方などを通して、戦前の立憲制のしくみを理解させる。条約改正が、法典整備など国内体制の確立だけでなく、英露対立を背景にして進展した点を、年表や地図から考察できたか。また、朝鮮をめぐる対立が日清戦争の背景となった点を理解させる。 ○英露対立という世界情勢を背景とした日露戦争が軍事力・経済力・工業力など国家の総力を結集して戦われた点を考察させる。また、日本の勝利がアジア諸国の民族独立や近代化運動を刺激した反面、その後の韓国併合や満州進出の動きが国民の対外意識や近隣諸国の受け止め方への変化につながったことについても考察させる。立憲政友会の成立から桂園時代に至る過程について、軍備の拡張の視点を踏まえて考察させる。 ○殖産興業政策を基礎に産業基盤の整備が進み、繊維部門での産業革命以降、製鉄・造船などの重化学工業の形成、鉄道・海運の伸張、財閥の形成、寄生地主制の成立などを相互に関連づけて考察させる。劣悪な労働条件に対する労働争議の頻発と社会主義運動の高まり、足尾鉱毒事件などに関心を持ち、社会運動への政府の対応に着目させる。 ○国家主義的な思想の形成、実証的な学問研究の風潮、欧米の科学技術の導入、高い就学率を誇る教育の普及・拡充に着目して、国民が主体的に文化の創造に取り組んできた姿勢を考察させる。 ○第一次護憲運動による大正政変以降、政党勢力が国民統合の中心的役割を果たしていく過程を理解し、欧米からアジアに至るまで広い範囲の国際環境の推移に着目し、対華二十一カ条要求・シベリア出兵が国内外に及ぼした影響について考察させる。大戦景気に着目して、資本主義の発展による産業構造の変化や労働者の増加など社会構造の変化について考察できたか。また、米騒動や原敬内閣の成立に着目してデモクラシー思想の浸透による政党の役割と動向について考察させる。 ○ヴェルサイユ体制からワシントン体制に至る経過や日本の大陸進出に対する中国・朝鮮における民族運動の高揚に着目させる。労働争議・小作争議・女性解放運動・部落解放運動・社会主義運動など様々な社会運動が起こってきた背景に着目できたか。普選運動・護憲三派内閣の成立・治安維持法の成立などに着目して政党政治を考察させる。	１．開国と幕末の動乱(8) ２．明治維新と富国強兵(12) ３．立憲国家の成立と日清戦争(8) ４．日露戦争と国際関係(8) ５．近代産業の発展(4) ６．近代文化の発達(4) １．第一次世界大戦と日本(8) ２．ワシントン体制(6)		
後期	10 11 12	第11章　占領下の日本 (12) 第12章　高度成長の時代 (11) 第13章　激動する世界と日本 (7)	○学問・芸術・出版・マスメディアなどを具体的に取り上げ、欧米文化の関わりとその浸透度、社会風潮との関連付けに着目して考察させる。 ○戦後恐慌・金融恐慌・昭和恐慌を取り上げ、背景となる関東大震災・金解禁・世界恐慌との関連を含めて理解させる。無産政党の誕生など社会主義運動が高まる中、山東出兵や統帥権干犯問題など軍部の政治的進出を背景に協調外交から積極外交へと転換していく過程を考察させる。 ○満州事変から国際連盟の脱退に至る日本の対外政策について、五・一五事件などの国内の状況も踏まえて考察させる。管理通貨制度への移行、新興財閥の台頭、思想的転向や学問への弾圧などを踏まえ、軍部の政治関与が増大した過程を考察させる ○中国の動向など国際関係の変化、日中戦争・第二次世界大戦・太平洋戦争それぞれの性格、戦時下の経済と国民生活・文化など、様々な角度から考察させる。連合国と枢軸国の性格の違いや国民生活の犠牲のうえに成り立っていた総力戦体制などを踏まえ、日本がアジアの諸国に多大な損害を与えたことや広島・長崎への原爆投下など日本も空前の戦禍を被ったことに着目させる。 ○GHQによる諸政策が、対日占領政策に基づくとともに、日本の国民の戦争に対する反省に支えられて実施されたことに気付かせる。 ○中華人民共和国の成立、朝鮮戦争の勃発に伴う占領政策の転換として、経済面では経済安定九原則、政治面では警察予備隊の新設に着目して考察させる。サンフランシスコ平和条約の調印による日本の主権回復の意義と、安全保障をアメリカに依存する日米安保条約の締結の意味を考察させる。 ○保守合同による自由民主党の成立から経済成長を背景とした安定した保守政権の誕生に至るまでを、外交・政治・経済を踏まえて多面的・多角的に考察させる。日ソ共同宣言をはじめとするサンフランシスコ非調印国との国交交渉と、国際連合加盟の意義を理解できたか。また、その後の新安保条約・LT貿易・日韓基本条約・沖縄返還問題などを取り上げ、外交・政治の再編過程を把握させる。 ○特需景気の影響、産業構造の高度化などを踏まえ、開放経済体制のもとでの日本の動きを考察させる。耐久消費財の普及による豊かさの享受、流通網・交通網の整備、技術革新が進む一方、農村の過疎化や公害問題などの社会問題にも注目させる。 ○ベトナム戦争を遠因とするドル＝ショックや第四次中東戦争に発する石油危機による世界経済の混乱に対応するため開かれた主要先進国首脳会議が、その後の世界的な問題解決の場となったことに気付かせる。石油危機を技術革新で乗り越え、経済大国となった日本がODAなどの社会貢献や貿易摩擦・円高への対応が求められたことが考察させる。 ○冷戦終結後の東欧革命、55年体制が崩壊した政治状況、バブル経済から平成不況へと進んだ経済状況などを取りあげ考察させる。原子力に対する安全性、国連平和維持活動への対応、経済不況に対する国内改革など、具体的な例をもとに理解させる。	３．市民生活の変容と大衆文化(2) ４．恐慌の時代(10) ５．軍部の台頭(10) ６．第二次世界大戦(10) １．占領と改革(5) ２．冷戦の開始と講和(7) １．55年体制(7) ２．経済復興から高度成長へ(4) １．経済大国への道(4) ２．冷戦終結と日本社会の動揺(3)		

２０１９年度　市立函館高等学校　シラバス

教　科	科　目	単位数	年次・コース	教　科　担　任
地理歴史	日本史Ｂ (日本史理系後半)	2	３年次	小林　　琢

使用教科書	山川出版社　詳説日本史Ｂ　改訂版	使用副教材	第一学習社　最新日本史図表　初訂版 啓隆社　　新日本史要点ノート(標準編) 山川出版社　日本史用語集 山川出版社　流れがわかる日本史Ｂノート 山川出版社　詳説日本史10分間テスト　改訂版

科　目　の　目　標	道徳教育のねらい
我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察させ，我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって，歴史的思考力を培い，国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。	客観的かつ公正な資料に基づいて，事実の正確な理解に導くようにするとともに，多面的・多角的に考察し公正に判断する能力を育成するようにする。その際，核兵器などの脅威に着目させ，戦争を防止し，平和で民主的な国際社会を実現することが重要な課題であることを認識させる。

	学習活動内容	市函ＤＰ（本校で身に付けさせたい１０の資質・能力）									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		基礎力	思考力	主体的学習力	傾聴力	自己理解・自己管理力	他者理解力	計画実行力	発信・表現力	ストレスコントロール力	実践力
	第９章　近代国家の成立										
1	開国と幕末の動乱	○		○	○						
2	明治維新と富国強兵	○	○	○	○						
3	立憲国家の成立と日清戦争	○	○	○	○						
4	日露戦争と国際関係	○	○	○	○						
5	近代産業の発展	○			○						
	第１０章　二つの世界大戦とアジア										
6	第１次世界大戦と日本	○	○		○						
7	ワシントン体制	○		○							
8	市民生活の変容と大衆文化	○		○							
9	恐慌の時代	○	○	○	○						
10	軍部の台頭	○	○	○							
11	第２次世界大戦	○	○	○	○						
	第１１章　占領下の日本										
12	占領と改革	○	○		○						
13	冷戦の開始と講和	○	○	○							
	第１２章　高度成長の時代										
14	５５年体制	○	○		○						
15	経済復興から高度成長へ	○		○							
	第１３章　激動する世界と日本										
16	経済大国への道	○		○							
17	冷戦終結と日本社会の動揺	○	○								
18	グループワーク		○	○	○	○	◎		◎	○	○
19	課題提出	○	○	◎		○		○		◎	○
20	考査	○	○					○	◎		○

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
	我が国の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め，意欲的に追究するとともに，国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとする。	我が国の歴史の展開から課題を見いだし，世界史的視野に立って多面的・多角的に考察し我が国の文化と伝統の特色についての認識を深めるとともに，国際社会の変化を踏まえ公正に判断する。	我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し，有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに，追究し考察した過程や結果を適切に表現する。	我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を世界史的視野に立って総合的に理解し，その知識を身に付けている。

評価の方法

次の資料をもとに観点別評価によって総合的に評価する。

	授業での取組	課題への取組	定期考査	提出物	その他の資料	その他
関心・意欲・態度	◎	◎		◎	○	○
思考・判断	○	○	○		○	○
技能・表現	○		○	○	○	○
知識・理解	○	○	◎	○	○	○

日本史Ｂ（日本史演習）　授業計画

授業計画					実施状況	
	月 （時数）	単元・考査等 （配当時数）	学習のねらい	学習内容 （配当時間）	単元実施時数	実施反省
前期	4 5 6 7 8 9	第Ⅳ部　近代・現代 第９章　近代国家の成立 (22) 第10章　二つの世界大戦とアジア (23)	○日米和親条約・修好通商条約締結、開港による経済・社会の情勢変化に着目して、政局への影響を考察させる。公武合体、尊王攘夷、倒幕の動きに着目して、権力構造の変化を理解させる。 ○廃藩置県・徴兵制・四民平等・秩禄処分・地租改正・殖産興業政策に着目して、明治政府が中央集権体制を構築していく過程を考察させる。近代化政策や欧米文化の導入について、国民の間に受容と反発があったことを理解させる。また、武力反抗から言論による抵抗に移行する要因を考察させる。国境画定を含む明治初期の外交政策について、欧米諸国への対応とアジア諸国への対応の違いを多面的・多角的にとらえさせる。 ○国会開設要求の運動などに見られる国民の政治的関心の高揚と挫折の過程について考察させる。また、憲法の特色、議会と内閣の在り方などを通して、戦前の立憲制のしくみを理解させる。条約改正が、法典整備など国内体制の確立だけでなく、英露対立を背景にして進展した点を、年表や地図から考察できたか。また、朝鮮をめぐる対立が日清戦争の背景となった点を理解させる。 ○英露対立という世界情勢を背景とした日露戦争が軍事力・経済力・工業力など国家の総力を結集して戦われた点を考察させる。また、日本の勝利がアジア諸国の民族独立や近代化運動を刺激した反面、その後の韓国併合や満州進出の動きが国民の対外意識や近隣諸国の受け止め方への変化につながったことについても考察させる。立憲政友会の成立から桂園時代に至る過程について、軍備の拡張の視点を踏まえて考察させる。 ○殖産興業政策を基礎に産業基盤の整備が進み、繊維部門での産業革命以降、製鉄・造船などの重化学工業の形成、鉄道・海運の伸張、財閥の形成、寄生地主制の成立などを相互に関連づけて考察させる。劣悪な労働条件に対する労働争議の頻発と社会主義運動の高まり、足尾鉱毒事件などに関心を持ち、社会運動への政府の対応に着目させる。 ○国家主義的な思想の形成、実証的な学問研究の風潮、欧米の科学技術の導入、高い就学率を誇る教育の普及・拡充に着目して、国民が主体的に文化の創造に取り組んできた姿勢を考察させる。 ○第一次護憲運動による大正政変以降、政党勢力が国民統合の中心的役割を果たしていく過程を理解し、欧米からアジアに至るまで広い範囲の国際環境の推移に着目し、対華二十一カ条要求・シベリア出兵が国内外に及ぼした影響について考察させる。大戦景気に着目して、資本主義の発展による産業構造の変化や労働者の増加など社会構造の変化について考察できたか。また、米騒動や原敬内閣の成立に着目してデモクラシー思想の浸透による政党の役割と動向について考察させる。 ○ヴェルサイユ体制からワシントン体制に至る経過や日本の大陸進出に対する中国・朝鮮における民族運動の高揚に着目させる。労働争議・小作争議・女性解放運動・部落解放運動・社会主義運動など様々な社会運動が起こってきた背景に着目できたか。普選運動・護憲三派内閣の成立・治安維持法の成立などに着目して政党政治を考察させる。	１．開国と幕末の動乱(4) ２．明治維新と富国強兵(6) ３．立憲国家の成立と日清戦争(4) ４．日露戦争と国際関係(4) ５．近代産業の発展(2) ６．近代文化の発達(2) １．第一次世界大戦と日本(4) ２．ワシントン体制(3)		
後期	10 11 12	第11章　占領下の日本 (6) 第12章　高度成長の時代 (5) 第13章　激動する世界と日本 (4)	○学問・芸術・出版・マスメディアなどを具体的に取り上げ、欧米文化の関わりとその浸透度、社会風潮との関連付けに着目して考察させる。 ○戦後恐慌・金融恐慌・昭和恐慌を取り上げ、背景となる関東大震災・金解禁・世界恐慌との関連を含めて理解させる。無産政党の誕生など社会主義運動が高まる中、山東出兵や統帥権干犯問題など軍部の政治的進出を背景に協調外交から積極外交へと転換していく過程を考察させる。 ○満州事変から国際連盟の脱退に至る日本の対外政策について、五・一五事件などの国内の状況も踏まえて考察させる。管理通貨制度への移行、新興財閥の台頭、思想的転向や学問への弾圧などを踏まえ、軍部の政治関与が増大した過程を考察させる ○中国の動向など国際関係の変化、日中戦争・第二次世界大戦・太平洋戦争それぞれの性格、戦時下の経済と国民生活・文化など、様々な角度から考察させる。連合国と枢軸国の性格の違いや国民生活の犠牲のうえに成り立っていた総力戦体制などを踏まえ、日本がアジアの諸国に多大な損害を与えたことや広島・長崎への原爆投下など日本も空前の戦禍を被ったことに着目させる。 ○GHQによる諸政策が、対日占領政策に基づくとともに、日本の国民の戦争に対する反省に支えられて実施されたことに気付かせる。 ○中華人民共和国の成立、朝鮮戦争の勃発に伴う占領政策の転換として、経済面では経済安定九原則、政治面では警察予備隊の新設に着目して考察させる。サンフランシスコ平和条約の調印による日本の主権回復の意義と、安全保障をアメリカに依存する日米安保条約の締結の意味を考察させる。 ○保守合同による自由民主党の成立から経済成長を背景とした安定した保守政権の誕生に至るまでを、外交・政治・経済を踏まえて多面的・多角的に考察させる。日ソ共同宣言をはじめとするサンフランシスコ非調印国との国交交渉と、国際連合加盟の意義を理解できたか。また、その後の新安保条約・LT貿易・日韓基本条約・沖縄返還問題などを取り上げ、外交・政治の再編過程を把握させる。 ○特需景気の影響、産業構造の高度化などを踏まえ、開放経済体制のもとでの日本の動きを考察させる。耐久消費財の普及による豊かさの享受、流通網・交通網の整備、技術革新が進む一方、農村の過疎化や公害問題などの社会問題にも注目させる。 ○ベトナム戦争を遠因とするドル＝ショックや第四次中東戦争に発する石油危機による世界経済の混乱に対応するため開かれた主要先進国首脳会議が、その後の世界的な問題解決の場となったことに気付かせる。石油危機を技術革新で乗り越え、経済大国となった日本がODAなどの社会貢献や貿易摩擦・円高への対応が求められたことが考察させる。 ○冷戦終結後の東欧革命、55年体制が崩壊した政治状況、バブル経済から平成不況へと進んだ経済状況などを取りあげ考察させる。原子力に対する安全性、国連平和維持活動への対応、経済不況に対する国内改革など、具体的な例をもとに理解させる。	３．市民生活の変容と大衆文化(1) ４．恐慌の時代(5) ５．軍部の台頭(5) ６．第二次世界大戦(5) １．占領と改革(3) ２．冷戦の開始と講和(3) １．55年体制(3) ２．経済復興から高度成長へ(2) １．経済大国への道(2) ２．冷戦終結と日本社会の動揺(2)		

２０１９年度　市立函館高等学校　シラバス

教　科	科　目	単位数	年次・コース	教　科　担　任
地理歴史	地理Ｂ	2	３年次・理系	大山　元司

使用教科書	新詳地理Ｂ（帝国書院）	使用副教材	詳解現代地図（二宮書店） フォトグラフィア地理図説（とうほう）

科　目　の　目　標	道徳教育のねらい
現代世界の地理的事象を系統地理的に，現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し，現代世界の地理的認識を養うとともに，地理的な見方や考え方を培い，国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。	地域・社会・世界に対する認識を深め、社会の一員としての必要な自覚を養う。

	学習活動内容	市函ＤＰ（本校で身に付けさせたい１０の資質・能力）									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		基礎力	思考力	主体的学習力	傾聴力	自己理解・自己管理力	他者理解力	計画実行力	発信・表現力	ｽﾄﾚｽｺﾝﾄﾛｰﾙ力	実践力
	第Ⅱ部　現代世界の系統地理的考察										
1	３章　人口、村落・都市	○	○	○					○		○
2	４章　生活文化、民族・宗教	○	○	○					○		○
	第Ⅲ部　現代世界の地誌的考察										
3	１章　現代世界の地域区分	○									
4	２章　現代世界の諸地域	○	○								○
5	３章　現代世界と日本		○	○							
6	グループワーク		○	○	○	○	◎		◎	○	○
7	課題提出		○	◎		○		○		◎	○
8	考査	○	○					○	◎		

	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
評価の観点	現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、国際社会に主体的に生きる日本国民としての責任を果たそうとする。	現代世界の地理的事象から課題を見いだし、それを系統地理的に考察したり、歴史的背景を踏まえて地誌的に考察したりし、国際社会の変化を踏まえて公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。
評価の方法	小テストや課題、ノートや授業中の発表・発言、討議などに取り組む姿勢から、意欲的に取り組んだかを評価する。	定期考査や小テスト、課題などにより、系統地理的、地誌的に考察し、判断した過程や結果を表現できるかどうかを評価する。	定期考査や小テスト、課題などにより、地図や統計、画像などの資料を活用して情報を得て、まとめることができるかどうかを評価する。	定期考査や小テスト、課題などにより、基本的な事柄を理解し、知識を身に付けているかどうかを評価する。

地理理系後半　授業計画

授業計画					実施状況	
	月 （時数）	単元・考査等 （配当時数）	学習のねらい	学習内容 （配当時間）	単元実施時数	実施反省
前期	4月 5月 6月 7月 8月 9月	第Ⅱ部　現代世界の系統地理的考察 3章　人口、村落・都市(10) 4章　生活文化、民族・宗教(9) 前期中間考査(1) 第Ⅲ部　現代世界の地誌的考察 1章　現代世界の地域区分(0.7) 2章　現代世界の諸地域(35.3) 前期期末考査(1)	・グラフなどの資料を読み取り、世界及び日本の人口問題について考察し表現する。 ・資料を活用して都市や村落について理解し、都市・居住問題の解決について考察し結果をまとめる。 ・文化や民族の特徴や分布について理解する。 ・現代世界の民族・領土問題の現状について理解し、課題を考察する。 ・多様な観点から、地域区分や地誌の考察ができることを理解する。 ・中国や朝鮮半島について、自然や産業、隣国との交流などの観点から考察する。 ・東南アジア・南アジアについて、自然や産業、宗教などの多様な事象を項目ごとに整理して考察する。 ・西アジアと中央アジアについて、自然や文化、資源・産業などの面において類似的な二つの地域を比較して考察する。	1節　世界の人口(1.5) 2節　人口問題(1.5) 3節　村落と都市(4) 4節　都市・居住問題(3) 1節　世界の衣食住(2) 2節　民族と宗教(2) 3節　現代世界の国家(1) 4節　民族・領土問題(4) 1節　地域区分とは何か(0.7) 1節　地域の考察方法(0.3) 2節　東アジア(5) 3節　東南アジア(4) 4節　南アジア(2.5) 5節　西アジアと中央アジア(3)		
後期	10月 11月 12月 1月	後期中間考査(1) 3章　現代世界と日本(2)	・北アフリカとサハラ以南のアフリカについて、自然や歴史的背景などの観点から二つの地域を比較して考察する。 ・ヨーロッパについて、自然や産業、EUなどの事象を項目ごとに整理して考察する。 ・ロシアについて、産業などの項目を歴史的背景や日本との交流に着目して考察する。 ・アングロアメリカについて、自然や産業、国際社会との関係に留意して考察する。 ・ラテンアメリカとオセアニアについて、文化や産業などの事象を歴史的背景と関連づけて考察する。 ・現代世界における日本について、多面的・多角的に考察し、日本が抱える地理的な諸課題の解決の方向性や将来の日本のあり方などについてまとめる。	6節　北アフリカとサハラ以南のアフリカ(2.5) 7節　ヨーロッパ(5) 8節　ロシア(2.5) 9節　アングロアメリカ(5) 10節　ラテンアメリカ(3) 11節　オセアニア(2.5) 1節　日本が抱える地理的な諸課題(0.3) 2節　日本の抱える課題の追究(1.7)		

２０１９年度　市立函館高等学校　シラバス

教　科	科　目	単位数	年次・コース	教　科　担　任
公民	現代社会	2	３年次	小笠原めるも・上村　恵理

使用教科書	現代社会（東京書籍）	使用副教材	ニューコンパスノート　政治・経済（とうほう）

科　目　の　目　標	道徳教育のねらい
人間の尊重と科学的な探求の精神に基づいて，広い視野に立って，現代の社会と人間についての理解を深めさせ，現代社会の基本的な問題について主体的に考察し公正に判断するとともに自らの人間としての在り方生き方について考察する力の基礎を養い，良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。	卒業後に実社会で生活していく上で必要な知識、教養を身につけさせ、政治面や経済面、あるいは国際関係などの面で人間としての在り方や生き方を考えていく。

	学習活動内容	市函ＤＰ（本校で身に付けさせたい１０の資質・能力）									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		基礎力	思考力	主体的学習力	傾聴力	自己理解・自己管理力	他者理解力	計画実行力	発信・表現力	ストレスコントロール力	実践力
	第１部　わたしたちの生きる社会	○	○	○							
1	第2部　現代の社会と人間	○	○	○					○		○
2	第1章　青年期と自己形成の課題	○	○	○		○	○		○	○	○
3	第2章　日本国憲法と民主政治	○	○	○					○		○
4	第3章　現代社会と法	○	○	○					○		○
5	第4章　現代の経済と国民福祉	○	○	○					○		○
6	第5章　国際社会と人類の課題	○	○	○							
7	第3部　ともに生きる社会を目指して		○	○	○	○	○		○		○
10	グループワーク		◎	○	◎	○	◎		◎	○	○
11	課題提出		○	◎		○		○		○	○
12	考査	◎	○					○	◎		○

	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
評価の観点	現代社会の基本的問題に対する関心を高め，意欲的に課題を追究するとともに，社会的事象を総合的に考えようとする態度と民主的・平和的なよりよい社会の実現に向けて参加，協力する態度を身に付け，現代社会に生きる人間としての在り	現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄から課題を見いだし，社会的事象の本質や人間としての在り方生き方について広い視野に立って多面的・多角的に考察するとともに，社会の変化や様々な立場，考え方を踏まえ公正に判断し，そ	現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し，有用な情報を主体的に選択し活用して学び方を身に付ける。	現代社会の基本的問題と人間としての在り方生き方にかかわる基本的な事柄や，学び方を理解し，その知識を身に付けている。
評価の方法	課題、ノートや授業中の発表・発言、討議などに取り組む姿勢全般において、意欲的に取り組んだかを評価する。	授業中の発表・発言、討議などに取り組む姿勢、及び定期考査から、思考・判断した過程や結果を表現できるかどうかを評価する。	定期考査や課題などにより、資料などを活用して情報を得て、まとめることができるかどうかを評価する。	定期考査などにより、基本的な事柄を理解し、知識を身に付けているかどうかを評価する。

現代社会　授業計画

授業計画					実施状況	
	月 （時数）	単元・考査等 （配当時数）	学習のねらい	学習内容 （配当時間）	単元 実施 時数	実施反省
前期	4月 5月 6月 7月 8月 9月	第1部　わたしたちの生きる社会 (4) 1　地球環境問題 2資源・エネルギー問題 3科学技術の発達と生命 4情報化の進展と生活 第2部　現代の社会と人間　(9) 第1章　青年期と自己形成の課題 1　青年期の自己の形成 2　よりよく生きることを求めて 第2章　日本国憲法と民主政治（17） 1　民主政治とは （前期中間考査） 2　日本国憲法の基本原理 3　日本の政治機構 4　現代政治の特質と課題 第3章　現代社会と法 （前期期末考査）	・地球環境問題の現状について把握させるとともに、これらの問題は自分たちにとって身近な問題であることに気づかせる。 ・資源・エネルギーの利用において国家間の利害が衝突している現状を認識させる。とくにエネルギー問題にあっては、国内の情勢だけでなく国際的な動向にも注目させ、原子力や新エネルギーによる発電がどうあるべきか考察させる。 ・人類の福祉という観点から、科学技術はどのように利用されるべきかを考察させる。 ・情報化社会における課題を踏まえたうえで、情報化社会に生きるためのモラルやルールについてどのような規制や法整備によって調整を行っていくべきか考えさせる。 ・世界の主な国の政治体制を比較しながら理解させるとともに望ましい政治や主権者としての参政の在り方について考えさせる。 ・自己理解を進め，自己形成の課題を考察し，勤労観・職業観を含め，どのように社会参加を果たしていくのか，など自らの人間としての在り方生き方について考察する ・日本国憲法の基本原則と政治機構、民主政治における世論形成と政治参加の意義などを理解させ、民主政治において主体的に生きる人間としての在り方生き方を考えさせる。 ・議会制民主主義と権力分立について、その意義や多数決の原理と運用方法などについて理解させるとともに、民主政治の権力分立の意義を法の支配や基本的人権の保障と関連づけて理解を深めさせる。 ・民主政治のもとでは、国家の行為に対して最終的には国民自らが責任をもつことになるということを理解させる。 ・法に関する基本的な考え方を身に付けさせる。	1. 破壊される地球　(4) 2. エネルギーの開発と利用 3. 現代科学が問う生死のあり方 4. 高度情報化社会と情報倫理 1. 青年期とは　(3) 2. 自己形成の課題 3. 職業生活と社会参加 1. 哲学と人間　(5) 2. 宗教と人間 3. 科学と人間 4. 古代日本人の思想 6. 外来思想の受容と伝統 1. 民主政治の基本原理　(4) 2. 法の支配と法の意義・役割 3. 民主政治のしくみと課題 4. 世界のおもな政治制度 1. 日本国憲法の制定　(6) 2. 自由に生きる権利 3. 平等に生きる権利 4. 社会権と参政権・請求権 5. 人権のひろがりと公共の福祉 6. 平和主義とわが国の安全 1. 政治機構と国会　(6) 2. 行政権と行政機能の拡大 3. 公正な裁判の保障 4. 地方自治と住民福祉 5. 政党政治と選挙制度		
後期	10月 11月 12月 1月	第4章　現代の経済と国民福祉 (17) 1　経済のしくみ 2　変化する日本経済 3豊かな生活の実現 第5章　国際社会と人類の課題 (13) 1 国際政治のしくみと動向 （後期中間考査） 2　国際経済のしくみと動向 3　国際社会の現状と課題 第3部　ともに生きる社会をめざして	・激動する経済社会について、様々な角度から理解を深めさせ、個人や企業の経済活動における社会的責任について考察させる。 ・金融の意義や役割を理解させるとともに、金融政策の目的と手段について理解させる。 ・新聞記事を題材にし、現実の動きと関連させて説明する。 ・政治・経済の学習内容と関連させる。 ・都市型・生活型公害や身近な環境汚染の事例をもとに、その解決には法整備だけではなく、個人や企業にも社会的な責任が課されていることに気づかせる。 ・近年の雇用や労働の動向を、経済社会の変化や国民の勤労権の確保の観点から考察させる。 ・人間として生活が保障される社会保障制度の意義や役割を理解させるとともに、医療・介護・年金などの保険制度にみられる現状と課題を理解させる。 ・国際法の意義について理解する。 ・国際連合の目的，平和と安全を維持する組織構成や取り組みを理解する。 ・第二次世界大戦以降の国際政治体制を理解し，その課題を考察する。 ・核軍拡競争の背景と核軍備管理と軍縮実現の方法を考察する。 ・人種・民族問題の背景と国際的な人権保障の現状を理解し，人権問題の解決について考察する ・貿易に関する基本的立場の違いを確認し，国際収支表，外国為替市場を理解する。 ・第二次世界大戦後の国際経済を概観し，理解する。 ・地域経済統合の目的やグローバル化する世界経済の現状を理解し，国際経済に与える影響や課題を考察する。 ・国際社会における貧困や格差について理解するとともに，先進国日本の国際社会で果たすべき役割について考察する。	1. 経済社会の変容　(8) 2. 市場のしくみ 3. 現代の企業 4. 国民所得 5. 経済成長と国民の福祉 6. 金融の役割 7. 日本銀行の役割 8. 財政の役割と租税 9. 日本の財政の課題 1. 日本経済のあゆみ（1）　(8) 2. 日本経済のあゆみ（2） 3. 中小企業と農業 4. 消費者問題 5. 公害の防止と環境保全 6. 労働問題と労働者の権利 7. こんにちの労働問題 8. 社会保障の役割 1. 国際社会の特質　(5) 2. 国際紛争をさけるしくみ 3. 国際連合と安全保障 4. 冷戦とその後の世界 5. 軍縮へのとりくみ 1. 貿易と国際分業　(4) 2. 外国為替のしくみと国際収支 3. 戦後国際経済の枠組みとその変化 4. グローバル化する経済 1. 地域統合の進展　(4) 2. 変容する世界経済 3. 国際的な格差の是正 4. 地域紛争と難民問題		

２０１９年度　市立函館高等学校　シラバス

教　科	科　目	単位数	年次・コース	教　科　担　任
公民	倫理	2	3年次	根本寧紀

使用教科書	清水書院「高等学校　新倫理　新訂版」	使用副教材	第一学習社 「テオーリア　最新倫理資料集新版初訂」

科　目　の　目　標	道徳教育のねらい
青年期における自己形成や人間としてのあり方・生き方などに関わる基本的な事項を生きる主体としての自己確立の課題と関連づけて理解し、人格形成に活かす知識として身につける。	社会のあり方を考察する基準としての正義・幸福・構成の理解を通して現代社会の課題を取り上げ、人間のあり方・生き方について理解させる。

	学習活動内容	市函DP（本校で身に付けさせたい10の資質・能力）									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		基礎力	思考力	主体的学習力	傾聴力	自己理解・自己管理力	他者理解力	計画実行力	発信・表現力	ｽﾄﾚｽｺﾝﾄﾛｰﾙ力	実践力
1	第１編　現代に生きる自己の課題	○	○	○					○		○
	第２編　人間としての自覚と生き方										
2	第１章　人生における哲学	○	○	○					○		○
3	第２章　人生における宗教	○	○	○					○		○
4	第３章　人生の知恵	○	○	○					○		○
5	第４章　人生における芸術	○	○	○					○		○
	第３編　現代社会と倫理										
6	第１章　現代の倫理的課題	○	○	○					○		○
7	第２章　現代に生きる人間の倫理	○	○	○					○		○
	第４編　国際社会に生きる日本人の自覚										
8	第1章　日本の風土と外来思想の受容	○	○	○					○		○
9	第2章　現代の日本と日本人としての自覚	○	○	○					○		○
10	第5編　現代の諸課題と倫理	○	○	○					○		○
11	復習と演習	○	○	○							○
12	グループワーク		○	○	◎	○	◎		◎	○	○
13	課題提出		○	◎		○		○		◎	○
14	考査	○	○					○	◎		

	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
評価の観点	青年期の課題、宗教や哲学などの人類の英知、現代社会の諸問題についての関心を高め、人間のあり方・生き方について自覚を深め、人格形成への実践的意欲を高める。	青年期の自己形成と人間としてのあり方・生き方について思考を深め、広い視野から主体的に判断し、表現する。	さまざまな宗教・哲学に関する資料や現代社会の諸問題に関する資料を主体的に収集・選択し、考察した内容について適切な表現をする。	青年期の課題、宗教や哲学などの人類の英知、現代社会の諸問題についての知識を身につけ、人間としてのあり方・生き方について理解を深める（含、問題演習）。
評価の方法	小テストや課題、ノートや授業中の発表・発言、討議などに取り組む姿勢から、意欲的に取り組んだかを評価する。	定期考査や小テスト、課題などにより、自己形成と生き方について広い視野から主体的に判断し、表現できるかどうかを評価する。	定期考査や小テスト、課題などにより、情報の収集・分析・精査する力を活用できるかどうか、またそれを適切に表現できるかどうかを評価す	定期考査や小テスト、課題などにより、基本的な事柄を理解し、知識を身に付け、人間としてのあり方について理解を深めたかどうかを評価する。

倫理　授業計画

学習指導計画					実施状況		
	月 （時数）	単元・考査等 （配当時数）	学習のねらい	学習内容 （配当時間）	単元実施時数		実施反省
前期	4月 5月 6月 7月	第1編　現代に生きる自己の課題(2) 第2編　人間としての自覚と生き方 第1章　人生における哲学（6） 第2章　人生における宗教（6） （前期中間考査(1)） 第3章　人生の知恵（5） 第4章　人生における芸術（1）	青年期特有の問題をふまえ、人間としてのあり方・生き方について考える。 ・さまざまな地域と時代を代表する先哲の思想を学び、人間としての自覚を深め、自らの人間観の確立に役立てる。	青年期の意義と自己形成（1） 青年期の課題と生き方（1） 古代ギリシア思想（5） ヘレニズムの思想（1） ユダヤ教・キリスト教（3） イスラーム（1） 仏教（2） 中国思想（5） 芸術と人生（1）		前期	
	8月 9月	第3編　現代社会と倫理 第1章　現代の倫理的課題（1） 第2章　現代に生きる人間の倫理（16） （前期期末考査(1)）	・現代の倫理的課題をとらえさえ、今日に生きる人間の課題について理解させる。人間の尊厳、自然や科学技術と人間とのかかわり、民主社会における人間の在り方、自己実現と幸福などについて、他者とともに生きる自己の生き方の課題として考えさせる。	「近代」とは何か（1） ルネサンス・宗教改革・モラリストの思想（3） 経験論・合理論（2） 社会契約説・啓蒙思想（2） 観念論・功利主義・プラグマティズム（3） 社会主義・実存主義（3） 現代のヒューマニズム（1） 現代思想（2）			
後期	10月 11月 12月 ～	第4編　国際社会に生きる日本人の自覚 第1章　日本の風土と外来思想の受容（15） （後期中間考査(1)） 第2章　現代の日本と日本人としての自覚（1）	日本文化の特質について自己との関わりにおいて理解させ、国際社会における日本人としての在り方生き方についての自覚を深めさせる。 ・他の国々の文化や考え方を理解し、尊重する態度を養うとともに、日本の文化が外来文化を受容しながら形成された面に留意する。	日本の風土と日本人の世界観（2） 仏教（4） 儒教（4） 近世の思想と文化（1） 国学（2） 近代日本の思想（2） 現代日本の思想（1）		後期	
		第5編　現代の諸課題と倫理（3）	人類のさまざまな倫理的課題を自己の課題とつなげて追求させる。	生命倫理・環境倫理（1） 家族・地域社会・情報社会（1） 異文化理解（1）			
		（復習と演習(1)）	要点整理	プリントなどを用いた要点整理（1）			

２０１９年度　市立函館高等学校　シラバス

教　科	科　目	単位数	年次・コース	教　科　担　任
公民	政治･経済	2	３年次	上村　恵理

使用教科書	高校政治・経済　新訂版（実教出版）	使用副教材	政治･経済資料２０１９（とうほう）

科　目　の　目　標	道徳教育のねらい
広い視野に立って，民主主義の本質に関する理解を深めさせ，現代における政治，経済，国際関係などについて客観的に理解させるとともに，それらに関する諸課題について主体的に考察させ，公正な判断力を養い，良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。	卒業後に実社会で生活していく上で必要な知識、教養を身につけさせ、政治面や経済面、あるいは国際関係などの面で人間としての在り方や生き方を考えていく。

	学習活動内容	市函ＤＰ（本校で身に付けさせたい１０の資質・能力）									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		基礎力	思考力	主体的学習力	傾聴力	自己理解･自己管理力	他者理解力	計画実行力	発信･表現力	ｽﾄﾚｽｺﾝﾄﾛｰﾙ力	実践力
	第１編　現代の政治										
1	１章　民主政治の基本原理	○	○	○					○		○
2	２章　日本国憲法の基本的性格	○	○	○					○		○
3	３章　日本の政治機構	○	○	○					○		○
4	４章　現代日本の政治	○	○	○					○		○
5	５章　現代の国際政治	○	○	○					○		○
	第２編　現代の経済										
6	１章　経済社会の変容	○	○	○					○		○
7	２章　現代経済のしくみ	○	○	○					○		○
8	３章　現代経済と福祉の向上	○	○	○					○		○
9	４章　世界経済と日本	○	○	○					○		○
	第３編　現代社会の諸課題		○	○	○		○		○		○
10	グループワーク		◎	○	◎	○	◎		◎	○	○
11	課題提出		○	◎		○		○		◎	○
12	考査	◎	○					○	◎		○

	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
評価の観点	現代の政治経済や国際関係についての関心を高め、それぞれの課題を意欲的に追求するとともに、客観的に考えようとする態度や姿勢が身についたか。	現代の政治経済や国際関係に関わる事象から課題を見いだし、その課題の本質や望ましい解決のあり方などについて、広い視野に立って多角的かつ多面的に考察し、様々な立場を踏まえて公正に判断してい	現代の政治経済や国際関係に関わる諸資料を様々な手段を通して収集し、集めた情報を主体的に選択し、有用に活用できているか。	現代の政治経済や国際関係に関する基本的な事柄や理論などを理解し、その知識を身につけることができたか。
評価の方法	小テストや課題、ノートや授業中の発表･発言、討議などに取り組む姿勢全般において、意欲的に取り組んだかを評価する。	授業中の発表･発言、討議などに取り組む姿勢、及び定期考査から、思考･判断した過程や結果を表現できるかどうかを評価する。	定期考査や小テスト、課題などにより、資料などを活用して情報を得て、まとめることができるかどうかを評価する。	定期考査や小テストなどにより、基本的な事柄を理解し、知識を身に付けているかどうかを評価する。

政治・経済　授業計画

授業計画						実施状況
	月 （時数）	単元・考査等 （配当時数）	学習のねらい	学習内容 （配当時間）		
前期	4月	オリエンテーション 第1編　現代の政治 1章　民主政治の基本原理 5 2章　日本国憲法の基本的性格 5	・民主政治の成り立ちとしくみを理解する ・日本国憲法の成立、平和主義、基本的人権の保障の内容を学習し、今日における日本国憲法の意義を理解する。	1　政治と法 5 2　民主政治と人権保障の発展 3　国民主権と民主主義の発展 4　世界の政治体制 1　日本国憲法の成立 5 2　平和主義 3　基本的人権の保障 4　人権のひろがり		
	5月	3章　日本の政治機構 5	・国会、内閣、裁判所、地方自治のしくみを学習し、民主主義がどのように実現されているのかを理解し、他の国と比べて今後の課題とは何かを考える。	1　立法　2　行政 4 3　司法　4　地方自治		
		4章　現代日本の政治　2 前期中間考査(1)	・戦後政治の流れを学習し、日本の政治が抱える問題点等について考える。主権者として望ましいあり方を学習する。	1　戦後政治の歩み 3 2　選挙制度と政党 3　政治参加と世論		
	6月	5章　現代の国際政治　6	・国際政治と国際法の意義、核軍縮や管理について学習し、国際政治と日本の関係について考える。	1　国際政治の特質と国際法 6 2　国際連合と国際協力 3　現代国際政治の動向 4　核兵器と軍縮 5　国際紛争と難民 6　国際政治と日本		
	7月					
	8月	第3編　現代社会の諸課題 2	・教科書にある1～10の課題の中から複数を選択し、代表的な考えを比べた上で望ましい解決方法を考える。	現代課題の諸課題 2		
	9月	第2編　現代の経済 1章　経済社会の変容　3 前期期末考査(1)		1　経済活動の意義 2　経済社会の形成と変容 3		
後期				3　グローバル化と現代資本主義経済 4		
	10月	2章　現代経済のしくみ 12	・経済活動の意義について理解し、現代の経済のあり方を理解すると同時に現代経済についての知識を身につける。	1　市場機構 8 2　現代の企業 3　国民所得と経済成長 4　金融のしくみ 5　財政のしくみ		
	11月	9 後期中間考査(1)	・経済主体の役割などの学習を通して経済活動がどのように調整されているのかを考える。	1　戦後復興と経済成長 9 2　経済の停滞と再生 3　日本の中小企業と農業 4　国民の暮らし		
	12月	3章　現代経済と福祉の向上 4章　世界経済と日本	・国民の生活や社会保障問題の役割などについて学習し、様々な課題に対してどのように取り組むべきかを考える。	5　環境保全と公害防止 6　労使関係と労働条件の改善		
	1月	8	・世界経済について理解し、日本との関わりについて考える。	1　商品·資本の流れと国際収支 8 2　国際経済体制の変化 3　金融のグローバル化と世界金融危機 4　地域経済統合と新興国の台頭 5　経済協力と人間開発の課題		

２０１９年度　市立函館高等学校　シラバス

教　科	科　目	単位数	年次・コース	教　科　担　任
公民	社会教養	2	３年次	小笠原めるも

使用教科書	なし	使用副教材	なし

科　目　の　目　標	道徳教育のねらい
・現代社会に関する様々な時事的事象についての理解と認識を深める。 ・ニュースや新聞記事などの題材から物事を論理的に考え、表現する力を養う。 ・現代社会に生きる人間としてのあり方、生き方について多面的に考える力を養う。	現代社会の課題を取り上げ、人間の在り方や生き方について理解させる。

学習活動内容	市函ＤＰ（本校で身に付けさせたい１０の資質・能力）									
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	基礎力	思考力	主体的学習力	傾聴力	自己理解・自己管理力	他者理解力	計画実行力	発信・表現力	ストレスコントロール力	実践力
1 グループワーク		○	○	○	○	◎		◎	○	○
2 課題研究	○	◎	◎				○	○	○	○
3 プレゼンテーション	○	○	◎	○	◎	◎	○	◎	○	○
4 問題演習	○		◎				○			○
5 課題提出	○		○				○		◎	○

	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
評価の観点	現代社会の基本的問題に対する関心を高め、意欲的に課題を追究し人間としてのあり方、生き方について自覚を深めようとする。	自ら課題を見いだし、広い視野に立って多角的かつ多面的に考察するとともに、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえて公正に判断し、その過程や結果を適切に表現する。	諸資料を多くの媒体から収集し、有用な情報を主体的に選択し活用して学び方を身につける。	現代社会の課題について基本的な事柄や、学びについて理解し、その知識を身につけている。
評価の方法	毎時の提出課題（ワークシート、レポート、小論文等）の内容について、意欲的に取り組んだかを評価する。	授業中の発表・発言、討議などに取り組む姿勢、及び定期考査から、思考・判断した過程や結果を表現できるかどうかを評価する。	必要な資料などを適切に活用して情報を得て、まとめることができるかどうかを評価する。	レポート等の課題達成状況から、基本的な事柄を理解し、知識を身に付けているかどうかを評価する。

社会教養　授業計画

授業計画					実施状況	
	月 （時数）	単元・考査等 （配当時数）	学習のねらい	学習内容 （配当時間）	単元 実施 時数	実施反省
前期	4月 5月 6月 7月 8月 9月	オリエンテーション 政治・経済・国際社会に関する基本的事項の理解と、現代社会の課題への考察 （30）	・各種資料や新聞記事などを使用しながら、政治、経済、国際社会の基礎知識を身につける。 ・公務員試験、大学入試の過去問を用いながら、現代社会 の諸問題について考察し、理解を深めるとともに文章表現の力を身につける。自分の進路に関連したニュースや出来事などから、自己の進路意識を高める。 ※就職者の場合は必要に応じて面接に向けた対策などを行う。	・メディアリテラシーを養うため、各新聞の比較やインターネット上のニュースの比較等を行う（10） ・政治経済や国際情勢に関する基本的な知識や一般常識を身につけられるよう、公務員試験、大学入試 の過去問や各種教材を使いながら学習を進める（10） ・ニュースや新聞を題材にしたレポート作成、調べ学習、プレゼンなど（10）		
後期	10月 11月 12月 1月	政治・経済・国際社会に関する基本的事項の理解と、現代社会の課題への考察演習等 （30）	・各自で興味・関心のある課題から、テーマを設定し、図書館やインターネットなどを利用しながら資料を作成し、発表する。 ・進学者の場合は推薦においては面接に向けた指導や論文指導を行い、一般受験の場合は地歴・公民科科目の補強等も行う。	・現代社会の諸課題から、社会の変化や様々な立場，考え方を踏まえ公正に判断し，その過程や結果を適切に表現する （10） ・政治経済や国際情勢に関する基本的な知識や一般常識を身につけられるよう、公務員試験、大学入試 の過去問や各種教材を使いながら学習を進める（20）		

２０１９年度　市立函館高等学校　シラバス

教　科	科　目	単位数	年次・コース	教　科　担　任
数学	数学Ⅱ	4	３年次・数学Ⅱ選択者	小笠原三守　・　竹内　巧 井守利栄子　・　鈴木貴之

使用教科書	使用副教材
東京書籍　「数学Ⅰ　Ｓｔａｎｄａｒｄ」 東京書籍　「数学Ａ　Ｓｔａｎｄａｒｄ」 東京書籍　「数学Ⅱ　Ｓｔａｎｄａｒｄ」 東京書籍　「数学Ｂ　Ｓｔａｎｄａｒｄ」	ニューステージ数学Ⅰ・Ａ＋Ⅱ・Ｂ受験編 （数研出版）

科　目　の　目　標	道徳教育のねらい
数学Ⅰ・数学Ａ・数学Ⅱおよび数学Ｂの学習内容について、演習問題を解きながら復習し、基礎事項の確認を図るとともに、実践力を養うことを目標とする。問題集を主に使用しながら、入試問題、とくに大学入試センター試験に対応できるよう、問題を精選して演習する。	数学を活用して考えたり判断したりしようとする態度を、工夫して生活や学習をしようする態度を育てることで、また、生徒が事象を数理的に考察し、道筋を立てて考え、表現をする能力を高めることで、道徳的判断力を養う。

	学習活動内容	市函ＤＰ（本校で身に付けさせたい１０の資質・能力）									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		基礎力	思考力	主体的学習力	傾聴力	自己理解・自己管理力	他者理解力	計画実行力	発信・表現力	ｽﾄﾚｽｺﾝﾄﾛｰﾙ力	実践力
1	数学Ｂ　２章　ベクトル	○	○	○				○			○
2	数学Ⅱ　１章　方程式･式と証明	○	○	○				○			○
3	数学Ⅱ　２章　図形と方程式	○	○	○				○			○
4	数学Ⅱ　３章　三角関数	○	○	○				○			○
5	数学Ⅱ　４章　指数関数･対数関数	○	○	○				○			○
6	数学Ⅱ　５章　微分と積分	○	○	○				○			○
7	数学Ⅰ　１章　数と式	○	○	○				○			○
8	数学Ⅰ　２章　集合と論証	○	○	○				○			○
9	数学Ⅰ　３章　２次関数	○	○	○				○			○
10	数学Ⅰ　４章　図形と計量	○	○	○				○			○
11	数学Ⅰ　５章　データの分析	○	○	○				○			○
12	数学Ａ　１章　場合の数と確率	○	○	○				○			○
13	数学Ａ　３章　図形の性質	○	○	○				○			○
14	数学Ａ　２章　整数の性質	○	○	○				○			○
15	グループワーク		○	○	○	○	◎		◎	○	○
16	課題提出		○	◎		○		○		◎	○
17	考査および単元テスト	○	○	○				◎			

評価の観点	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
	数学の良さを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。	思考の過程を振り返り多面的･発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身につけている。	事象を数学的に表現･処理する仕方や推論の方法などの技能を身につけている。	原理･原則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身につけている。

評価の方法

次の資料をもとに観点別評価によって総合的に評価する。

	授業での取組	課題への取組	定期考査	単元テスト	課題確認テスト	その他の資料
関心・意欲・態度	○	◎			○	
数学的な見方や考え方	◎		○	○		○
数学的な技能	○		○	○		◎
知識・理解	○	○	◎	◎	○	

数学Ⅱ　授業計画

授業計画					実施状況	
	月 （時数）	単元・考査等 （配当時数）	学習のねらい	学習内容 （配当時間）	単元実施時数	実施反省
前期	4 （11）	数学B ２章　ベクトル （8）	ベクトルについての概念を理解し，図形の性質や関係をベクトルを用いて表現し，活用できるようにする。	44. 平面ベクトルの基本　（2） 45. 平面ベクトルと図形　（2） 46. 空間ベクトルと図形　（2） 演習・単元テスト　（2）		
	5 （15）	数学Ⅱ １章　方程式･式と証明 （12）	等式や不等式を証明することで，論理的思考力を養い，式と証明についての理解を深める。数の範囲を複素数まで拡張して２次方程式や因数分解を利用して高次方程式を解くことができるようにする。	25. 二項定理、整式の割り算　（2） 26. 恒等式、等式・不等式　（2） 27. 複素数とその計算　（2） 28. ２次方程式の理論　（2） 29. 因数定理、高次方程式　（2） 演習・単元テスト　（2）		
	6 （16）	数学Ⅱ ２章　図形と方程式 （8）	座標や式を用いて、基本的な平面図形の性質や関係を数学的に表現し、事象の考察に活用できるようにする。	30. 点・直線・円　（2） 31. 曲線と直線　（2） 32. 軌跡と領域　（2） 演習・前期中間考査　（2）		
		数学Ⅱ ３章　三角関数 （6）	三角関数および指数・対数関数について理解し，関数についての理解を深め，活用できるようにする。	33. 三角関数1　（2） 34. 三角関数2　（2） 演習・単元テスト　（2）		
		数学Ⅱ ４章　指数関数･対数関数 （6）		35. 指数関数　（2） 36. 対数関数　（2） 演習・単元テスト　（2）		
	7 （9）	数学Ⅱ ５章　微分と積分 （16）	微分・積分の考えを理解し，面積を求めることができるようにする。	37. 導関数と接線　（2） 38. 関数の極大・極小　（2） 39. 関数の最大・最小　（2） 40. 微分法の応用　（2） 41. 不定積分・定積分　（2） 42. 面積の計算1　（2） 43. 面積の計算2　（2） 演習・単元テスト　（2）		
後期	8 （6）	数学Ⅰ １章　数と式 （6）	不等式の解法ができるとともに、論理的な思考力を伸ばし、それらを命題などの考察に活かすことができるようにする。	1. 式の計算1　（2） 2. 式の計算2　（2） 3. １次不等式の解法　（2）		
	9 （14）	数学Ⅰ ２章　集合と論証 （6）		4. 集合　（2） 5. 命題と論証　（2） 演習・前期期末考査　（2）		
		数学Ⅰ ３章　２次関数 （10）	関数を用いて数量の変化を表現することの有用性を認識するとともに，2次不等式を解くことなどに活用できるようにする。	6. ２次関数　（2） 7. ２次関数の最大・最小　（2） 8. ２次方程式、２次不等式　（2） 9. ２次関数の種々の問題　（2）		
	１０ （17）	数学Ⅰ ４章　図形と計量 （10）	図形の計量の性質について理解し，角の大きさなどを用いた計量の考えの有用性を認識するとともに，活用できるようにする。	単元テスト　（2） 10. 三角比の基本　（2） 11. 三角比と図形1　（2） 12. 三角比と図形2　（2） 13. 三角比と図形3　（2） 演習・単元テスト　（2）		
		数学Ⅰ ５章　データの分析 （8）	2つのデータの関連性などを分析する力を養う。	14. データの分析1　（2） 15. データの分析2　（2） 16. データの分析3　（2） 演習・単元テスト　（2）		
	１１ （16）	数学A １章　場合の数と確率 （10）	不確定な事象を数量的にとらえることの有用性を認識するとともに，事象を数学的に考察し処理できるようにする。	17. 場合の数・順列1　（2） 18. 順列2・組合せ　（2） 19. 確率1　（2） 20. 確率2　（2） 演習・前期期末考査　（2）		
		数学A ３章　図形の性質 （4）	三角形や円の図形の性質についての理解を深め，図形の性質を論理的に考察し処理することができるようにする。	21. 図形の性質1　（2） 22. 図形の性質2　（2）		
	１２ （13）	数学A ２章　整数の性質 （4）	約数や倍数について、整数の性質やユークリッドの互除法を活用する力を養う。	23. 整数の性質1　（2） 24. 整数の性質2　（2）		
	１ （3）	実践演習　（6）		センター試験実践演習　（6）		

２０１９年度　市立函館高等学校　シラバス

教　科	科　目	単位数	年次・コース	教　科　担　任
数学	数学Ⅲ	6	3年次	小笠原　三守　・　竹内　巧

使用教科書	東京書籍　「数学Ⅲ　Ｓｔａｎｄａｒｄ」	使用副教材	東京書籍「Stage 数学Ⅲ」 数研出版「チャート式新課程解法と演習数学Ⅲ」

科　目　の　目　標	道徳教育のねらい
平面上の曲線と複素数平面，極限，微分法及び積分法についての理解を深め，知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに，それらを積極的に活用する態度を育てる。	数学を活用して考えたり判断したりしようとする態度や、工夫して生活や学習をしようする態度を育てることで、また、生徒が事象を数理的に考察し、道筋を立てて考え、表現をする能力を高めることで、道徳的判断力を養う。

	学習活動内容	市函ＤＰ（本校で身に付けさせたい１０の資質・能力）									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		基礎力	思考力	主体的学習力	傾聴力	自己理解･自己管理力	他者理解力	計画実行力	発信･表現力	ｽﾄﾚｽｺﾝﾄﾛｰﾙ力	実践力
1	第3章　関数と極限　　第2節　数列の極限	○	○	○							○
2	第3章　関数と極限　　第3節　関数の極限	○	○	○							○
3	第4章　微分　　第1節　微分法	○	○	○							○
4	第4章　微分　　第2節　いろいろな関数の導関数	○	○	○							○
5	第5章　微分の応用　　第1節　接線、関数の増減	○	○	○							○
6	第5章　微分の応用　　第2節　微分のいろいろな応用	○	○	○							○
7	第6章　積分　　第1節　不定積分	○	○	○							○
8	第6章　積分　　第2節　定積分	○	○	○							○
9	第6章　積分　　第3節　面積・体積・長さ	○	○	○							○
10	第1章　平面上の曲線　　第1節　2次曲線	○	○	○							○
11	第1章　平面上の曲線　　第2節　媒介変数表示と極座標	○	○	○							○
12	第2章　複素数平面　　第1節　複素数平面	○	○	○							○
13	第2章　複素数平面　　第2節　図形への応用	○	○	○							○
18	グループワーク		○	○	○	○	◎		◎	○	○
19	課題提出		○	◎		○		○		◎	○
20	考査	○	○					○	◎		

評価の観点	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
	平面上の曲線と複素数平面，極限，微分法及び積分法に関心をもつとともに，それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり，思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して，平面上の曲線と複素数平面，極限，微分法及び積分法における数学的な見方や考え方を身につけている。	平面上の曲線と複素数平面，極限，微分法及び積分法において，事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身につけている。	平面上の曲線と複素数平面，極限，微分法及び積分法における基本的な概念，原理・法則などを体系的に理解し，知識を身につけている。

評価の方法

次の資料をもとに観点別評価によって総合的に評価する。

	授業での取組	課題への取組	定期考査	単元テスト	課題確認テスト	その他の資料
関心・意欲・態度	○	◎			○	
数学的な見方や考え方	◎		○	○		○
数学的な技能	○		○	○		◎
知識・理解	○	○	◎	◎	○	

数学Ⅲ　授業計画

授業計画					実施状況	
	月（時数）	単元・考査等（配当時数）	学習のねらい	学習内容（配当時間）	単元実施時数	実施反省
前期	4 (23)	第3章　関数と極限				
		第2節　数列の極限 (9)	収束・発散が理解できる	数列の極限 3		
			公比の条件が理解できる	無限等比数列 2		
			数列の和が求められる	無限級数 1		
			数列の和が求められる	無限等比級数 2		
			様々な求め方を理解できる	いろいろな無限級数 1		
		第3節　関数の極限 (4)	極限値が求められる	関数の極限 3		
			公式や定理が活用できる	いろいろな関数と極限 2		
			連続の条件が理解できる	関数の連続性 2		
		【演習・単元テスト】 (10)	基礎から応用まで解ける	演習・テスト 10		
	5 (21)	第4章　微分				
		第1節　微分法 (6)	導関数の定義が理解できる	導関数 2		
			公式を活用して微分できる	積・商の微分法 2		
			公式を活用して微分できる	合成関数の微分法 2		
		第2節　いろいろな関数の導関数 (5)	公式を活用して微分できる	三角関数の導関数 2		
			公式を活用して微分できる	対数関数・指数関数の導関数 2		
			n次導関数まで求められる	高次導関数 1		
		【演習・単元テスト】 (10)	基礎から応用まで解ける	演習・テスト 10		
	6 (15)	第5章　微分の応用				
		第1節　接線、関数の増減 (9)	接線の方程式が求められる	接線の方程式 2		
			平均値の定理が理解できる	平均値の定理 1		
			増減表がかける	関数の増減 1		
			極値が求められる	関数の極大・極小 2		
			増減表を基にグラフがかける	第2次導関数とグラフ 3		
		第2節　微分のいろいろな応用 (6)	最大・最小値が求められる	最大・最小 1		
			方程式・不等式が解ける	方程式・不等式への応用 1		
			やり方を理解できる	媒介変数で表された関数の微分 1		
			速度・加速度が求められる	速度・加速度 2		
			近似値が求められる	近似値 1		
	7 (17)	【演習・単元テスト】 (10)	基礎から応用まで解ける	演習・テスト 10		
		第6章　積分				
		第1節　不定積分 (7)	不定積分が求められる	不定積分 2		
			公式を活用して積分できる	置換積分法 2		
			公式を活用して積分できる	部分積分法 1		
			様々な求め方を理解できる	いろいろな関数の不定積分 2		
	8 (10)	第2節　定積分 (10)	定積分が求められる	定積分 2		
			置換積分法を活用できる	定積分の置換積分法 2		
			性質を理解して積分できる	偶関数と奇関数の定積分 1		
			部分積分法を活用できる	定積分の部分積分法 1		
			関数を微分できる	定積分で表された関数 1		
			区分求積法を理解できる	定積分と区分求積法 2		
			不等式の証明ができる	定積分と不等式 1		
	9 (18)	【演習・単元テスト】 (10)	基礎から応用まで解ける	演習・テスト 10		
		第3節　面積・体積・長さ (8)	面積が求められる	面積 3		
			体積が求められる	体積 3		
			長さや道のりが求められる	曲線の長さと道のり 2		

数学Ⅲ　授業計画

授業計画					実施状況	
	月 （時数）	単元・考査等 （配当時数）	学習のねらい	学習内容 （配当時間）	単元実施時数	実施反省
後	10 (26)	第1章　平面上の曲線 第1節　2次曲線　(8)	放物線がかける	放物線　1		
			楕円がかける	楕円　2		
			双曲線の方程式が求められる	双曲線　3		
			平行移動できる	2次曲線と平行移動　1		
			共有点や接線が求められる	2次曲線と直線　1		
		第2節　媒介変数表示と極座標　(8)	媒介変数表示を理解できる	媒介変数表示　3		
			極方程式が理解できる	極座標と極方程式　4		
			いろいろな曲線を知る	いろいろな曲線　1		
		【演習・単元テスト】　(10)	基礎から応用まで解ける	演習・テスト　10		
	11 (24)	第2章　複素数平面 第1節　複素数平面　(10)	複素数平面を理解できる	複素数平面　3		
			極形式で表すことができる	複素数の極形式　4		
			定理を活用できる	ド・モアブルの定理　3		
		第2節　図形への応用　(4)	複素数平面上に図形をかける	複素数平面上の図形　2		
			なす角が求められる	2直線のなす角　2		
		【演習・単元テスト】　(10)	基礎から応用まで解ける	演習・テスト　10		
	12 (26)	【演習】　(26)	基礎から応用まで解ける	演習・テスト　26		

(76)

２０１９年度　市立函館高等学校　シラバス

教　科	科　目	単位数	年次・コース	教　科　担　任
数学	数学Ｂ	2	３年次・数学Ｂ選択者	井守利栄子　・　鈴木貴之

使用教科書	使用副教材
東京書籍　「数学Ⅰ　Ｓｔａｎｄａｒｄ」 東京書籍　「数学Ａ　Ｓｔａｎｄａｒｄ」 東京書籍　「数学Ⅱ　Ｓｔａｎｄａｒｄ」 東京書籍　「数学Ｂ　Ｓｔａｎｄａｒｄ」	ニューステージ数学Ⅰ・Ａ＋Ⅱ・Ｂ受験編 （数研出版）

科　目　の　目　標	道徳教育のねらい
数学Ⅰ・数学Ａ・数学Ⅱおよび数学Ｂの学習内容について、演習問題を解きながら復習し、基礎事項の確認を図るとともに、実践力を養うことを目標とする。問題集を主に使用しながら、入試問題、とくに大学入試センター試験に対応できるよう、問題を精選して演習する。	数学を活用して考えたり判断したりしようとする態度を、工夫して生活や学習をしようする態度を育てることで、また、生徒が事象を数理的に考察し、道筋を立てて考え、表現をする能力を高めることで、道徳的判断力を養う。

	学習活動内容	市函ＤＰ（本校で身に付けさせたい１０の資質・能力）									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		基礎力	思考力	主体的学習力	傾聴力	自己理解・自己管理力	他者理解力	計画実行力	発信・表現力	ｽﾄﾚｽｺﾝﾄﾛｰﾙ力	実践力
1	数学Ｂ　２章　ベクトル	○	○	○				○			○
2	数学Ⅱ　１章　方程式･式と証明	○	○	○				○			○
3	数学Ⅱ　２章　図形と方程式	○	○	○				○			○
4	数学Ⅱ　３章　三角関数	○	○	○				○			○
5	数学Ⅱ　４章　指数関数･対数関数	○	○	○				○			○
6	数学Ⅱ　５章　微分と積分	○	○	○				○			○
7	数学Ⅰ　１章　数と式	○	○	○				○			○
8	数学Ⅰ　２章　集合と論証	○	○	○				○			○
9	数学Ⅰ　３章　２次関数	○	○	○				○			○
10	数学Ⅰ　４章　図形と計量	○	○	○				○			○
11	数学Ⅰ　５章　データの分析	○	○	○				○			○
12	数学Ａ　１章　場合の数と確率	○	○	○				○			○
13	数学Ａ　３章　図形の性質	○	○	○				○			○
14	数学Ａ　２章　整数の性質	○	○	○				○			○
15	グループワーク		○	○	○	○	◎		◎	○	○
16	課題提出		○	◎		○		○		◎	○
17	考査および単元テスト	○	○	○				◎			

評価の観点	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
	数学の良さを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。	思考の過程を振り返り多面的･発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身につけている。	事象を数学的に表現･処理する仕方や推論の方法などの技能を身につけている。	原理･原則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身につけている。

評価の方法

次の資料をもとに観点別評価によって総合的に評価する。

	授業での取組	課題への取組	定期考査	単元テスト	課題確認テスト	その他の資料
関心・意欲・態度	○	◎			○	
数学的な見方や考え方	◎		○	○		○
数学的な技能	○		○	○		◎
知識・理解	○	○	◎	◎	○	

数学Ｂ　授業計画

授業計画					実施状況	
	月 （時数）	単元・考査等 （配当時数）	学習のねらい	学習内容 （配当時間）	単元実施時数	実施反省
前期	4 （ 6 ）	数学Ｂ ２章　ベクトル （ 4 ）	ベクトルについての概念を理解し，図形の性質や関係をベクトルを用いて表現し，活用できるようにする。	44. 平面ベクトルの基本　（ 1 ） 45. 平面ベクトルと図形　（ 1 ） 46. 空間ベクトルと図形　（ 1 ） 単元テスト　（ 1 ）		
	5 （ 7 ）	数学Ⅱ １章　方程式･式と証明 （ 6 ）	等式や不等式を証明することで，論理的思考力を養い，式と証明についての理解を深める。数の範囲を複素数まで拡張して２次方程式や因数分解を利用して高次方程式を解くことができるようにする。	25. 二項定理、整式の割り算　（ 1 ） 26. 恒等式、等式・不等式　（ 1 ） 27. 複素数とその計算　（ 1 ） 28. ２次方程式の理論　（ 1 ） 29. 因数定理、高次方程式　（ 1 ） 単元テスト　（ 1 ）		
	6 （ 8 ）	数学Ⅱ ２章　図形と方程式 （ 4 ）	座標や式を用いて、基本的な平面図形の性質や関係を数学的に表現し、事象の考察に活用できるようにする。	30. 点・直線・円　（ 1 ） 31. 曲線と直線　（ 1 ） 32. 軌跡と領域　（ 1 ） 前期中間考査　（ 1 ）		
		数学Ⅱ ３章　三角関数 （ 3 ）	三角関数および指数・対数関数について理解し，関数についての理解を深め，活用できるようにする。	33. 三角関数1　（ 1 ） 34. 三角関数2　（ 1 ） 単元テスト　（ 1 ）		
		数学Ⅱ ４章　指数関数･対数関数 （ 3 ）		35. 指数関数　（ 1 ） 36. 対数関数　（ 1 ） 単元テスト　（ 1 ）		
	7 （ 4 ）	数学Ⅱ ５章　微分と積分 （ 8 ）	微分・積分の考えを理解し，面積を求めることができるようにする。	37. 導関数と接線　（ 1 ） 38. 関数の極大・極小　（ 1 ） 39. 関数の最大・最小　（ 1 ） 40. 微分法の応用　（ 1 ） 41. 不定積分・定積分　（ 1 ） 42. 面積の計算1　（ 1 ） 43. 面積の計算2　（ 1 ） 単元テスト　（ 1 ）		
後期	8 （ 3 ）	数学Ⅰ １章　数と式 （ 3 ）	不等式の解法ができるとともに、論理的な思考力を伸ばし、それらを命題などの考察に活かすことができるようにする。	1. 式の計算1　（ 1 ） 2. 式の計算2　（ 1 ） 3. １次不等式の解法　（ 1 ）		
	9 （ 7 ）	数学Ⅰ ２章　集合と論証 （ 3 ）		4. 集合　（ 1 ） 5. 命題と論証　（ 1 ） 前期期末考査　（ 1 ）		
		数学Ⅰ ３章　２次関数 （ 5 ）	関数を用いて数量の変化を表現することの有用性を認識するとともに，2次不等式を解くことなどに活用できるようにする。	6. ２次関数　（ 1 ） 7. ２次関数の最大・最小　（ 1 ） 8. ２次方程式、２次不等式　（ 1 ） 9. ２次関数の種々の問題　（ 1 ） 単元テスト　（ 1 ）		
	１０ （ 8 ）	数学Ⅰ ４章　図形と計量 （ 5 ）	図形の計量の性質について理解し，角の大きさなどを用いた計量の考えの有用性を認識するとともに，活用できるようにする。	10. 三角比の基本　（ 1 ） 11. 三角比と図形1　（ 1 ） 12. 三角比と図形2　（ 1 ） 13. 三角比と図形3　（ 1 ） 単元テスト　（ 1 ）		
		数学Ⅰ ５章　データの分析 （ 4 ）	2つのデータの関連性などを分析する力を養う。	14. データの分析1　（ 1 ） 15. データの分析2　（ 1 ） 16. データの分析3　（ 1 ） 単元テスト　（ 1 ）		
	１１ （ 8 ）	数学Ａ １章　場合の数と確率 （ 5 ）	不確定な事象を数量的にとらえることの有用性を認識するとともに，事象を数学的に考察し処理できるようにする。	17. 場合の数・順列1　（ 1 ） 18. 順列2・組合せ　（ 1 ） 19. 確率1　（ 1 ） 20. 確率2　（ 1 ） 前期期末考査　（ 1 ）		
		数学Ａ ３章　図形の性質 （ 2 ）	三角形や円の図形の性質についての理解を深め，図形の性質を論理的に考察し処理することができるようにする。	21. 図形の性質1　（ 1 ） 22. 図形の性質2　（ 1 ）		
	１２ （ 7 ） １ （ 2 ）	数学Ａ ２章　整数の性質 （ 2 ） 実践演習　（ 3 ）	約数や倍数について、整数の性質やユークリッドの互除法を活用する力を養う。	23. 整数の性質1　（ 1 ） 24. 整数の性質2　（ 1 ） センター試験実践演習　（ 3 ）		

２０１９年度　市立函館高等学校　シラバス

教　科	科　目	単位数	年次・コース	教　科　担　任
数学	数学研究Ａ	4	３年次・数学研究Ａ選択者	小笠原三守・竹内　巧・井守利栄子

使用教科書	使用副教材
東京書籍　「数学Ⅰ　Ｓｔａｎｄａｒｄ」 東京書籍　「数学Ａ　Ｓｔａｎｄａｒｄ」 東京書籍　「数学Ⅱ　Ｓｔａｎｄａｒｄ」 東京書籍　「数学Ｂ　Ｓｔａｎｄａｒｄ」	ニューステージ数学Ⅰ・Ａ＋Ⅱ・Ｂ受験編 （数研出版）

科　目　の　目　標	道徳教育のねらい
数学Ⅰ・数学Ａ・数学Ⅱおよび数学Ｂの学習内容について、演習問題を解きながら復習し、基礎事項の確認を図るとともに、実践力を養うことを目標とする。問題集を主に使用しながら、入試問題、とくに大学入試センター試験に対応できるよう、問題を精選して演習する。	数学を活用して考えたり判断したりしようとする態度を、工夫して生活や学習をしようする態度を育てることで、また、生徒が事象を数理的に考察し、道筋を立てて考え、表現をする能力を高めることで、道徳的判断力を養う。

	学習活動内容	市函ＤＰ（本校で身に付けさせたい１０の資質・能力）									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		基礎力	思考力	主体的学習力	傾聴力	自己理解・自己管理力	他者理解力	計画実行力	発信・表現力	ｽﾄﾚｽｺﾝﾄﾛｰﾙ力	実践力
1	数学Ｂ　２章　ベクトル	○	○	○				○			○
2	数学Ⅱ　１章　方程式･式と証明	○	○	○				○			○
3	数学Ⅱ　２章　図形と方程式	○	○	○				○			○
4	数学Ⅱ　３章　三角関数	○	○	○				○			○
5	数学Ⅱ　４章　指数関数･対数関数	○	○	○				○			○
6	数学Ⅱ　５章　微分と積分	○	○	○				○			○
7	数学Ⅰ　１章　数と式	○	○	○				○			○
8	数学Ⅰ　２章　集合と論証	○	○	○				○			○
9	数学Ⅰ　３章　２次関数	○	○	○				○			○
10	数学Ⅰ　４章　図形と計量	○	○	○				○			○
11	数学Ⅰ　５章　データの分析	○	○	○				○			○
12	数学Ａ　１章　場合の数と確率	○	○	○				○			○
13	数学Ａ　３章　図形の性質	○	○	○				○			○
14	数学Ａ　２章　整数の性質	○	○	○				○			○
15	グループワーク		○	○	○	○	◎		◎	○	○
16	課題提出		○	◎		○		○		◎	○
17	考査および単元テスト	○	○	○				◎			

評価の観点	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
	数学の良さを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。	思考の過程を振り返り多面的･発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身につけている。	事象を数学的に表現･処理する仕方や推論の方法などの技能を身につけている。	原理･原則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身につけている。

評価の方法

次の資料をもとに観点別評価によって総合的に評価する。

	授業での取組	課題への取組	定期考査	単元テスト	課題確認テスト	その他の資料
関心・意欲・態度	○	◎			○	
数学的な見方や考え方	◎		○	○		○
数学的な技能	○		○	○		◎
知識・理解	○	○	◎	◎	○	

数学研究Ａ　授業計画

授業計画					実施状況	
	月 （時数）	単元・考査等 （配当時数）	学習のねらい	学習内容 （配当時間）	単元実施時数	実施反省
前期	4 （11）	数学B ２章　ベクトル （ 8 ）	ベクトルについての概念を理解し，図形の性質や関係をベクトルを用いて表現し，活用できるようにする。	44. 平面ベクトルの基本　（ 2 ） 45. 平面ベクトルと図形　（ 2 ） 46. 空間ベクトルと図形　（ 2 ） 演習・単元テスト　（ 2 ）		
	5 （15）	数学Ⅱ １章　方程式･式と証明 （ 12 ）	等式や不等式を証明することで，論理的思考力を養い，式と証明についての理解を深める。数の範囲を複素数まで拡張して２次方程式や因数分解を利用して高次方程式を解くことができるようにする。	25. 二項定理、整式の割り算　（ 2 ） 26. 恒等式、等式・不等式　（ 2 ） 27. 複素数とその計算　（ 2 ） 28. ２次方程式の理論　（ 2 ） 29. 因数定理、高次方程式　（ 2 ） 演習・単元テスト　（ 2 ）		
	6 （16）	数学Ⅱ ２章　図形と方程式 （ 8 ）	座標や式を用いて、基本的な平面図形の性質や関係を数学的に表現し、事象の考察に活用できるようにする。	30. 点・直線・円　（ 2 ） 31. 曲線と直線　（ 2 ） 32. 軌跡と領域　（ 2 ） 演習・前期中間考査　（ 2 ）		
		数学Ⅱ ３章　三角関数 （ 6 ）	三角関数および指数・対数関数について理解し，関数についての理解を深め，活用できるようにする。	33. 三角関数1　（ 2 ） 34. 三角関数2　（ 2 ） 演習・単元テスト　（ 2 ）		
		数学Ⅱ ４章　指数関数･対数関数 （ 6 ）		35. 指数関数　（ 2 ） 36. 対数関数　（ 2 ） 演習・単元テスト　（ 2 ）		
	7 （9）	数学Ⅱ ５章　微分と積分 （ 16 ）	微分・積分の考えを理解し，面積を求めることができるようにする。	37. 導関数と接線　（ 2 ） 38. 関数の極大・極小　（ 2 ） 39. 関数の最大・最小　（ 2 ） 40. 微分法の応用　（ 2 ） 41. 不定積分・定積分　（ 2 ） 42. 面積の計算1　（ 2 ） 43. 面積の計算2　（ 2 ） 演習・単元テスト　（ 2 ）		
	8 （6）	数学Ⅰ １章　数と式 （ 6 ）	不等式の解法ができるとともに、論理的な思考力を伸ばし、それらを命題などの考察に活かすことができるようにする。	1. 式の計算1　（ 2 ） 2. 式の計算2　（ 2 ） 3. １次不等式の解法　（ 2 ）		
	9 （14）	数学Ⅰ ２章　集合と論証 （ 6 ）		4. 集合　（ 2 ） 5. 命題と論証　（ 2 ） 演習・前期期末考査　（ 2 ）		
		数学Ⅰ ３章　２次関数 （ 10 ）	関数を用いて数量の変化を表現することの有用性を認識するとともに，2次不等式を解くことなどに活用できるようにする。	6. ２次関数　（ 2 ） 7. ２次関数の最大・最小　（ 2 ） 8. ２次方程式、２次不等式　（ 2 ） 9. ２次関数の種々の問題　（ 2 ）		
後期	１０ （17）	数学Ⅰ ４章　図形と計量 （ 10 ）	図形の計量の性質について理解し，角の大きさなどを用いた計量の考えの有用性を認識するとともに，活用できるようにする。	単元テスト　（ 2 ） 10. 三角比の基本　（ 2 ） 11. 三角比と図形1　（ 2 ） 12. 三角比と図形2　（ 2 ） 13. 三角比と図形3　（ 2 ） 演習・単元テスト　（ 2 ）		
		数学Ⅰ ５章　データの分析 （ 8 ）	2つのデータの関連性などを分析する力を養う。	14. データの分析1　（ 2 ） 15. データの分析2　（ 2 ） 16. データの分析3　（ 2 ） 演習・単元テスト　（ 2 ）		
	１１ （16）	数学Ａ １章　場合の数と確率 （ 10 ）	不確定な事象を数量的にとらえることの有用性を認識するとともに，事象を数学的に考察し処理できるようにする。	17. 場合の数・順列1　（ 2 ） 18. 順列2・組合せ　（ 2 ） 19. 確率1　（ 2 ） 20. 確率2　（ 2 ） 演習・前期期末考査　（ 2 ）		
		数学Ａ ３章　図形の性質 （ 4 ）	三角形や円の図形の性質についての理解を深め，図形の性質を論理的に考察し処理することができるようにする。	21. 図形の性質1　（ 2 ） 22. 図形の性質2　（ 2 ）		
	１２ （13） 1 （3）	数学Ａ ２章　整数の性質 （ 4 ） 実践演習　（ 6 ）	約数や倍数について、整数の性質やユークリッドの互除法を活用する力を養う。	23. 整数の性質1　（ 2 ） 24. 整数の性質2　（ 2 ） センター試験実践演習　（ 6 ）		

２０１９年度　市立函館高等学校　シラバス

教　科	科　目	単位数	年次・コース	教　科　担　任
理科	物理（後半）	2	3年次	佐藤　啓悟

使用教科書	東京書籍　「物理」	使用副教材	数研出版「リードLightノート物理」 駿台文庫「センター試験物理　単元問題集」

科　目　の　目　標	道徳教育のねらい
１．物理的な事物・現象に対する探究心を高める。 ２．目的意識を持って観察・実験などを行い、物理的に探求する能力と態度を身に付ける。 ３．物理学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を身に付ける。 ４．科学技術の在り方について意思決定するために必要な、科学的な見方や考え方を身に付ける。	科学的に探求する能力と態度と自然観を学び、それらを日常的に積極的に活用する態度を育てる。

	学習活動内容	市函ＤＰ（本校で身に付けさせたい１０の資質・能力）									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		基礎力	思考力	主体的学習力	傾聴力	自己理解･自己管理力	他者理解力	計画実行力	発信･表現力	ｽﾄﾚｽｺﾝﾄﾛｰﾙ力	実践力
1	電界と電位	○	○					○			
2	電流	○	○					○			
3	電流と磁界	○	○	○			○				
4	電磁誘導と電磁波	○	○								○
5	電子と光	○		○							
6	原子と原子核	○		○							
7	グループワーク			○	○	○	○		○	○	
8	考査	○				○		○			○

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断	技能	知識・理解
	物理現象に対して、興味・関心を高めて、知的好奇心をもって問題を見いだし、主体的に解決する態度を養う。	自らが見付けた課題に対し、目的意識をもち、見通しをもって観察・実験などに取り組む態度を養う。	探究活動を通して、仮説、観察・実験、結果、考察、法則性の導出、発表から物理学的に探究する技能・表現を養う。	観察・実験などを通して得られた結果から、物理的な事象・現象の基本概念や原理・法則などの習った知識・理解を深める。

評価の方法

次の資料をもとに観点別評価によって総合的に評価する。

	授業での取組	課題への取組	定期考査	単元テスト	その他の資料
関心・意欲・態度	○	◎			
思考・判断	◎		○	○	○
技能	○		○	○	◎
知識・理解	○	○	◎	◎	

物理（後半）　授業計画

授業計画					実施状況	
	月 （時数）	単元・考査等 （配当時数）	学習のねらい	学習内容 （配当時間）	単元実施時数	実施反省
前期	4	第４編　電気と磁気	電気や磁気に関する現象を探求し、電気と磁気に関する基本的な概念や法則を系統的に理解する。			
	5	１章　電界と電位		コンデンサー	5	
		２章　電流		電流	3	
				直流回路	6	
	6	３章　電流と磁界		磁界（磁場）	3	
		前期中間考査		電流のつくる磁界	2	
				電流が磁界から受ける力	2	
				ローレンツ力	2	
	7	４章　電磁誘導と電磁波		電磁誘導の法則	4	
	8			自己誘導と相互誘導	2	
	9			交流	8	
		前期期末考査		電磁波	4	
後期	10	第５編　原子	電子、原子及び原子核に関する現象を探求し、原子についての基本的な概念や法則を理解する。			
		１章　電子と光		電子	2	
				光の粒子性	4	
	11	２章　原子と原子核		物質の波動性	1	
				原子の構造	4	
	12			原子核	1	
		後期中間考査		原子核の崩壊	2	
	1			核反応と核エネルギー	3	
				素粒子	2	

２０１９年度　市立函館高等学校　シラバス

教　科	科　目	単位数	年次・コース	教　科　担　任
理科	化学（後半）	3	3年次	佐藤　啓悟　・　藤井　隆徳

使用教科書	化学　改訂版（啓林館）	使用副教材	センサー総合化学　化学基礎　化学　改訂版（啓林館） 四訂版　サイエンスビュー　化学総合資料（実教出版）

科　目　の　目　標	道徳教育のねらい
化学的な事物･現象に対する探究心を高め，目的意識をもって観察，実験などを行い，化学的に探究する能力と態度を身につけるとともに，化学の基本的な概念や原理･法則の理解を深め，科学的な自然観を養う。	物質の多様性や、人間生活との関わりについて正しく理解することで、現代社会において生きる力を養うとともに、科学リテラシーを育む。

	学習活動内容	市函ＤＰ（本校で身に付けさせたい１０の資質・能力）									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		基礎力	思考力	主体的学習力	傾聴力	自己理解･自己管理力	他者理解力	計画実行力	発信･表現力	ｽﾄﾚｽｺﾝﾄﾛｰﾙ力	実践力
1	物質の変化と平衡	○	○					○			
2	無機物質	○	○					○			
3	有機化合物	○	○	○			○				○
4	高分子化合物	○	○								○
5	グループワーク			○	○	○	○		○	○	
6	考査	○				○		○			○

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断	技能	知識・理解
	化学の事物･現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	化学の事物･現象の中に問題を見いだし、探究する過程を通理して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	観察、実験の基本操作を習得し、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物･現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	化学の事物･現象について、基本的な概念や原理･法則を理解し、知識を身に付けている。

評価の方法

次の資料をもとに観点別評価によって総合的に評価する。

	授業での取組	課題への取組	定期考査	単元テスト	その他の資料
関心・意欲・態度	○	◎			
思考・判断	◎		○	○	○
技能	○		○	○	◎
知識・理解	○	○	◎	◎	

化学（後半）　授業計画

授業計画					実施状況	
	月（時数）	単元・考査等（配当時数）	学習のねらい	学習内容（配当時間）	単元実施時数	実施反省
前期	4	第２部　物質の変化と平衡 第４章　化学平衡	化学平衡の状態とは何かを学んだ後、平衡定数を用いると平衡時の各物質の物質量や分圧が求められることについて学ぶ。	**化学平衡とその移動**	5	
	5			電離平衡	9	
	6	第４部　有機化合物 第１章　有機化合物の特徴	有機化合物の性質や反応を観察・実験などを通して探求し、有機化合物の分類と特徴を理解するとともに、それらを日常生活や社会と関連付けて考察する。	有機化合物の特徴と分類	2	
		前期中間考査		有機化合物の分析	2	
		第２章　脂肪族炭化水素		飽和炭化水素	2	
				不飽和炭化水素	2	
		第３章　酸素を含む脂肪族炭化水素		アルコールとエーテル	2	
				アルデヒドとケトン	2	
				カルボン酸	2	
	7			エステルと油脂	2	
		第４章　芳香族化合物		芳香族炭化水素	2	
				酸素を含む芳香族化合物	2	
				窒素を含む芳香族化合物	2	
				有機化合物の分離	2	
		第５章　生活と有機化合物		医薬品・染料・食品	2	
	8	第５部　高分子化合物 第１章　天然高分子化合物	高分子化合物の性質や反応を観察・実験などを通して探求し、合成高分子化合物と天然高分子化合物の特徴を理解するとともに、それらを日常生活や社会と関連付けて考察する。	高分子化合物の分類と特徴	2	
				糖類	3	
				タンパク質	3	
				核酸	2	
	9	第２章　合成高分子化合物		高分子化合物の合成	2	
				合成繊維	2	
				プラスチック	2	
				ゴム	2	
		第３章　生活と高分子化合物		高分子化合物の利用	1	
		前期期末考査				
後期	10	第３部　無機物質 第１章　周期表と元素の分類	無機物質の性質や反応を観察・実験などを通して探求し、元素の性質が周期表に基づいて整理できることを理解するとともに、それらを日常生活や社会と関連付けて考察する。	周期表と元素の分類	2	
		第２章　非金属元素		水素と貴ガス	2	
				ハロゲン	2	
				酸素・硫黄	2	
				窒素・リン	2	
				炭素・ケイ素	2	
	11	第３章　典型金属元素		アルカリ金属	2	
				２族元素	2	
				アルミニウム	2	
				亜鉛・水銀	2	
				スズ・鉛	2	
	12	第４章　遷移元素		遷移元素	2	
		後期中間考査		金属イオンの分離と確認	3	
	1	**第5章　生活と無機物質**		生活と金属・セラミックス	4	

２０１９年度　市立函館高等学校　シラバス

教　科	科　目	単位数	年次・コース	教　科　担　任
理科	生物	2	３年次	鈴木　宏伸、小松　祥秀

使用教科書	生物　（数研出版）	使用副教材	リードLightノート　生物　（数研出版）

科　目　の　目　標	道徳教育のねらい
生物現象に関わり，理科の見方・考え方を働かせ，見通しをもって観察，実験などを行うことを通して，生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。 (1) 生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 (2) 観察，実験などを行い，科学的に探究する力を養う。	自然の事物・現象を探究する活動を通して，地球の環境や生態系のバランスなどについて考えさせ，自然と人間との関わりについて認識させることで，生命を尊重し，自然科学の保全に寄与する態度の育成につなげる。見通しをもって観察，実験などを行うことで，科学的に探究する力を育て，科学的に探究しようとする態度を養い，道徳的判断力や真理を大切にしようとする態度の育成する。

	学習活動内容	市函ＤＰ（本校で身に付けさせたい１０の資質・能力）									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		基礎力	思考力	主体的学習力	傾聴力	自己理解・自己管理力	他者理解力	計画実行力	発信・表現力	ｽﾄﾚｽｺﾝﾄﾛｰﾙ力	実践力
1	第6章　植物の環境応答	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2	第7章　生物群集と生態系	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
3	第8章　生命の起源と進化	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
4	第9章　生物の系統	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
5	定期考査	◎	◎					○	○		◎
6	小テスト　単元テスト	◎	○						○		◎
7	課題提出（問題集）	○	○	◎		○		◎	△		○
8	課題提出（レポート等）	◎	○	◎		○		◎	◎		○
9	グループ活動　等	△	◎	◎	◎	◎	◎	△	◎	◎	◎
10	実験実習　等	△	◎	○	◎	○	○	◎	○	○	◎
11											
12											
13											
14											
15											
16											
17											
18											
19											
20											

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
	生物や生物現象に関心や探究心をもち主体的に探究しようとするとともに，科学的態度を身に付けている。	生物や生物現象の中に問題を見いだし探究する過程を通して，事象を科学的に考察し，導き出した考えを的確に表現している。	生物や生物現象に関する観察，実験などを行い，基本操作を習得するとともに，それらの過程や結果を的確に記録，整理し，自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	生物や生物現象に関する基本的な概念や原理・法則について理解を深め，知識を身に付けている。

評価の方法

次の資料をもとに観点別評価によって総合的に評価する。

	授業での取組	課題への取組	定期考査	単元テスト	課題確認テスト	その他の資料
関心・意欲・態度	○	◎			○	
思考・判断・表現	◎		○	○		○
観察・実験の技能	◎	◎	○	○		◎
知識・理解	○	○	◎	◎	○	○

生物（後半）　授業計画

授業計画					実施状況	
	月 （時数）	単元・考査等 （配当時数）	学習のねらい	学習内容 （配当時間）	単元実施時数	実施反省
前期	4 5	第6章　植物の環境応答 (15)	植物は成長を調節するなどして環境に応答していることを理解する。そのうえで，環境応答にはさまざまな植物ホルモンや光受容体が関与していることを学習する。	1　植物の反応　4 2　成長の調節　4 3　花芽形成と発芽の調節　4 4　単元のまとめ　3		
	6 7	第7章　生物群集と生態 (15)	個体群や生物群集について，それぞれの特徴を学習する。その際，生物群集はさまざまな個体群の集まりによって構成されており，それぞれの個体群は，生態系内で特定の役割を果たしていることを理解させる。次に，生態系における物質生産について学習する。その際，いくつかの生態系の物質生産の特徴や各栄養段階とエネルギー効率の関係について学習する。さらに，生物多様性に影響を与える要因を理解させ，生物多様性の重要性を認識させる。	1　個体群　2 2　個体郡内の個体間の関係　2 3　異種個体群間の関係　2 4　生物群集　2 5　生態系における物質生産　2 6　生態系における物質生産　2 探求活動１　1 7　単元のまとめ　2		
	8 9	第8章　生物の起源と進 (15)	生命の起源および生物の変遷を学習する。その際，生命の誕生や生物の変遷は，地球環境の変化と密接に関係していることを理解させる。生物の進化については，そのしくみを学習する。そのうえで，分子進化の概念や種分化のしくみについても学習する。	1　生命の起源　4 2　生物の変遷　4 3　進化のしくみ　4 探求活動２　2 4　単元のまとめ　1		
後期	10 11	第9章　生物の系統 (20)	生物の種類は多様であるが，それらが系統によって分類できることを理解させる。その際，形態的な特徴にもとづいた分類ばかりでなく，近年では，DNAの塩基配列やタンパク質のアミノ酸配列といった分子データにもとづいて系統関係が調べられていることについても扱う。個々の分類群については，その概要を学習する。	1　生物の分類と系統　2 2　原核生物　2 3　原生生物　2 4　植物　2 5　動物　2 6　菌類　2 7　探求活動　6 8　単元のまとめ　2		
	12 1	まとめ （5）		まとめ　5		

２０１９年度　市立函館高等学校　シラバス

教　科	科　目	単位数	年次・コース	教　科　担　任
理科	物理研究	2	３年次	藤井隆徳

使用教科書		使用副教材	

科　目　の　目　標	道徳教育のねらい
物理的な事物・現象に関する基本的な原理・法則を理解すると共に、身のまわりの事物・現象を物理的に探究する方法を身に付ける。	物理的な事物・現象に対する関心や探求心を高め、自然環境や地球環境との関係について理解させ、持続可能な社会の構築や生き方について考えさせる。

	学習活動内容	市函ＤＰ（本校で身に付けさせたい１０の資質・能力）									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		基礎力	思考力	主体的学習力	傾聴力	自己理解・自己管理力	他者理解力	計画実行力	発信・表現力	ｽﾄﾚｽｺﾝﾄﾛｰﾙ力	実践力
1	運動とエネルギー	○	○		○				○		
2	熱	○	○	○					○		
3	波	○	○	○					○		
4	電気	○	○		○				○		
5	分野横断的な課題		○					○			○
6											
7											
8											
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
16											
17											
18											
19	課題提出		○	◎		○		○		◎	○
20	考査	○	○					○	◎		

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
	物理的な事物・現象に関する関心や意欲・態度について、授業中の様子や課題の取り組み状況などから評価する。	物理的な事物・現象に対する思考・判断について課題の取り組み状況や定期考査、小テストなどから評価する。	授業中の発言や説明、定期考査や小テストの記述を要する問題などから評価する。	物理的な事物・現象に関する知識・理解については定期考査や小テスト、課題などから評価する。

評価の方法

次の資料をもとに観点別評価によって総合的に評価する。

	授業での取組	課題への取組	定期考査	小テスト	実験・実習	その他の資料
関心・意欲・態度	○	◎			○	
物理的な見方や考え方	◎		○	○	◎	○
物理的な技能	○		○	○	◎	◎
知識・理解	○	○	◎	◎	○	

物理研究　授業計画

授　業　計　画					実　施　状　況	
	月 （時数）	単元・考査等 （配当時数）	学習のねらい	学習内容 （配当時間）	単元 実施 時数	実施反省
前期	４月 (5) ５月 (7) ６月 (8)	１．運動とエネルギー	物体の運動を表すには、物体の位置やその他の物理量を時間の関数として表すことを理解する。 その後に、力や仕事、エネルギーといった概念がどのように定義されていったか理解を深める。	運動の表し方 運動の法則 仕事と力学的エネルギー	20	
	７月 (4) ８月 (5) ９月 (7)	２．熱	物体内部に蓄えられたエネルギーが移動する際に熱という形態を取ることを理解する。	熱とエネルギー	4	
		３．波	波が伝播する単振動であることを理解し、どのような性質を持つのか考察する。 また、身近な波である音について理解を深める。	波の性質 音	12	
後期	１０月 (7) １１月 (8) １２月 (6) 1月 (3)	４．電気	物性と電流の流れ方の関係について基本的な理解を確認し、ある程度複雑な回路についても考察する。 日常生活に利用される交流と電磁波については何回にならない程度に理解を深める。	物質と電気抵抗 交流と電磁波	15	
		５．分野横断的な課題	単独の分野だけでは解決されない課題について、問題を切り分け、単純化した答えを集積・構成することによって答える方法を学ぶ。	実践的な課題演習	9	
					60	

２０１９年度　市立函館高等学校　シラバス

教　科	科　目	単位数	年次・コース	教　科　担　任
理科	化学研究	2	３年次	鈴木宏伸・鈴木史則・下村薫

使用教科書	化学基礎改訂版（啓林館）	使用副教材	つかむ　センター化学基礎（浜島書店）

科　目　の　目　標	道徳教育のねらい
化学的な事物・現象に関する基本的な原理・法則を理解すると共に、身のまわりの事物・現象を化学的に探究する方法を身に付ける。	化学的な事物・現象に対する関心や探求心を高め、自然環境や地球環境との関係について理解させ、持続可能な社会の構築や生き方について考えさせる。

	学習活動内容	市函ＤＰ（本校で身に付けさせたい１０の資質・能力）									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		基礎力	思考力	主体的学習力	傾聴力	自己理解・自己管理力	他者理解力	計画実行力	発信・表現力	ｽﾄﾚｽｺﾝﾄﾛｰﾙ力	実践力
1	物質の特性と素材	○		○	○						
2	化学変化と日常生活への活用	○	○	○					○		
3	物質の定量的変化	○	○						○		
4											
5											
6											
7											
8											
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
16											
17											
18	グループワーク		○	○	○	○	◎		◎	○	○
19	課題提出		○	◎		○		○		◎	○
20	考査	○	○					○	◎		

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
	化学的な事物・現象に関する関心や意欲・態度について、授業中の様子や課題の取り組み状況などから評価する。	化学的な事物・現象に対する思考・判断について課題の取り組み状況や定期考査、小テストなどから評価する。	授業中の発言や説明、定期考査や小テストの記述を要する問題などから評価する。	化学的な事物・現象に関する知識・理解については定期考査や小テスト、課題などから評価する。

評価の方法

次の資料をもとに観点別評価によって総合的に評価する。

	授業での取組	課題への取組	定期考査	小テスト	実験・実習	その他の資料
関心・意欲・態度	○	◎			○	
化学的な見方や考え方	◎		○	○	◎	○
化学的な技能	○		○	○	◎	◎
知識・理解	○	○	◎	◎	○	

化学研究　授業計画

授業計画					実施状況	
	月 （時数）	単元・考査等 （配当時数）	学習のねらい	学習内容 （配当時間）	単元実施時数	実施反省
前期	４月 (5) ５月 (7) ６月 (8) ７月 (4) ８月 (5) ９月 (7)	１．物質の特性と素材 ａ．物質の特性(6) ｂ．粒子のつながり(8) ｃ．素材の性質(5) ＜前期中間考査＞(1) ２．化学変化と日常生活への活用 ａ．主な化学変化の特徴(3) ｂ．化学反応のもたらす効果(7) ｃ．化学反応の活用事例(5) ＜前期期末考査＞(1)	物質は、原子を化学結合で組み合わせて構成されている。本単元では、物質の特性と原子、化学結合との関係を系統的に理解する。その上で、日常生活で活用されている素材の特性を理解する。 また、新素材の性質を従来の素材と比較しながら学び、その特性が生まれる過程を系統的に探求する。 化学変化の前後では、物質の物理的、化学的性質が大きく変化する。 本単元では、主な化学変化の特徴を理解し、化学反応の応用でもたらされる効果、及び実際の活用事例について、理解を深めていく。	ａ．物質の特性 ①主な物質の特性(3) ②特性と粒子の関係(3) ｂ．粒子のつながり ①結合と性質の関係(4) ②物質の変化と結合(4) ｃ．素材の性質 ①従来素材の特徴(2) ②新素材の性質と探求(3) ａ．主な化学変化と特徴 ①主な化学変化と特徴の比較(1) ②化学変化と性質の変化(2) ｂ．化学反応のもたらす効果 ①主な化学反応の実験と考察(4) ②期待される効果と留意すべき現象(3) ｃ．化学反応の活用事例 ①主な工業的製法とその理論(5)		
後期	１０月 (8) １１月 (8) １２月 (6) １月 (2)	ｄ．化学反応とエネルギー (5) ３．物質の定量的変化 ａ．化学反応と物質量変化 (4) ｂ．化学反応と濃度変化(4) ｃ．化学反応式の定量的関係 (8) ＜後期中間考査＞(1) d．酸化還元反応(2)	化学反応に伴い発生するエネルギーについて、その発生過程と活用のあり方について、探求する。 化学変化を伴う物質の変化は、状態や性質などの物性が大きく変化する。その変化を理解するためには、物質の定量的変化を把握し、考察していくことが大切である。本単元では、物質量や濃度の変化と物性の変化の関係について考察を深めていき、系統立てて説明できる力を養う。	ｄ．化学反応とエネルギー ①化学反応で生み出すエネルギー(5) ａ．化学反応と物質量変化 ①化学の諸法則と物質量(2) ②物質量の概念で考察する化学変化(2) ｂ．化学反応と濃度変化 ①濃度表現の比較(2) ②化学反応・濃度変化と物性の関係(2) ｃ．化学反応式の定量的関係 ①化学変化の定量的なとらえ方(3) ②化学反応の定量的変化と物性の関係 (5) d．酸化還元反応 ①日常生活と酸化還元(2)		

２０１９年度　市立函館高等学校　シラバス

教　科	科　目	単位数	年次・コース	教　科　担　任
理科	生物研究	2	３年次	鈴木　宏伸、栃木　一晃

使用教科書		使用副教材	チェック＆演習　生物基礎　（数研出版）

科　目　の　目　標	道徳教育のねらい
生物現象に関わり，理科の見方・考え方を働かせ，見通しをもって観察，実験などを行うことなどを通して，生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成する。 (1) 日常生活や社会との関連を図りながら，生物や生物現象について理解するととも科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本的な技能を身に付ける。 (2) 観察，実験などを行い，科学的に探究する力を養う。	自然の事物・現象を探究する活動を通して，地球の環境や生態系のバランスなどについて考えさせ，自然と人間との関わりについて認識させることで，生命を尊重し，自然科学の保全に寄与する態度の育成につなげる。見通しをもって観察，実験などを行うことで，科学的に探究する力を育て，科学的に探究しようとする態度を養い，道徳的判断力や真理を大切にしようとする態度の育成する。

	学習活動内容	市函ＤＰ（本校で身に付けさせたい１０の資質・能力）									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		基礎力	思考力	主体的学習力	傾聴力	自己理解・自己管理力	他者理解力	計画実行力	発信・表現力	ストレスコントロール力	実践力
1	第1章　生物の特徴	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2	第2章　遺伝子とそのはたらき	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
3	第3章　生物の体内環境	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
4	第4章　植生と多様性の分布	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
5	第5章　生態系とその保全	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
6											
7	小テスト　単元テスト	◎	○						○		◎
8	課題提出（問題集）	○	○	◎		○		◎	△		○
9	課題提出（レポート等）	◎	○	◎		○		◎	◎		○
10	グループ活動　等	△	◎	◎	◎	◎	◎	△	◎	◎	◎
11	実験実習 等	△	◎	○	◎	○	○	◎	○	○	◎
12											
13											
14											
15											
16											
17											
18											
19											
20											

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
	生物や生物現象に関心や探究心をもち主体的に探究しようとするとともに，科学的態度を身に付けている。	生物や生物現象の中に問題を見いだし探究する過程を通して，事象を科学的に考察し，導き出した考えを的確に表現している。	生物や生物現象に関する観察，実験などを行い，基本操作を習得するとともに，それらの過程や結果を的確に記録，整理し，自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	生物や生物現象に関する基本的な概念や原理・法則について理解を深め，知識を身に付けている。

評価の方法

次の資料をもとに観点別評価によって総合的に評価する。

	授業での取組	課題への取組	単元テスト	課題確認テスト	その他の資料
関心・意欲・態度	○	◎		○	
思考・判断・表現	◎		○		○
観察・実験の技能	◎	◎	○		◎
知識・理解	○	○	◎	○	○

生物研究　授業計画

授業計画					実施状況	
	月 （時数）	単元・考査等 （配当時数）	学習のねらい	学習内容 （配当時間）	単元実施時数	実施反省
前期	4 5	第1章　生物の特徴 （１０）	生物学を学習する上で重要な視点である生物の多様性と共通性について理解する。生物は多様であること，多様な生物にも細胞構造をもつなど共通性があること，その共通性は共通の起源をもつことに由来することを学習する。さらに，酵素のはたらき，光合成と呼吸の学習を通して，生物が代謝によってエネルギーを取り出していることを学習する。	1　生物の多様性と共通性　2 2　エネルギー代謝　2 3　光合成と呼吸　2 4　単元のまとめ　2 探求活動１　2		
	6 7	第2章　遺伝子とそのはたらき （１５）	遺伝情報を担う物質であるDNAについて，その構造，および遺伝情報は塩基配列にあることを理解する。次に転写と翻訳の概要から，生命現象において重要なタンパク質の合成について学習する。さらに，遺伝情報は正確に複製されて受け継がれること，それぞれの細胞ではすべての遺伝子が発現しているわけではないことについて学習する。	1　遺伝情報とＤＮＡ　4 2　遺伝情報の発現　4 3　遺伝情報の分配　4 4　単元のまとめ　2 探求活動２　1		
後期	8 9	第3章　生物の体内環境 （１６）	動物の体内の細胞にとって，体液は一種の環境（体内環境）である。この章では体内環境がいかにしてほぼ一定に保たれているのか，また体内ではどのようなしくみがはたらき，どのように調節が行われているのか，循環系，腎臓と肝臓，自律神経系と内分泌系，免疫について学習する。私たち自身のからだにかかわる内容についてできるだけ身近な話題を取り上げながら理解する。	1　体内環境としての体液　2 2　腎臓と肝臓による調節　4 3　神経とホルモンによる調節　4 4　免疫　4 探求活動３　2		
	10 11	第4章　植生の多様性と分布 （１５）	植生について，その構造や，遷移とそのしくみについて学習する。さらに，地球上にはさまざまなバイオームが見られること，どのようなバイオームが分布するかは主に気温と降水量によって決まることを，世界と日本のバイオームを取り上げて学習する。	1　植生とその成り立ち　4 2　植生と遷移　4 3　気候とバイオーム　4 探求活動４　3		
	12 1	第5章　生態系とその保 （４）	生態系の成り立ち，生態系における物質循環とエネルギーの流れについて学習する。その上で，生態系はそのバランスが保たれていること，人間の活動が生態系のバランスに大きな影響を与えていることなどを，身近な例から地球レベルの環境問題までを取り上げながら学習し，自然環境を保全することが大切であることを理解する。	1　生態系とその成り立ち　1 2　物質循環とエネルギー　1 3　生態系のバランスと保全　1 探求活動５　1		

２０１９年度　市立函館高等学校　シラバス

教　科	科　目	単位数	年次・コース	教　科　担　任
理科	地学研究	２	３ 年次	下　村　　薫

使用教科書	改訂高等学校　地学基礎 第一学習社	使用副教材	チェック＆演習　地学基礎（三訂正版） 数研出版

科　目　の　目　標	道徳教育のねらい
日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境への関心を高め，目的意識をもって観察，実験などを行い，地学的に探究する能力と態度を育てるとともに，地学の基本的な概念や原理・法則を理解させ，科学的な見方や考え方を養う。	２年次の地学基礎の学習内容や昨今の日本列島の状況の理解を深化させ、自他の命を守ろうとする態度等を強く意識させたい。また将来の進路実現に対応できる実力の養成に自ら取り組む態度を育成したい。

	学習活動内容	市函ＤＰ（本校で身に付けさせたい１０の資質・能力） 1 基礎力	2 思考力	3 主体的学習力	4 傾聴力	5 自己理解・自己管理力	6 他者理解力	7 計画実行力	8 発信・表現力	9 ｽﾄﾚｽｺﾝﾄﾛｰﾙ力	10 実践力
1	宇宙における地球			○							
2	活動する地球			○							
3	移り変わる地球			○							
4	大気と海洋			○							
5	地球の環境		○	○			○	○			○
6											
7											
8											
9											
#											
#											
#											
#											
#											
#											
#											
#	グループワーク		○	○	○	○	◎		◎	○	○
#	課題提出		○	◎		○		○		◎	○
#	考査	○	○					○	◎		

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
	地学的な事物・現象に関心や探究心をもち，意欲的にそれらを探究するとともに，科学的態度を身に付けている。	地学的な事物・現象の中に問題を見出し，事象を，分析的・総合的に考察し，問題を解決するとともに，事実にもとづいて科学的に判断したことを言語活動を通じて表現する。	事物・現象に関する観察，実験の技能を習得するとともに，それらを科学的に探究する方法を身に付け，そこから導き出した自らの考えを的確に表現する。	観察，実験などを通して地学的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解し，知識を身に付けている。

評価の方法

次の資料をもとに観点別評価によって総合的に評価する。

	授業での取組	課題への取組	定期考査	単元テスト	課題確認テスト	その他の資料
関心・意欲・態度	○	◎			○	
思考・判断・表現	◎		○	○		○
観察・実験の技能	○		○	○		◎
知識・理解	○	○	◎	◎	○	

地学基礎　授業計画

授業計画						実施状況	
	月 （時数）	単元・考査等 （配当時数）	学習のねらい	学習内容 （配当時間）		単元 実施 時数	実施反省
前期		第１章　宇宙における地球					
		１節　宇宙の構成	①銀河系の構造について	宇宙の始まり	1	10	
	4 (5)		②宇宙の構造や進化について	銀河の分布			
	5 (5)	２節　太陽	①恒星としての太陽の姿について	太陽の構造	1		
				太陽の組成			
				太陽の進化	1		
		３節　太陽系の中の地球	①太陽系の天体の特徴について	太陽系の誕生と構造	2		
			②太陽系の誕生と進化について	地球型惑星と木星型惑星	4		
			③太陽活動の日常生活への影響について	惑星、衛星以外の天体	1		
		＜前期中間考査＞(1)					
		第２章　活動する地球				20	
	5 (3)	１節　地球の姿	①地球の形や大きさについて	地球の形、大きさ，その測定法	2		
	6 (8)		②地球内部の層構造について	地球の内部構造と構成物質	2		
	7 (6)		③内部の状態や構成物質について	プレート運動と造山運動	2		
	8 (3)		④プレート運動と造山運動				
		２節　火山活動と地震	①プレート運動と火山、地震について	火山の分布、火山地形	2		
			②地震の起こる仕組みについて	火成岩の種類	2		
			③地震波の性質と震源距離について	火山噴火と火成岩	1		
			④マグマの性質と火山活動について	地震発生の仕組み	3		
				地震の分布	2		
				地震の動き、震源	3		
		＜前期期末考査＞(1)					
後期		第３章　移り変わる地球					
		１節　地層や岩石と地質構造	①地表変化と地層形成の仕組みについて	地層形成	1	14	
	9 (6)		②岩石の種類とその性質について	地層と堆積構造			
	10 (8)		③地層から過去の地球の動きを読み解く	堆積岩	1		
		２節　地球環境と	①多様な生物への進化と環境について	地殻変動	2		
		生物界の変遷		変成岩	1		
				化石	3		
				地層の対比			
				各地質時代について	6		
		＜後期中間考査＞(1)					
	11 (8)	第４章　大気と海洋				8	
	12 (5)	１節　地球の熱収支	①地球の熱収支と温室効果について	大気圏の構造とその特徴	1		
	1 (3)	２節　大気と海洋の運動	①大気圏の構造について	太陽放射と地球放射	2		
			②大気の大循環と熱収支の関係について	地球のエネルギー平衡	2		
			③海洋の層構造や海流について	大気の大循環	1		
				海洋の構造と大循環			
				緯度によるエネルギー収支	1		
		第５章　地球の環境					
		１節　地球環境の科学	①自然災害や防災について	地球環境の変化について	3	8	
		２節　日本の自然環境	②四季の気象の特徴と日常生活について	エルニーニョとラニーニャ	1		
			③地球環境について今、自分に何ができるか	日本の気象	3		
	2 ()			災害と防災	3		
	3 ()						

平成３１年度　市立函館高等学校　シラバス

教　　科	科　　目	単位数	年次・コース	教　科　　担任
保健体育	体育	2	３年男子	北辻　厚規・上島　真一

使用教科書	現代保健体育（大修館）	使用副教材	

科目の目標	道徳教育のねらい
健康や体力について合理的に実践し、運動技能を高めるとともに、それらの経験を通して、公正・協力・責任などの態度を育て、強健な心身の発達を促して生涯を通して継続的に運動を実践できる能力と態度を育てる。	集団行動や授業準備、実技において、協力や思いやり、安全指導などを通じて道徳心を育てる。

	学習活動内容	市函DP（本校で身に付けさせたい１０の資質・能力）									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		基礎力	思考力	主体的学習力	傾聴力	自己理解自己管理力	他者理解力	計画実行力	発信表現力	ストレスコントロール力	実践力
1	選択種目Ⅰ（サッカー&ソフト）	○	◎	◎			◎	○	○		○
2	体つくり運動・体力測定	◎				◎					
3	体育理論		◎		◎						
4	選択種目Ⅱ（バレー・ソフト・サッカー）			◎			◎	○	○		○
5	クラス選択球技			○							○
6	選択種目Ⅲ（外種目or中種目）		◎	◎			◎	○	○		○
7	選択種目Ⅳ（ダンス・バド・卓球）		◎	◎			◎	○	○		○
8	クラス選択球技			○							○
9											
10											
11											
12											

	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
評価の観点	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるように、公正、協力、責任、参画などに対する意欲をもち、健康・安全を確保して学習に主体的に取り組もうとする。	生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫している。また、自己や仲間の状況に応じて体力を高めるための運動を継続するための計画を工夫している。	運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じて勝敗を競ったり、攻防の展開したり、表現したりするための各領域の運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けている。	選択した運動の技能（技）の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、練習や発表の仕方、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方について具体的な方法、スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴、運動やスポーツの効果的な学習の仕方及び豊かなスポーツライフの設計の仕方を理解している。
評価の方法	授業の準備・後片付けなどへの協力姿勢、意欲的な取組・グループでの協力姿勢を評価	授業における練習の取組方、ワークシートでの評価	各種目における実技テスト、記録・発表会を評価	ペーパーテスト、または口頭試問による評価

３年男子体育　授業計画

授　業　計　画					実施状況	
	月 (時数)	単元・考査等 （配置時数）	学習のねらい	学習内容 （配当時間）	単元 実施 時数	実施反省
前期	4月 5月 6月	選択種目Ⅰ（１１）	・「サッカー」、「ソフトボール」から１種目を選択し実施する。選択した種目のより高い技術や戦術を身につけ競技への理解を深める。	・基本技術習得のための練習（２） ・グループ技能を高める練習（３） ・ゲーム形式（６）		
	6月	体つくり運動・スポーツテスト（	・集団行動・集団づくり、補強運動、スポーツテストを実施し自らの体力への理解を深め今後の授業にいかす。	・体つくり運動・スポーツテスト（６）・・・「体ほぐし運動」と「体力を高める運動」を通じて、心と体の状態を把握し仲間とともに運動に親しむための基礎を養う。		
	5月 6月 7月	体育理論（３）	・運動・スポーツの学び方を学習し、運動をより合理的に実践する資質を養う。	・生涯スポーツの見方、考え方 ・ライフスタイルに応じたスポーツ ・日本のスポーツ復興 　＆スポーツ環境 （各１ｈ）		
	７・８月	選択種目Ⅱ（５）	・球技大会で実施する・「バレー」、「ソフト」「サッカー」から種目を選択し、技術向上、または仲間との連携を高め、工夫した取り組みを実践する。	・球技大会種目の練習（５）		
	8月 9月	クラス選択球技（９）	・各クラスで球技を選択し、試合形式を中心に実践する。 ・これまで１年次、2年次で行った種目から複数の種目を実践する。	・9時間の球技、試合を中心に実践する。 ・運営、審判など生徒自身で行う		
	9月 10月	選択種目Ⅲ男女混合（１２）	・男女混合選択 ・外種目「テニス」、「サッカー」、中種目「バレー」、「バスケ」から中か外を選択し、2種目を実施する。選択した種目のより高い技術や戦術を身につけ競技への理解を深める。	・各種目6時間ずつ実施。		
	10月 11月 12月	体育理論（３）	・運動・スポーツの学び方を学習し、運動をより合理的に実践する資質を養う。	・オリンピックと国際理解 ・スポーツと経済 ・ドーピングとスポーツ理論 （各１ｈ）		
	１１月 １２月	選択種目Ⅳ男女混合（１２）	・男女混合選択 ・「ダンス」、「バドミントン」、「卓球」から選択し、実施する。選択した種目のより高い技術や戦術を身につけ競技への理解を深める。	・基本技術習得のための練習（３） ・グループ技能を高める練習（３） ・ゲーム形式（６）		
	１月	クラス選択球技（２）	・各クラスで球技を選択し、試合形式を中心に実践する。 ・これまで１年次、2年次で行った種目から複数の種目を実践する。	・２時間程度の球技、試合を中心に実践する。 ・運営、審判など生徒自身で行う		

平成３１年度　市立函館高等学校　シラバス

教　　科	科　　目	単位数	年次・コース	教　科　　担任
保健体育	体育	2	３年女子	猪股　整

使用教科書	現代保健体育（大修館）	使用副教材	

科目の目標	道徳教育のねらい
健康や体力について合理的に実践し、運動技能を高めるとともに、それらの経験を通して、公正・協力・責任などの態度を育て、強健な心身の発達を促して生涯を通して継続的に運動を実践できる能力と態度を育てる。	集団行動や授業準備、実技において、協力や思いやり、安全指導などを通じて道徳心を育てる。

	学習活動内容	市函DP（本校で身に付けさせたい１０の資質・能力）									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		基礎力	思考力	主体的学習力	傾聴力	自己理解自己管理力	他者理解力	計画実行力	発信表現力	ストレスコントロール力	実践力
1	選択種目Ⅰ（バレー&バスケ）	○	◎	◎			◎	○	○		○
2	体つくり運動・体力測定	◎				◎					
3	体育理論		◎		◎						
4	選択種目Ⅱ（バレー・ソフト・混合バレー）			◎			◎	○	○		○
5	クラス選択球技			○							○
6	選択種目Ⅲ（外種目or中種目）		◎	◎			◎	○	○		○
7	選択種目Ⅳ（ダンス・バド・卓球）		◎	◎			◎	○	○		○
8	クラス選択球技			○							○
9											
10											
11											
12											

	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
評価の観点	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるように、公正、協力、責任、参画などに対する意欲をもち、健康・安全を確保して学習に主体的に取り組もうとする。	生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫している。また、自己や仲間の状況に応じて体力を高めるための運動を継続するための計画を工夫している。	運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じて勝敗を競ったり、攻防の展開したり、表現したりするための各領域の運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けている。	選択した運動の技能（技）の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、練習や発表の仕方、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方について具体的な方法、スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴、運動やスポーツの効果的な学習の仕方及び豊かなスポーツライフの設計の仕方を理解している。
評価の方法	授業の準備・後片付けなどへの協力姿勢、意欲的な取組・グループでの協力姿勢を評価	授業における練習の取組方、ワークシートでの評価	各種目における実技テスト、記録・発表会を評価	ペーパーテスト、または口頭試問による評価

３年女子体育　授業計画

授　業　計　画					実施状況	
	月 (時数)	単元・考査等 （配置時数）	学習のねらい	学習内容 (配当時間)	単元 実施 時数	実施反省
前期	4月 5月 6月	選択種目Ⅰ（１１）	・「バレー」、「バスケットボール」から１種目を選択し実施する。選択した種目のより高い技術や戦術を身につけ競技への理解を深める。	・基本技術習得のための練習（２） ・グループ技能を高める練習（３） ・ゲーム形式（６）		
	6月	体つくり運動・スポーツテスト（	・集団行動・集団づくり、補強運動、スポーツテストを実施し自らの体力への理解を深め今後の授業にいかす。	・体つくり運動・スポーツテスト（６）・・・「体ほぐし運動」と「体力を高める運動」を通じて、心と体の状態を把握し仲間とともに運動に親しむための基礎を養う。		
	5月 6月 7月	体育理論（３）	・運動・スポーツの学び方を学習し、運動をより合理的に実践する資質を養う。	・生涯スポーツの見方、考え方 ・ライフスタイルに応じたスポーツ ・日本のスポーツ復興 ＆スポーツ環境 （各１ｈ）		
	７・８月	選択種目Ⅱ（５）	・球技大会で実施する・「バレー」、「ソフト」「混合バレー」から種目を選択し、技術向上、または仲間との連携を高め、工夫した取り組みを実践する。	・球技大会種目の練習（５）		
	8月 9月	クラス選択球技（９）	・各クラスで球技を選択し、試合形式を中心に実践する。 ・これまで１年次、2年次で行った種目から複数の種目を実践する。	・9時間の球技、試合を中心に実践する。 ・運営、審判など生徒自身で行う		
	9月 10月	選択種目Ⅲ男女混合（１２）	・男女混合選択 ・外種目「テニス」、「サッカー」、中種目「バレー」、「バスケ」から中か外を選択し、2種目を実施する。選択した種目のより高い技術や戦術を身につけ競技への理解を深める。	・各種目6時間ずつ実施。		
	10月 11月 12月	体育理論（３）	・運動・スポーツの学び方を学習し、運動をより合理的に実践する資質を養う。	・オリンピックと国際理解 ・スポーツと経済 ・ドーピングとスポーツ理論 （各１ｈ）		
	１１月 １２月	選択種目Ⅳ男女混合（１２）	・男女混合選択 ・「ダンス」、「バドミントン」、「卓球」から選択し、実施する。選択した種目のより高い技術や戦術を身につけ競技への理解を深める。	・基本技術習得のための練習（３） ・グループ技能を高める練習（３） ・ゲーム形式（６）		
	１月	クラス選択球技（２）	・各クラスで球技を選択し、試合形式を中心に実践する。 ・これまで１年次、2年次で行った種目から複数の種目を実践する。	・２時間程度の球技、試合を中心に実践する。 ・運営、審判など生徒自身で行う		

２０１９年度　市立函館高等学校　シラバス

教　科	科　目	単位数	年次・コース	教　科　担　任
音楽	音楽教養	2	３年次	成田　良太

使用教科書		使用副教材	生徒個々の進路目標に対応した、楽典や練習曲などを使用する。

科　目　の　目　標	道徳教育のねらい
・卒業後の進路に応じて，自己の音楽的専門性を高める。″ ・生涯にわたり音楽に親しみ，音楽を通じて自己の人生を豊かにする。	音楽経験をとおして，深い美的情操と豊かな人間性を養い、円満な人格の発達をはかり、社会人としての教養を高める。

	学習活動内容	市函ＤＰ（本校で身に付けさせたい１０の資質・能力）									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		基礎力	思考力	主体的学習力	傾聴力	自己理解･自己管理力	他者理解力	計画実行力	発信･表現力	ｽﾄﾚｽｺﾝﾄﾛｰﾙ力	実践力
1	ソルフェージュ	○		○					○		
2	歌唱（独唱）	○		○					○		
3	器楽（専攻楽器器独奏）	○		○					○		
4	鑑賞	○	○		○						
5	楽典	○	○								
6											
7											
8											
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
16											
17											
18	グループワーク		○	○	○	○	◎		◎	○	○
19	課題提出		○	◎		○		○		◎	○
20	実技テスト	○	○					○	◎		

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
	・個性豊かで意欲的・主体的に音楽活動を行っているか。 ・音楽活動の喜びを味わおうとしているか。	・個性豊かで創造的な音楽活動の工夫をしているか。	・創造的な表現をするための技を身に付けているか。	・多様な音楽や音楽文化のよさや美しさを主体的に味わっているか。

評価の方法

次の資料をもとに観点別評価によって総合的に評価する。

	授業での取組	歌唱実技テスト	器楽実技テスト	ﾐｭｰｼﾞｯｸﾉｰﾄ	単元テスト	鑑賞レポート
関心・意欲・態度	◎					
思考・判断	◎	○	○			
技能・表現	○	◎	◎			○
知識・理解	○			◎	◎	◎

音楽教養　授業計画

授業計画					実施状況	
	月 （時数）	単元・考査等 （配当時数）	学習のねらい	学習内容 （配当時間）	単元 実施 時数	実施反省
前期	４月	器楽 ソルフェージュ①	ソロ楽器を決定し、発展的な練習計画を立てる コールユーブンゲンNo.1～No.10	エチュードの決定と基礎トレーニング 正しい発声と正しいピッチで歌う	6	
	５月	器楽　練習曲の決定 ソルフェージュ②	ソロ曲に取り組む コールユーブンゲンNo.10～No.13	個々のレベルに合った曲目を練習する ２拍が１音符となるリズム・	8	
	６月	器楽　ソロ曲の練習① ソルフェージュ③	正しいピッチと旋律の表現 コールユーブンゲンNo.14～No.17	楽曲を分析し作曲者の意図を研究する ト長調の歌い方 切分音	8	
	７月	器楽　ソロ曲の練習②	豊かな旋律の表現を心がける	模範演奏を試聴して参考にする	8	
	８月	ソルフェージュ③	コールユーブンゲンNo.18～No.19	三度音程・リズムの句文と楽句の切り方		
	９月	ソルフェージュ④	コールユーブンゲンNo.20～No.23	２拍以上の拍が１音符となる場合		
後期	１０月	器楽　練習曲の決定② ソルフェージュ⑤	演奏レベルの確認 コールユーブンゲンNo.24～No.25	難易度の高い曲を選曲する 四度音程	10	
	１１月	器楽　ソロ曲の練習③ ソルフェージュ⑥	正しく楽譜を読む コールユーブンゲンNo.26～No.27	ゆっくりしたテンポから練習を始める １拍を２分したリズム・さらに小さい 付点音符	10	
	１２月 １月	器楽　ソロ曲の練習④ ソルフェージュ⑥	曲全体の表現 コールユーブンゲンNo.28～No.29	相互に演奏を聴き合いアドヴァイスする ８分の３拍子と８分の６拍子	10	

２０１９年度　市立函館高等学校　シラバス

教　科	科　目	単位数	年次・コース	教　科　担　任
芸　術	美術教養	2	３年次	佐々木　龍

使用教科書	なし	使用副教材	なし

科　目　の　目　標	道徳教育のねらい
美的体験を豊かにし、美術を愛好する心情を育て、生涯にわたり美術を学び親しむための基礎的な技術や美術に対しての教養を養う。	芸術を愛好し、美を探究する過程で、自然への感謝と生物に対する尊敬の念を持ち、他を思いやる心を育てる。

	学習活動内容	市函ＤＰ（本校で身に付けさせたい１０の資質・能力）									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		基礎力	思考力	主体的学習力	傾聴力	自己理解・自己管理力	他者理解力	計画実行力	発信・表現力	ｽﾄﾚｽｺﾝﾄﾛｰﾙ力	実践力
1	写真表現の世界		○	○	○		○		○	○	○
2	立体デザイン	○	○	○		○	○	○	○	○	○
3	映像メディア表現	○	○	○		○	○	○	○	○	○
4	美術館鑑賞		○	○	○	○	○			○	
5											
6											
7											
8											
9 10 11 12 13 14 15 16 17											
18											
19											
20											

	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
評価の観点	美術の文化を理解し、意欲的・主体的に授業に取り組んでいるか	感性や想像力を働かせて主題を生成し、創造的な表現の構想を練っているか	創造的な表現に必要な技能を身に付け、表現方法を工夫して表しているか	美術や美術文化を幅広く理解し、そのよさや美しさを創造的に味わうことができるか

評価の方法

次の資料をもとに観点別評価によって総合的に評価する。

	授業での取組	作品	発表	鑑賞		
関心・意欲・態度	○		◎	○		
思考・判断	◎	◎	◎			
技能・表現	○	◎	○			
知識・理解	◎	◎	○	◎		

美術教養　授業計画

授　業　計　画					実　施　状　況	
	月（時数）	単元・考査等（配当時数）	学習のねらい	学習内容（配当時間）	単元実施時数	実施反省
前期	4月	写真表現の世界	・今や身近なツールであるカメラを用いて、カメラの基礎や基本的な技術を習得することで表現の世界が広がることを理解する	・写真についての技法を学び、屋外にて実際に撮影する ・画像の加工によって新たな世界を表現できることを学ぶ	6	
		立体デザイン	・石彫粘土を用いることで自由なかたちを作ることが可能であり、オリジナリティを発揮した作品を生み出す	・石彫粘土を用いて、小品（ゆるキャラ）を制作するためのコンセプトを練り、デザインを検討する ・制作した作品にアクリルガッシュで彩色し、完成度を高める	20	
	8月	美術館鑑賞 （会期に合わせて挿入）	・本物の絵画や彫刻に触れ、そのよさを知るとともに美術を愛する心情を育てる	・函館美術館を訪問し、学芸員の方からの解説を受け、作品を鑑賞する （2）		
	9月	映像メディア表現 （商品CMの制作）	・スマホのアプリを活用することで、映像メディアに対する表現力を養うとともに、様々な表現技法や技術を習得し、新たな感性を引き出す	・様々なCMを鑑賞し、コンセプトを研究し、理解する ・スマホのアプリを活用し、表現技法を学び、効果的に利用する方法を学ぶ ・ムービーの内容を検討し、素材を撮影し、様々な加工を行う ・途中経過を互いに鑑賞し合い、より高いレベルでの動画の制作を行う （４４）	44	
後期	10月～1月	映像メディア表現（続き）	・それぞれが自由に制作したい内容を決め、その計画に沿って卒業制作を行う	・卒業制作として行いたいことを検討し、各自で制作を行う		

２０１９年度　市立函館高等学校　シラバス

教　科	科　目	単位数	年次・コース	教　科　担　任
芸　術	書道教養	2	３年次	鈴　木　孝　徳

使用教科書		使用副教材	プリント書道（教科担任作成資料）

科　目　の　目　標	道徳教育のねらい
書道の幅広い活動を通して、書を愛好する心情を育てると共に、感性を豊かにし、書写能力と実用書を含む書道全般を学習することを目標とする。	芸術を愛好し、美を探究する過程で、自然への感謝と生物に対する尊敬の念を持ち、他を思いやる心を育てる。

	学習活動内容	市函ＤＰ（本校で身に付けさせたい１０の資質・能力）									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		基礎力	思考力	主体的学習力	傾聴力	自己理解・自己管理力	他者理解力	計画実行力	発信・表現力	ｽﾄﾚｽｺﾝﾄﾛｰﾙ力	実践力
1	導入･基本姿勢･基本用筆法	○			○						○
2	楷書	○		○			○				○
3	行書	○	○	○			○				○
4	かな	○	○	○			○				○
5	実用書	○	○	○	○			○			○
6	漢字かな交じり	○	○	○		○		○	○		○
7											
8											
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
16											
17											
18	探究心プリント	○	○	○		○	○	○	○		○
19	作品選別・批評会	○	○	○	○	○	○		○	○	○
20	展覧会レポート課題	○	○	○		○	○		○		○

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
	技術の向上･表現活動への探究心、鑑賞活動への積極的参加	法帖の解釈、ことばの解釈、作品批評	用筆法、構成力、生命感	書道史、書道用語、書道一般常識

評価の方法

次の資料をもとに観点別評価によって総合的に評価する。

	臨　書	創　作	作　品	探究心プリント	作品選別・批評会	展覧会レポート
関心・意欲・態度			◎	○	○	○
思考・判断	◎	◎	○	◎	◎	◎
技能・表現	○	◎	◎		○	
知識・理解	◎	○	○	◎	○	○

書道教養　授業計画

授業計画					実施状況	
	月（時数）	単元・考査等（配当時数）	学習のねらい	学習内容（配当時間）	単元実施時数	実施反省
前期	4月	導入 基礎練習	姿勢、筆の持ち方、運腕、運筆、用筆	姿勢、筆の持ち方、運腕、運筆 用筆（6）	6	
	5月 6月	楷書	高貞碑	北魏楷書、骨力、直線力、剛腕（7） 作品選別・批評会（1）	8	
	7月 8月		建中告身帖	顔法、筆力、向勢、上下動（7） 作品選別・批評会（1）	8	
	9月		九成宮醴泉銘	初唐楷書、整斉美、バランス（7） 作品選別・批評会（1）	8	
後期	10月	行書	温泉銘	行書基本、流動美、（9） 作品選別・批評会（1）	10	
	11月	かな 基礎練習	高野切第三種を基に「いろは」	基本、連綿、整斉美（7） 作品選別・批評会（1）	8	
	12月	実用書 基礎練習	手紙・はがき・その他	基礎、配置、慣用など（6）	6	
	1月	漢字かな交じりの書	近代詩文書	現代書研究・創作自由表現（6）	6	

２０１９年度　市立函館高等学校　シラバス

教　科	科　目	単位数	年次・コース	教　科　担　任
音楽	音楽専科	2	３年次	成田　良太

使用教科書		使用副教材	生徒個々の進路目標に対応した、楽典や練習曲などを使用する。

科　目　の　目　標	道徳教育のねらい
音楽系大学の受験に向けて、受験科目となる実技の技術向上を目指す。	音楽経験をとおして，深い美的情操と豊かな人間性を養い、円満な人格の発達をはかり、社会人としての教養を高める。

	学習活動内容	市函ＤＰ（本校で身に付けさせたい１０の資質・能力）									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		基礎力	思考力	主体的学習力	傾聴力	自己理解･自己管理力	他者理解力	計画実行力	発信･表現力	ｽﾄﾚｽｺﾝﾄﾛｰﾙ力	実践力
1	ソルフェージュ	○		○					○		
2	歌唱（独唱）	○		○					○		
3	器楽（専攻楽器器独奏）	○		○					○		
4	鑑賞	○	○		○						
5	楽典	○	○								
6											
7											
8											
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
16											
17											
18	グループワーク		○	○	○	○	◎		◎	○	○
19	課題提出		○	◎		○		○		◎	○
20	実技テスト	○	○					○	◎		

	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
評価の観点	・個性豊かで意欲的・主体的に音楽活動を行っているか。 ・音楽活動の喜びを味わおうとしているか。	・個性豊かで創造的な音楽活動の工夫をしているか。	・創造的な表現をするための技能を身に付けているか。	・多様な音楽や音楽文化のよさや美しさを主体的に味わっているか。

評価の方法

次の資料をもとに観点別評価によって総合的に評価する。

	授業での取組	歌唱実技テスト	器楽実技テスト	ﾐｭｰｼﾞｯｸﾉｰﾄ	単元テスト	鑑賞レポート
関心・意欲・態度	◎					
思考・判断	◎	○	○			
技能・表現	○	◎	◎			○
知識・理解	○			◎	◎	◎

音楽専科　授業計画

授業計画					実施状況	
	月 （時数）	単元・考査等 （配当時数）	学習のねらい	学習内容 （配当時間）	単元 実施 時数	実施反省
前期	４月	楽典　譜表と音名 器楽 ソルフェージュ①	楽譜の理解 ソロ楽器を決定し、発展的な練習 計画を立てる コンコーネ第１番・新曲視唱	五線・音部記号・譜表・音名・変化記号 エチュードの決定と基礎トレーニング 正しい発声とメロディーの歌い方 正しいピッチと調性感を養う	6	
	５月	楽典　音符と休符 器楽　練習曲の決定 ソルフェージュ②	音符と休符の種類を理解 ソロ曲に取り組む コンコーネ第５番・新曲視唱	音符・休符の種類と長さ・連符・タイ 個々のレベルに合った曲目を練習する へ長調の歌い方	8	
	６月 ７月	楽典　リズムと拍子 器楽　ソロ曲の練習① ソルフェージュ③	リズム・拍子の記譜法 正しいピッチと旋律の表現 コンコーネ第１３番・新曲視唱	リズム・拍・強拍と弱拍・拍子の種類・シンコペーション 楽曲を分析し作曲者の意図を研究する ト長調の歌い方	8	
	９月	楽典　音程 器楽　ソロ曲の練習② ソルフェージュ④	音程の理解 豊かな旋律の表現を心がける コンコーネ第３番・新曲視唱	度数・音程の種類・派生音を含む音程 模範演奏を試聴して参考にする ハ長調の歌い方	8	
後期	１０月	楽典　音階 器楽　練習曲の決定② ソルフェージュ⑤	長音階・短音階の理解 演奏レベルの確認 コンコーネ第８番・新曲視唱	長音階・短音階・調の相互関係 難易度の高い曲を選曲する 変ホ長調の歌い方	10	
	１１月 １２月 1月	楽典　和音 器楽　ソロ曲の練習③	三和音の理解 正しく楽譜を読む	和音の構成音・三和音の種類 ゆっくりしたテンポから練習を始める 相互に演奏を聴き合い、アドバイスする	20	

２０１９年度　市立函館高等学校　シラバス

教　科	科　目	単位数	年次・コース	教　科　担　任
芸　術	美術専科	2	３年次	佐々木　龍

使用教科書	なし	使用副教材	なし

科　目　の　目　標	道徳教育のねらい
美術系の進学に向けて必要となる資質や技術を身に付けるとともに、これまで学んできたことを振り返り、伸ばしていく。	芸術を愛好し、美を探究する過程で、自然への感謝と生物に対する尊敬の念を持ち、他を思いやる心を育てる。

	学習活動内容	市函ＤＰ（本校で身に付けさせたい１０の資質・能力）									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		基礎力	思考力	主体的学習力	傾聴力	自己理解・自己管理力	他者理解力	計画実行力	発信・表現力	ｽﾄﾚｽｺﾝﾄﾛｰﾙ力	実践力
1	実技・進路指導	◎	○	◎		○		○	○	○	◎
2	美術館鑑賞		○	○	○	○	○			○	
3											
4											
5											
6											
7											
8											
9 10 11 12 13 14 15 16 17											
18											
19											
20											

	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
評価の観点	美術の文化を理解し、意欲的・主体的に授業に取り組んでいるか	感性や想像力を働かせて主題を生成し、創造的な表現の構想を練っているか	創造的な表現に必要な技能を身に付け、表現方法を工夫して表しているか	美術や美術文化を幅広く理解し、そのよさや美しさを創造的に味わうことができるか

評価の方法

次の資料をもとに観点別評価によって総合的に評価する。

	授業での取組	作品	発表	鑑賞		
関心・意欲・態度	○		◎	○		
思考・判断	◎	◎	◎			
技能・表現	○	◎	○			
知識・理解	◎	◎	○	◎		

美術専科　授業計画

授　業　計　画					実　施　状　況	
	月（時数）	単元・考査等（配当時数）	学習のねらい	学習内容（配当時間）	単元実施時数	実施反省
前期	4月	**実技指導（通年）** **進路指導（通年）**	・生徒それぞれの進路について面談し、実技試験やその他の受験に合わせた指導を行う。 ・鉛筆デッサン ・木炭デッサン ・着彩 ・小論文 ・自己推薦書	・個々の進路に応じたデッサンや論文、面接の指導を通して自己実現につなげる	68	
	8月	美術館鑑賞 （会期に合わせて挿入）	・本物の絵画や彫刻に触れ、そのよさを知るとともに美術を愛する心情を育てる	・函館美術館を訪問し、学芸員の方からの解説を受け、作品を鑑賞する （2）	2	
後期	10月 ～ 1月	**実技指導（通年）** **進路指導（通年）**	・前期に学んできたことをより高めていく	・個々の進路に応じたデッサンや論文、面接の指導を通して自己実現につなげる		

２０１９年度　市立函館高等学校　シラバス

教　科	科　目	単位数	年次・コース	教　科　担　任
芸　術	書道専科	2	３年次	鈴　木　孝　徳

使用教科書		使用副教材	中国法書選・日本法書選

科　目　の　目　標	道徳教育のねらい
書道の幅広い活動を通して、書を愛好する心情を育てると共に、感性を豊かにし、専門的な書写能力と芸術性を探究することを目標とする。	芸術を愛好し、美を探究する過程で、自然への感謝と生物に対する尊敬の念を持ち、他を思いやる心を育てる。

	学習活動内容	市函ＤＰ（本校で身に付けさせたい１０の資質・能力）									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		基礎力	思考力	主体的学習力	傾聴力	自己理解・自己管理力	他者理解力	計画実行力	発信・表現力	ｽﾄﾚｽｺﾝﾄﾛｰﾙ力	実践力
1	臨書	○	○	○	○		○	○	○		○
2	創作	○	○	○	○	○	○	○	○		○
3	書道史	○	○	○	○		○				○
4	書論	○	○	○	○		○		○		○
5	作品制作研究	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
6											
7											
8											
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
16											
17											
18	探究心プリント	○	○	○		○	○	○	○		○
19	作品選別・批評会	○	○	○	○	○	○		○	○	○
20	展覧会レポート課題	○	○	○		○	○		○		○

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
	技術の向上･表現活動への探究心、鑑賞活動への積極的参加	法帖の解釈、ことばの解釈、作品批評	用筆法、構成力、生命感	書道史、書道用語、書道一般常識

評価の方法

次の資料をもとに観点別評価によって総合的に評価する。

	臨　書	創　作	作　品	探究心プリント	作品選別・批評会	展覧会レポート
関心・意欲・態度	○		◎	○	○	○
思考・判断	◎	◎	○	◎	◎	◎
技能・表現	○	◎	◎		○	
知識・理解	◎	○	○	◎	○	○

書道専科　授業計画

授業計画					実施状況	
	月（時数）	単元・考査等（配当時数）	学習のねらい	学習内容（配当時間）	単元実施時数	実施反省
前期	4月	作品研究臨書	臨書作品制作	各自選別法帖臨書探究①（10） 書道史（1）	11	
	5月 6月			各自選別法帖臨書探究②（10） 書道史（1）	11	
	7月 8月					
	9月			各自選別法帖臨書探究③（10） 書道史（1）	11	
後期	10月					
	11月	創作	漢字かな交じりの書	漢字かな交じり書基本（3） 作品制作①（10）	13	
	12月			作品制作②（8）	8	
	1月			作品制作③（6）	6	

2019年度　市立函館高等学校　シラバス

教　科	科　目	単位数	年次・コース	教 科 担 任
外国語	コミュニケーション 英語Ⅲ	4	3年次	佐藤　務・清水　加世・島　宏明 坂下　美奈子　・　上野　美香

使用教科書	My Way English Communication Ⅲ New Edition（三省堂）	使用副教材	My Way English Communication Ⅲ Workbook Standard（三省堂）

科 目 の 目 標	道徳教育のねらい
英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見等を多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。	①言語活動を通じ人間との関わりを築き互いの立場や考えを尊重しながら、伝え合う力やコミュニケーションを図ろうとする積極的な態度を養う。 ②各単元の題材を通じ、世の中の様々な事象に関心を持ち、積極的に関わる姿勢を養う。

	学習活動内容	市函DP（本校で身に付けさせたい10の資質・能力）									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		基礎力	思考力	主体的学習力	傾聴力	自己理解・自己管理力	他　者理解力	計　画実行力	発　信表現力	ストレスコントロール力	実践力
1	授業（リスニング・大意把握）	○		○	○						
2	授業（リーディング・情報整理・内容理解）	○	○				○				
3	授業（リプロダクション・サマリー）		○	○			○		○		
4	授業（ペアワーク・グループワーク）				○		○		○	○	○
5	パフォーマンステスト（リーディング）								○		○
6	パフォーマンステスト（スピーキング）		○	○					○	○	○
7	パフォーマンステスト（ライティング）	○	○	○		○			○		○
8	定期考査	○	○	○				○			○
9	小テスト	○		○		○		○			

	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
評価の観点	意欲的に授業に臨み、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとしているか。	テーマについて自分の考えや意見を英語で話したり書いたりして、表現できるか。	英文を聞いたり読んだりすることで、主題や要点を把握したり、他人の考えや意見を英語で理解することが出来るか。	文法や語彙、発音等に関する知識を身につけているとともに、その背景にある文化などを理解できたか。
評価の方法	課題の取り組み状況、定期考査の英作文問題、授業内のスピーキング活動を通じて評価する。	定期考査の英作文問題、授業内のライティング活動、授業内で行うスピーキングテストを通じて評価する。	定期考査の初見の英文を使った読解問題、授業内で行うライティング活動を通じて評価する。	授業内で行う小テスト、定期考査の文法問題や語彙問題などを通じ評価する。

コミュニケーション英語Ⅲ　授業計画

授業計画					実施状況		
	月 （時数）	単元・考査等 （配当時数）	学習のねらい	学習内容 （配当時間）	実施反省		
前期	4 (14)	Unit 1 Reading Skill (30時間) 1) Greetings in the World 2) The Toughest Creatures 3) A Digital Detox 4) An Architect Shigeru Ban 5) Laughter Therapists Secrets of Janken 6) Wild Raccoon Dogs in Tokyo The Language Café	1ページ程度の短い文を読みながら、以下の基本的なリーディング・スキルを確認し、習得する。 1 主語と述語動詞 2 フレーズ・リーディング 3 代名詞 4 未知語の推測 5 パラグラフ構成 6 ディスコースマーカー 〜 列挙・例示 9 時間的順序 比較・対照 原因・結果 10 スキミング 11 スキャニング	1) 各言語のあいさつを通じてあいさつの持つ役割を考えさせる。 2) 自然界への興味を深めさせる。 3) デジタルデトックスの方法や利点について考えさせる。 4) 坂茂氏の建築が被災地にとって持つ意味を考えさせる。 5) 笑いと健康の関係について考えさせる。 人間の心理的・身体的特徴に注目させる。 (10) 6) 都市と動物の共生について考えさせる。 楽しみながら物事を学ぶことの意義を考えさせる。		前期	
	5 (16)	7) The High Line How Fast Can Humans Run? 8) Shortened Words in Texting Plant Factories 9) Neighbors' Day Bicycle Sharing 10) Thirty-Six Views of the Eiffel Tower Blue Roses 11) Join the ABC Tennis Club! Kyoto One-Day Tour		7) 廃棄物を生かして魅力的に甦らせることの意義を考えさせる。 人間の持つ能力とその発揮について考えさせる。 8) 省略語への賛否の両論を整理させ、自分の意見を発表させる。 利点と欠点を整理させる。 9) コミュニケーションの大切さについて考えさせる。 環境保護と快適さの両立という考え方に注目させる。 (14) 10) 異文化との遭遇から新たなものが生まれることに注目させる。 遺伝子組み換えへの賛否の意見について考えさせる。 11) 条件を比較的に読み取らせる。 項目を整理して読み取らせる。 (6)			
	6 (14)	前期中間考査及び解き直し(2時間) Unit 2 中文読解 (28時間) L1 Narrow Boats in Britain L2 A Mayor of Machu Picchu Village L3 iPS Cells L4 Roman Baths	Unit1で学んだリーディングスキルを活用して、見開きページの長さの文章を聞いたり、読んだりして的確に内容を把握する。 読みとった内容をもとに自分の意見や考えをまとめて発表する。	L1 時代や社会の変遷とナローボートの役割との関係を整理させる。 L2 野内氏の活躍の要因を、時間的順序を整理しながら読ませる。 L3 科学的文章を的確に読み取らせる。／調べたことを発表させる。 L4 日本の公衆浴場との共通点と相違点を考えさせ、発表させる。 (12)			
	7 (8)	L5 Artificial Intelligence L6 Digital Books vs. Printed Books		L5 人工知能と人間社会との将来の関わり方について考えさせる。 L6 各発言者の意見とその理由を整理しながら読ませる。 自分の立場と意見を発表させる。			
	8 (8)	L7 Buckwheat around the World L8 A Message from Small Creatures		L7 グラフを英文と関連付けて効果的に読み取らせる。 他国の食文化に興味を持たせる。 L8 人間と自然の共生について考えさせる。 自然から受けている恩恵について話し合わせる。 (16)			
	9 (14)	前期期末考査及び解き直し(2時間) Unit 3 長文読解 (46時間) L9 Aung San Suu Kyi	Unit 2よりも長い文章を読み、段落構成を意識して内容を読み解く。	L9 アウンサンスーチーさんの求める平和とは何か、また自分には何ができるのかを考えさせる。			
後期	10 (16)	L10 The Wonders of Memory L11 A Moment Makes a Great Difference L12 Media Literacy		L10 記憶力を高める各方法について、理論的裏付けを整理させる。 L11 現代社会における効率と速度の追求の是非を考えさせる。 L12 メディアとの接し方を考えさせる。／他のメディアについても特性と注意点を話し合わせる。		後期	
	11 (16)	L13 Obama's Speech in Hiroshima L14 A Variety of "Englishes"		L13 演説の要旨を読み取り、核廃絶と平和について考えさせる。 L14 多様化する英語の現状についての認識を深めさせる。 (46)			
	12 (14)	後期中間考査及び解き直し(2時間) 物語鑑賞(12時間) Readking 1 A Special Moment in the Third Period	登場人物の気持ちや舞台となる背景を理解しながら、物語文を鑑賞する。	R1 登場人物の気持ちを表現するように朗読させる。			
	1 (2)	Reading 2 Rules are Rules?		R2 物語を読んだ感想や物語から得た教訓を書かせ、発表させる。 (12)			

２０１９年度　市立函館高等学校　シラバス

教　科	科　目	単位数	年次・コース	教　科　担　任
外国語	英語表現Ⅱ（後半）	2	３年次	島　宏明・佐藤　務・坂下美奈子 清水加世・秋元　昇

使用教科書	Vision Quest English Expression Ⅱ	使用副教材	Vision Quest English Expression Ⅱ総合英語、ワークブック

科　目　の　目　標	道徳教育のねらい
英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を伸ばす。	英語を通じて、人間との関わりを築き互いの立場や考えを尊重しながら伝え合う力やコミュニケーションを図ろうとする積極的な態度を養う。

	学習活動内容	市函ＤＰ（本校で身に付けさせたい１０の資質・能力）									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		基礎力	思考力	主体的学習力	傾聴力	自己理解･自己管理力	他者理解力	計画実行力	発信･表現力	ｽﾄﾚｽｺﾝﾄﾛｰﾙ力	実践力
1	Paragraph Writing	○	◎		○				◎		
2	Essay Writing		◎		○			○	◎		
3	Presentation		◎		○			○	◎		
4	グループワーク		○	○	○	○	◎		◎	○	○
5	課題提出		○	◎		○		○			○
6	考査	○	○					○	◎		

評価の観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	英語表現の能力	英語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
	意欲的に授業に臨み、積極的に他者とコミュニケーションを図ろうとしているか。	テーマについて自分の考えや意見を英語で話したり書いたりして、表現できるか。	英文を聞いたり読んだりすることで、主題や要点を把握したり、他人の考えや意見を英語で理解することが出来るか。	文法や語彙、発音等に関する知識や文化的背景的な知識を身につけ理解できたか。

評価の方法

次の資料をもとに観点別評価によって総合的に評価する。

	授業での取組	課題への取組	定期考査	課題確認テスト	その他の資料
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	○	◎		○	
英語表現の能力	◎		○		○
英語理解の能力	○		○		◎
言語や文化についての知識・理解	○	○	◎	○	

英語表現Ⅱ　授業計画

授業計画					実施状況	
	月 （時数）	単元・考査等 （配当時数）	学習のねらい	学習内容 （配当時間）	単元実施時数	実施反省
前期	4(5) 5(8) 6(8) 7(4) 8(4) 9(8)	オリエンテーション(1) Part2 Lesson1(7) Lesson2(7) 前期中間考査(1) Lesson3(7) Lesson4(7) Lesson5(6) 前期期末考査(1)	・パラグラフの構成について理解し、パラグラフを書く。 ・列挙、順序、例示、追加の表現を用いてパラグラフを書く。 ・比較、対象、類似の表現を用いてパラグラフを書く。 ・原因、理由、結果の表現を用いてパラグラフを書く。 ・主題文を見つけ、パラグラフを要約できる。	・パラグラフの構成、列挙、順序の表現(7) ・例示、追加の表現(7) ・比較、対象、類似の表現(7) ・原因、理由、結果の表現(7) ・要点、要約(6)		
後期	10(8) 11(8) 12(6) 1(1) 2 3	エッセイライティング(15) 後期中間考査(1) Part3 Lesson1(7)	・今まで学んだことを活用してエッセイライティングを行い、グループ内で発表する。 ・ブレインストーミングの手法を身に付け、プレゼンテーションで使われる表現を身に付け、実際にプレゼンテーションができる。	・エッセイライティング(15) ・プレゼンテーション(7)		

２０１９年度　市立函館高等学校　シラバス

教　科	科　目	単位数	年次・コース	教　科　担　任
外国語	英語会話	2	３年次	清水　加世

使用教科書	Sailing English Conversation	使用副教材	

科　目　の　目　標	道徳教育のねらい
英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうする態度を育成するとともに、身近な話題について会話する能力を養う。	異なる文化を理解し尊重する態度を育てる。

	学習活動内容	市函ＤＰ（本校で身に付けさせたい１０の資質・能力）									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		基礎力	思考力	主体的学習力	傾聴力	自己理解・自己管理力	他者理解力	計画実行力	発信・表現力	ｽﾄﾚｽｺﾝﾄﾛｰﾙ力	実践力
1	Vocabulary Link	○									
2	Listening			○	○						
3	Pronounciation				○				○		
4	Speaking		○		○		○		◎		◎
5	グループワーク		○	○	○	○	◎		◎	○	○
6	課題提出		○	◎		○		○		◎	○
7	考査	○	○					○	◎		

評価の観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	英語表現の能力	英語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
	意欲的に授業に臨み、積極的に他者とコミュニケーションを図ろうとしているか。	関心のあることについて相手に質問したり、相手の質問に答えたりできるか。また、海外での生活に必要な基本的な表現を使って会話することができるか。	相手の話を聞いて理解するとともに、場面や目的に応じて適切に応答できるか。	聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどを場面や目的に応じて適切に伝えることができるか。

評価の方法

次の資料をもとに観点別評価によって総合的に評価する。

	授業での取組	課題への取組	その他の資料			
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	○	◎				
英語表現の能力	◎		○			
英語理解の能力	○		◎			
言語や文化についての知識・理解	○	○				

英語会話　授業計画

授業計画					実施状況	
	月 （時数）	単元・考査等 （配当時数）	学習のねらい	学習内容 （配当時間）	単元実施時数	実施反省
前期	4(5)	オリエンテーション(1)	教室会話や会話の決まり文句を習得する。	今後の授業に必要な教室英語を学ぶ。		
		UNIT 1 English Around the World(2)	英語で自己紹介、他己紹介ができるようになる。	ねらいを達成するために①表現を学び②覚え　③活用し　④実際の場面で使えるようにする。④についてはインタビューテスト、スキットコンテスト、プレゼンテーション、スピーチなどでパフォーマンス評価を行う。		
		People Around Us(2)				
	5(8)	UNIT 2 L1　What Day Is Convenient for You?(5)	英語でスケジュール調整ができるようになる。			
	6(8)	L2 How Was LastSunday?(5)	英語で過去の出来事について説明出来るようになる。			
		L3　Could I Have an Extra Blanket?(5)	英語を使って機内の様々な状況に対応出来るようになる。			
	7(4)	L4 Who's Calling, Please?(5)	英語で電話をかけられる、受けられるようになる。			
	8(4)					
	9(8)					
		L5　How Can I GetThere?(5)	英語の道案内を理解し、自分でも理解できるようになる。			
		Show & Tell(5)	英語で自分の思い出についてスピーチ出来るようになる。			
		L6 May I Help You?(5)	英語で買い物出来るようになる。			
後期	10(8)	L7 You Look Nice in That Dress!(5)	英語で相手を褒めることが出来るようになる。			
	11(8)	L8 I'm Not Feeling Well(5)	英語で自分の体調について伝えられるようになる。			
		L9I Want to Be a Diplomat(5)	英語で自分の進路について伝えられるようになる。			
	12(6)	L10 Do You Share the House work?(5)	英語で調査結果をもとに自分の考えを伝えられるようになる。			
	1(1)	UNIT 3 Our School Life(2) Studying Abroad(2) Case Studies(2)				
	2					
	3					

２０１９年度　市立函館高等学校　シラバス

教　科	科　目	単位数	年次・コース	教　科　担　任
英語	英語研究Ｂ	2	３年次	吉村　由紀

使用教科書	数研出版 スープレム英語構文109 活用ワーク 『英文解釈演習　１０９』	使用副教材	なし

科　目　の　目　標	道徳教育のねらい
英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を伸ばす。	英語を通じて、人間との関わりを築き互いの立場や考えを尊重しながら伝え合う力やコミュニケーションを図ろうとする積極的な態度を養う。

	学習活動内容	市函ＤＰ（本校で身に付けさせたい１０の資質・能力）									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		基礎力	思考力	主体的学習力	傾聴力	自己理解・自己管理力	他者理解力	計画実行力	発信・表現力	ｽﾄﾚｽｺﾝﾄﾛｰﾙ力	実践力
1	Lesson 1　基本文型と句・節	○		○							
2	Lesson 2　Ｉｔ中心の構文	○		○							
3	Lesson 3　助動詞を含む構文	○		○							
4	Lesson 4　不定詞を含む構文	○		○							
5	Lesson 5　動名詞を含む構文	○		○							
6	Lesson 6　分詞を含む構文	○		○							
7	Lesson 7　比較構文	○		○							
8	Lesson 8　関係詞を含む構文	○		○							
9	Lesson 9　仮定法構文	○		○							
10	Lesson 10 否定構文	○		○							
11	Lesson 11 接続詞を含む構文	○		○							
12	Lesson 12 譲歩構文	○		○							
13	Lesson 13 無生物主語の構文	○		○							
14	Lesson 14 同格・挿入の構文	○		○							
15	Lesson 15 強調・倒置構文	○		○							
16	Lesson 16 省略構文	○		○							
17	小テスト	◎		◎		○		○	○	○	○
18	考査	◎	○	◎		◎		○	◎	◎	○

評価の観点	関心・意欲・態度	英語表現の能力	英語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
	意欲的に授業に臨み、積極的にコミュニケーションを図ろうとしているか。	各レッスンで扱う構文を理解し、それを用いて自分の考えや意見を表現できるか。	英文を聞いたり読んだりすることで、主題や要点を把握したり、他人の考えや意見を英語で理解することができるか。	文法や語彙、発音等に関する知識や文化的背景的な知識を身につけ理解できるか。

評価の方法

次の資料をもとに観点別評価によって総合的に評価する。

	授業での取組	課題への取組	定期考査	小テスト		
関心・意欲・態度	◎	◎				
英語表現の能力	◎	◎	○	○		
英語理解の能力	◎	○	○	○		
言語や文化についての知識・理解	○	○	◎	◎		

英語研究Ｂ　授業計画

授業計画					実施状況	
	月 （時数）	単元・考査等 （配当時数）	学習のねらい	学習内容 （配当時間）	単元実施時数	実施反省
前	4 (6)	Lesson1（3）　Lesson2　(3)	基本的文型と句・節、It中心の構文を復習し、それらを英文解釈・英作文の中で適切に使えるようにする。	文法・構文の確認と、英文解釈及び英作文演習		
	5 (7)	Lesson3（3）　Lesson4　(3) Lesson1～Lesson4のまとめ(1)	助動詞を含む構文、不定詞を含む構文を復習し、それらを英文解釈・英作文の中で適切に使えるようにする。	文法・構文の確認と、英文解釈及び英作文演習		
	6 (7)	Lesson5（3）　Lesson6　(3) 前期中間考査(1)	動名詞を含む構文、分詞を含む構文を復習し、それらを英文理解・英作文の中で適切に使えるようにする。	文法・構文の確認と、英文解釈及び英作文演習		
	7,8 (7)	Lesson7（3）　Lesson8(3) Lesson5～Lesson8のまとめ(1)	比較構文、関係詞を含む構文を復習し、それらを英文解釈・英作文の中で適切に使えるようにする。	文法・構文の確認と、英文解釈及び英作文演習		
	9 (7)	Lesson9（3）　Lesson10(3) 前期期末考査(1)	仮定法構文、否定構文を復習し、それらを英文解釈・英作文の中で適切に使えるようにする。	文法・構文の確認と、英文解釈及び英作文演習		
後期	10 (7)	Lesson11（3）　Lesson12(3) Lesson9～Lesson12のまとめ(1)	接続詞を含む構文、譲歩構文を復習し、それらを英文解釈・英作文の中で適切に使えるようにする。	文法・構文の確認と、英文解釈及び英作文演習		
	11 (7)	Lesson13（3）　Lesson14(3) Lesson13～Lesson14のまとめ(1)	無生物主語の構文、同格・挿入構文を復習し、それらを英文解釈・英作文の中で適切に使えるようにする。	文法・構文の確認と、英文解釈及び英作文演習		
	12 (7)	Lesson15/Lesson16(5) 後期中間考査(1) Lesson15～Lesson16のまとめ(1)	強調・倒置構文、省略構文を復習し、それらを英文解釈・英作文の中で適切に使えるようにする。	文法・構文の確認と、英文解釈及び英作文演習		
	1 (5)	まとめの演習(5)	これまでに学習した構文の知識を元に、実践的な問題演習を通して英文解釈の総まとめをする。	各LessonのSUPREME（応用問題）から抜粋した英文解釈演習		

2019年度　市立函館高等学校　シラバス

教　科	科　目	単位数	年次・コース	教　科　担　任
外国語	中国語	2	3年次	東　出　隆　司 島　　宏　明

使用教科書	標準　高校中国語［第2版］（白帝社）	使用副教材	

科　目　の　目　標	道徳教育のねらい
中国語を理解し、中国語で表現する基礎的な能力を養い、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てるとともに、言語や文化に対する関心を高め、国際理解の基礎を培う。	感情的な偏見を持つことなく、お互いの文化を尊重し、互いに理解しようとする気持ちを育む。

	学習活動内容	市函DP（本校で身に付けさせたい10の資質・能力）									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		基礎力	思考力	主体的学習力	傾聴力	自己理解・自己管理力	他　者理解力	計　画実行力	発　信表現力	ストレスコントロール力	実践力
1	授業（文字と四声の習得）	○		○							
2	授業（復唱・発音練習）	○		○							
3	授業（ペアワーク・グループワーク）				○		○		○	○	○
4	中国文化の理解				○		○				
5	定期考査	○	○					○			
6	小テスト	○						○			

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
	コミュニケーションに関心をもち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	聞いたり読んだりした内容を的確に理解している。	身近な内容について話したり書いたりして、情報や考えを適切に伝えることができる。	中国語の学習を通して、文字や音、または語彙について知識を身に付けているとともに、その背景にある文化などを理解している。

評価の方法	次の資料をもとに観点別評価によって多面的・総合的に評価する。					
		授業での取組	提　出　物	定期考査	単元テスト	その他の資料
	関心・意欲・態度	◎	◎			
	思考・判断	○				○
	技能・表現	◎		○	○	◎
	知識・理解	◎	○	◎	◎	

中 国 語 授業計画

学習指導計画					実施状況		
	月 （時数）	単元・考査等 （配当時数）	学習のねらい	学習内容 （配当時間）	単元実施	実施反省	
前期	4月 （5）	中国語の発音と書き方(4)	中国語の基本的な発音と書き方を覚える。	中国語概論 (3) 発音とピンイン (2)		前期	
	5月 （8）	基本的中国語の文法の整理と確認 第１課　你好！ 第２課　谢谢！ 第３課　你叫什么名字？ 第４課　我是日本人。 第５課　你是不是高中生？ 第６課　这是什么？	中国語の基本的な文法を学び、語彙を増やす。 基本的文構造を理解する。	人称、挨拶、名前 (1) 感謝、お詫び、別れの表現 (1) 名前の聞き方、答え方 (1) 名詞述語文 (2) 反復疑問文 (2) 指示代詞（単数）(1)			
	6月 （8）	第７課　这是我的词典。 第８課　你喝茶吗？ 第９課　这个很好。 第１０課 你有零钱吗？ 第１１課 介绍一下。 第１２課 你家有几口人？		指示代詞（複数）(1) 動詞述語文 (2) 形容詞述語文 (1) 数・疑問数詞 (2) 場所を表す代詞 (1) 助数詞 (1)			
	7月 （4）	第１３課 你们班有多少学生？ 第１４課 现在几点了？ 第１５課 今天几月几号？		動詞の重ね型 (1) 時間の表し方 (1) 月日・曜日の表し方 (2)			
	8月 （4）	第１６課 你几点开始学习？ 第１７課 你每天学习几个小时？ 第１８課 王强来了吗？		時を表す文 (2) 「･･･が好きである。」(1) 「どうして、なぜ」(1)			
	9月 （8）	前期期末考査(1) 第１９課　听说这部电影很有意思。 第２０課　这儿可以坐吗？ 第２１課　你会滑雪吗？		前期期末考査(1) 連動文・過去の経験を表す。(3) 「～できる」「～したい」(2) 助動詞“会”、“能” (2)			
後期	10月 （8）	第２２課　明天我跟同学一起打网球。 第２３課　桌子上放着什么？ 第２４課　你弟弟在干什么呢？ 第２５課　我身体不舒服。	基礎的な文法事項の定着を図り、自分や身の周りのことについて表現する。	助動詞“要”、前置詞“跟”・“在” (2) 「～している、～してある」(2) 進行を表す“在”「～している」(2) 主述述語文、「～してはいけない」(2)		後期	
	11月 （8）	第２６課　离这儿远吗？ 第２７課　你说汉语说得很好。 第２８課　什么时候到北京的？	身近な話題を通して文化的共通点・相違点を知る。	副詞“就”「すぐに･･･する」(2) 選択疑問文を作る“还是” (3) 2つの目的語をとる動詞 (3)			
	12月 （6）	後期中間考査(1) 第２９課　小的比大的好。 第３０課　准备好了吗？ 第３１課　快要下雨了。 第３２課　祝你成功！	文法事項を理解し、語彙力を高めるとともに、復唱を通して基本構文の定着を図る。	後期中間考査(1) 色々な形容詞 (2) 結果補語 (1) 自然現象の表し方 (1) “打算”「～するつもりだ」(1)			
	1月 （1）	1年間のまとめ		1年間のまとめ (1)			

２０１９年度　市立函館高等学校　シラバス

教　科	科　目	単位数	年次・コース	教　科　担　任
外国語	ロシア語	2	3年次	イリイナ・ソフィア　　佐 藤　務

使用教科書	会話で学ぶロシア語　初級	使用副教材	

科　目　の　目　標	道徳教育のねらい
ロシア語を理解し、ロシア語で表現する基礎的な能力を養い、ロシア語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てるとともに、言語や文化に対する関心を高め、国際理解の基礎を培う。	ロシア語の学習を通じて、多言語や異文化に対する理解を深め、広い視野を育成する。

	学習活動内容	市函ＤＰ（本校で身に付けさせたい１０の資質・能力）									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		基礎力	思考力	主体的学習力	傾聴力	自己理解・自己管理力	他者理解力	計画実行力	発信・表現力	ｽﾄﾚｽｺﾝﾄﾛｰﾙ力	実践力
1	授業（文字と発音）	○		○					○		
2	授業（各種表現）	○	○	○					○		
3	授業（ペアワーク・グループワーク）	○					○		○		
4	文化理解	○	○		○		○				
5	定期考査	○	○			○		○			
6	小テスト	○	○			○		○			

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
	ロシア語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度、会話・発音練習や文法演習に意欲的に取り組もうとする態度が身についている。	基礎・基本を身につけ、さらに高度な表現へと応用・発展させる力が身についている。	語彙力を高めるとともに、動詞の活用変化、名詞・形容詞の格変化を理解し、適切な表現ができる。	相手が伝えようとする情報や考えなどを理解する知識・技術を身につけ、的確に表現して実践的活用ができる。

評価の方法

次の資料をもとに観点別評価によって総合的に評価する。

	授業での取組	課題への取組	定期考査	単元テスト	課題確認テスト	その他の資料
関心・意欲・態度	◎	◎				
思考・判断	◎		○	◎		○
技能・表現	○		○	○		◎
知識・理解	○	○	◎	◎		

ロシア語　授業計画

学習指導計画					実施状況		
	月 （時数）	単元・考査等 （配当時数）	学習のねらい	学習内容 （配当時間）	単元実施時数	実施反省	
前期	４月 （5）	はじめに 文字と発音	アルファベットを覚える。 基本的な疑問表現を覚える。 肯定文・否定表現を覚える。 知っていること・知らないことの内容を表す。	アルファベットと発音記号(1) 疑問詞・名詞の性・人称代名詞(1) 職業名・肯定文と否定文(2) 所有代名詞・第一変化動詞(1)		前期	
	５月 （8）	第1課 第2課	動詞の変化を覚える。 「運動」の動詞を覚える。	複文(1) 第二変化動詞(1) 話法(3) 「運動」の動詞(1)　原因・理由の従属文（1） 原因・理由の従属文(1)			
	６月 （7）	（前期中間考査） 第3課 第4課	基本的な疑問表現を覚える。 「所有」の動詞を覚える。 過去の表現を覚える。	開始・終了の動詞(1) Ｋｏｇｄａ?型の疑問文(1) 「所有」の動詞(1) Ｋｏｇｄａの従属文(2) 動詞の過去形(1) 対格(1)			
	７月 （4）	第5課	期間の表現を覚える。	「期間」の疑問文(2) 完了体(2)			
	８月 （3）	第6課	未来の表現を覚える。	完了体動詞の未来形(3)			
	９月 （6）	第7課 （前期末考査） 第8課	否定の表現を覚える。 未来の表現を覚える。	「～しなければならない」・否定代名詞(2) 不完了体動詞の未来形(2) 「希望」の動詞(2)			
後期	10月 （8）	第9課 第10課	暑い・寒いなど状況の表現を覚える。 「～について」の表現 前置格の語尾変化を覚える。	無人称述語・関係代名詞の対格(2) O + 前置格・所有代名詞の前置格(2) 前置詞の語尾変化(2) 動詞の後ろに来る名詞／代名詞の対格と与格(2)		後期	
	11月 （7）	第11課 第12課 第13課	好みの表現を覚える。 所有・存在の否定表現を覚える。 過去・未来の否定表現を覚える。	「好み」の動詞の完了体・不完了体(2) 所有代名詞・形容詞の与格(2) 否定生格・名詞の生格(1) 「数・量」の表現(2) 動詞の過去形・未来形(2)			
	12月 （6）	（後期中間考査） 第14課 第15課	「どこから～」の表現を覚える。 「～してもよい」の表現を覚える。 国名を覚える。	出発点・出身の表現(2) 許可・禁止の表現(2) 民族性(1) 所有代名詞の生格(1)			
	１月 （6）	まとめ	１年間の学習の総まとめをする。	演習プリントを用いた復習(6)			

２０１９年度　市立函館高等学校　シラバス

教　科	科　目	単位数	年次・コース	教　科　担　任
外国語	ハングル	2	3年次	全　淑子　　坂下　美奈子

使用教科書		使用副教材	

科　目　の　目　標	道徳教育のねらい
ハングルを理解し、ハングルで表現する基礎的な能力を養い、ハングルで積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てるとともに、言語や文化に対する関心を高め、国際理解の基礎を培う。	韓国語の学習を通じて、多言語や異文化に対する理解を深め、広い視野を育成する。

	学習活動内容	市函ＤＰ（本校で身に付けさせたい１０の資質・能力）									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		基礎力	思考力	主体的学習力	傾聴力	自己理解・自己管理力	他者理解力	計画実行力	発信・表現力	ｽﾄﾚｽｺﾝﾄﾛｰﾙ力	実践力
1	授業（文字と四声の習得）	○		○							
2	授業（復唱・発音練習）	○		○							
3	授業（ペアワーク・グループワーク）				○		○		○	○	○
4	韓国文化の理解				○		○				
5	定期考査	○	○					○			
6	小テスト	○						○			

評価の観点	外国語習得、ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
	・「読む」「聴く」「話す」「書く」活動に積極的に取り組めているか。 ・自主的・主体的に授業に取り組めているか。	・言語表現を使用して、自分の生活に関することがらや意見・考えを正しく伝えることができるか。	・扱われている言語材料や文法事項を、場面や目的、状況に応じて適切に活用できているか。	・韓国語の学習を通して、言語やその使い方についての知識を身につけるとともに、その背景にある文化などを理解しようとしているか。

評価の方法

次の資料をもとに観点別評価によって総合的に評価する。

	授業での取組	課題への取組	定期考査	単元テスト	課題確認テスト	その他の資料
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	◎	◎				
外国語表現の能力	◎		○	◎		○
外国語理解の能力	○		○	○		◎
言語や文化についての知識・理解	○	○	◎	◎		

基礎韓国語　授業計画

授業計画					実施状況		
	月 （時数）	単元・考査等 （配当時数）	学習のねらい	学習内容 （配当時間）	単元 実施 時数		実施反省
前期	4月 (4)	韓国語の発音とハングルの書き方(21)	韓国語の基本的な発音と ハングルの書き方を覚える。	基本母音を覚える　(2) 基本子音を覚える　(3)		前期	
	5月 (8)			激音を覚える　(3) 濃音を覚える　(3) 激音・濃音を用いた単語を覚える(2)			
	6月 (8)	前期中間考査	韓国語の基本的な発音を覚え、 語彙力を高める。	(1) パッチムを覚える　(2) 複合母音を覚える　(2) 連音を覚える　(2) 基本単語のまとめ　(1)			
	7月 (3)	基本的韓国語文法の整理と確認(5) 第一課　「私は・・・です」 第二課　「私は・・・ではありません」	基本的文構造を理解する	助詞の使い方を覚える　(1) 助詞の確認、否定語の使い方を覚える　(2)			
後期	8月 (3)	第三課　「これは何ですか」		指示語、疑問詞を覚える　(2)		後期	
	9月 (7)	前期末考査 基本的韓国語文法の整理と確認(22) 第四課　「これはいくらですか」		(1) 指示語、疑問詞、数字を覚える　(5)			
	10月 (8)	第五課　「毎日会社に行きます」 第六課　「日曜日に映画を見ます」 第七課　「週末に時間はありますか」	基礎的な文法事項の定着を図り、 自分や身の周りのことについて 表現する。	用言＋です、ますの表現を覚える　(3) 基本動詞、形容詞を覚える　(2) 母音語幹の用言とパッチムのある用言を覚える　(2) 有無の表現、尊敬の表現を覚える　(2)			
	11月 (7)	第八課　「お時間よろしいですか」 第九課　「そこには行きません」 第十課　「そのドラマを見ました」 第十一課 「韓国語が好きで勉強します」 後期中間考査	身近な話題を通して文化的共通 点・相違点を知る。	否定の表現を覚える　(2) 過去の表現を覚える　(3) 原因・理由の表現を覚える　(2) (1)			
	12月 (5)	文法の復習と基本フレーズの練習(10) ・「もしもし」　・「今日は何曜日ですか」 ・「趣味は何ですか」 ・「今、何時ですか」	文法事項を理解し、語彙力を高める とともに、復唱を通して基本構文の 定着を図る。	**電話での表現を覚える（2）** **月日、曜日の表現を覚える（2）** **好き、嫌いの表現、娯楽・スポーツの単語を覚える（4）** **漢数詞と個数名詞を覚える（2）**			
	1月 (1)	学習のまとめ(2)	韓国語による相互コミュニーケー ションを通し、互いを理解する。	**既習の文法事項や表現を使って自分のことについて話したり、相手に質問したりする。(2)**			

２０１９年度　市立函館高等学校　シラバス

教　科	科　目	単位数	年次・コース	教　科　担　任
家庭	子どもの発達と保育	2	３年次選択	黒澤比呂子

使用教科書	実教出版　子どもの発達と保育（新訂版）	使用副教材	なし

科　目　の　目　標	道徳教育のねらい
乳幼児の発達の特徴・生活と保育に関する基礎的・基本的な知識を修得させ、生徒の子どもへの理解を深める。また、子どもの健全な成長のために果たすべき社会の役割や、社会の一員としてより良い生活環境のあり方を考える力を育む。	社会変化の現実と向き合いながら、人間が生まれてくることの意味や成長の中で乗り越えるべき課題について考える。また、いのちを産み育てる責任と人権を尊重することの大切さを学ぶ。

	学習活動内容	市函ＤＰ（本校で身に付けさせたい１０の資質・能力）									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		基礎力	思考力	主体的学習力	傾聴力	自己理解･自己管理力	他者理解力	計画実行力	発信･表現力	ｽﾄﾚｽｺﾝﾄﾛｰﾙ力	実践力
1	発達と乳幼児期の意義	○									
2	発達と保育環境	○									
3	子どもの発育	○									
4	子どもの精神発達	○									
5	人間関係の発達	○									
6	生活と養護	○	○								
7	子どもの遊び（製作を含む）	○	○	○				○			
8	生活習慣の形成	○	○								
9	健康管理と事故予防	○									
10	子どもの食生活（実習含む）	○	○	○				○			
11	保育の意義と重要性	○									
12	家庭保育と集団保育	○									
13	子どもの福祉と子育て支援	○									
14	グループワーク		○		○	○	○		○		
15	チェックテスト	○	○					○	○		
16											
17											
18											
19											
20											

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
	・授業活動において積極的姿勢で参加・活動しているか。 ・授業の準備や課題提出が十分か。	・授業で学んだ知識をもとに、保育に関する諸問題や課題を見つけ、論理的に考え選択し、それを表現することができるか。	・実習や作製を通して、その技術を習得しているか。	・子どもの保育に関わる基礎的・基本的な知識を理解しているか。

評価の方法

次の資料をもとに観点別評価によって総合的に評価する。

	授業での取組	課題への取組	課題の完成度	実習	定期考査
関心・意欲・態度	◎	◎	○	○	
思考・判断・表現	○	◎	○		◎
技能			◎	◎	
知識・理解	○	○		○	◎

子どもの発達と保育　授業計画

授業計画					実施状況	
	月 （時数）	単元・考査等 （配当時数）	学習のねらい	学習内容 （配当時間）	単元 実施 時数	実施反省
前期	4月	1章　子どもの発達の特性 （３時間）	・人間の発達に関心を持ち、乳幼児期が人間の発達の基礎を培う時期であることを理解する。	・発達と乳幼児期の意義（１） ・発達と保育環境（２）		
	4月 5月 6月	2章　子どもの発達の過程 （１７時間）	・生命誕生に関わる母体環境の重要性を知る。 ・新生児の身体的特徴を知り、特に養護に配慮しなくてはならないことを理解する。 ・乳幼児の生理的特徴、精神発達の特徴を学び、重要な時期であることを理解するとともに、その養護の重要性を理解する。	・子どもの発育（６） ・子どもの精神発達（６） ・人間関係の発達（４） ・チェックテスト（１）		
	7月 8月 9月	3章　子どもの生活 （１４時間）	・乳幼児の生活の特徴を学び、発育発達に応じた養護の必要性を知る。 ・生活習慣形成の意義と重要性を理解する。	・生活と養護（４） ・子どもの遊び（製作含む）（１０）		
後期	10月 11月	3章　子どもの生活 （１８時間）	・日常の健康状態の観察など、乳幼児の健康を守るための保護者の役割を理解する。 ・乳幼児の成長段階における事故の実態と原因などを学習し、安全教育のために保育者がつとめなければならないことを理解する。	・生活習慣の形成（５） ・健康管理と事故予防（２） ・子どもの食生活（実習含む）（１０） ・チェックテスト（１）		
	12月 1月	4章　子どもの保育 5章　子どもの福祉 （８時間）	・現在の保育をめぐる問題を取り上げ、高校生として保育を学ぶ意義を理解する。 ・乳幼児は遊びを通して発育発達することを理解し、保育者が発達に合わせて遊びを働きかけることを学ぶ。 ・保育の場としての家庭保育と集団保育があることを知り、それぞれの特徴や役割があることを学ぶ。子どもの成長発達に両方が必要であることを理解する。	・保育の意義と重要性（２） ・家庭保育と集団保育（２） ・保育の方法（２） ・子どもの福祉と子育て支援（２）		

２０１９年度　市立函館高等学校　シラバス　（総合的な学習の時間）

教　科	科　目	単位数	年次・コース	教　科　担　任
総合	総合的な学習の時間	1	３年次	３年次教員

使用教科書		使用副教材	

科　目　の　目　標	道徳教育のねらい
横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して，自ら課題を見付け，自ら学び，自ら考え，主体的に判断し，よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに，学び方やものの考え方を身に付け，問題の解決や探究活動に主体的，創造的，協同的に取り組む態度を育て，自己の生き方を考えることができるようにする。	自ら課題を見付け，主体的に判断し，よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに，学び方や考え方を身に付け，問題の解決や探究活動に主体的，創造的，協同的に取り組む態度を身に付けることで、よりよい道徳的な判断力を養う。

	学習活動内容	市函ＤＰ（本校で身に付けさせたい１０の資質・能力）									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		基礎力	思考力	主体的学習力	傾聴力	自己理解･自己管理力	他者理解力	計画実行力	発信･表現力	ｽﾄﾚｽｺﾝﾄﾛｰﾙ力	実践力
1	課題研究	◎	◎	◎	○		○	○	◎		
2	志望理由書執筆	◎	○	○		◎		○	◎		
3	講演会	○	◎	○	◎						
4											
5											
6											
7											
8											
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
	現代社会の課題を多面的に学び、自ら課題を発見し、課題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組むことができている。	自ら見付けた課題について、調査研究し、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を身に付けている。	課題解決に向けて、情報を調べ活用する能力や他者にわかりやすく伝える能力を身に付けている。	社会と自分との関わりの中、課題解決や探究活動により、自己の在り方生き方を考えることができている。

評価の方法

次の資料をもとに観点別評価によって総合的に評価する。

	授業への取り組み	課題への取り組み	グループワーク	自己評価・相互評価	発表内容	作品（レポート等）
関心・意欲・態度	◎	◎	○	○		
思考・判断			○		◎	◎
技能・表現					◎	◎
知識・理解		○			◎	◎

総合的な学習の時間　授業計画

授業計画					実施状況	
	月 （時数）	単元・考査等 （配当時数）	学習のねらい	学習内容 （配当時間）	単元実施時数	実施反省
前期	4	課題研究（4）	・３つの大きな柱「自己を知る」、「社会・学問を知る」、「表現力を磨く」を立てて取り組んできた総合学習の集大成として課題研究に取り組む。 ・自分が学びたいと考える学問や社会において探求したいと考える事柄、就きたい職業の仕事の内容などをより具体的に調べ考察し、論文に仕上げ、発表する。 ・この活動を通じて、自分の探求していく夢を持ち、進みたい大学・学部や職業をより確信を持って目指す契機とする。	・オリエンテーション（1） ・下書き執筆（3）		
	5	課題研究（4）		・下書き執筆（4）		
	6	課題研究（1）		・下書き提出（1）		
		講演会（3）	・社会の第一線で活躍する方の講演を聴くことで、　生徒の視野を広げ、多様な生き方を考えさせる。	・講演会（3）		
	7	志望理由書執筆（4） 志望理由書執筆（3）	・志望理由書を書くことにより、自分の進路目標を明確にし、自己の在り方や生き方について探求する。また、作成の過程での情報処理能力、自己表現能力を養う。	・ワークシート作成（3） ・下書き執筆（3） ・清書執筆（1）		
	8	課題研究（1）		・清書提出、クラス発表会説明（1）		
	9	課題研究クラス発表会（6） 課題研究全体発表会（3） 評価・反省（1）		・課題研究クラス発表会（6） ・課題研究全体発表会（3） ・評価・反省（1）		
後期	10					
	11					
	12					
	1					
	2					
	3					

２０１９年度　市立函館高等学校　シラバス　（函館学）

教　科	科　目	単位数	年次・コース	教　科　担　任
総合	函館学	0～2	全年次・選択	総学部担当教員・外部講師

使用教科書		使用副教材	

科　目　の　目　標	道徳教育のねらい
国際性と進取の精神を持つ郷土函館・道南圏の歴史・文化・産業・自然・人物・地域課題等について学ぶことで、豊かな教養を身に付けるとともに、社会における自己の役割を再認識し、地域の振興に向けて、自ら課題を見つけ、よりよく問題を解決する資質や態度を育てる。	国際性と進取の精神を持つ郷土函館・道南圏の歴史・文化・産業・自然・人物・地域課題等について学ぶことで、郷土を愛し、郷土の振興のために尽力する態度を養う。

	学習活動内容	市函ＤＰ（本校で身に付けさせたい１０の資質・能力）									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		基礎力	思考力	主体的学習力	傾聴力	自己理解･自己管理力	他者理解力	計画実行力	発信･表現力	ｽﾄﾚｽｺﾝﾄﾛｰﾙ力	実践力
1	外部公開講座受講	◎	◎	◎	◎				○		◎
2	はこだて検定	◎	◎	◎				○			
3											
4											
5											
6											
7											
8											
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
	郷土　函館・道南圏の歴史・文化・産業・自然・人物・地域課題等について主体的に学んでいる。	地域課題に係わる活動に関心を持ち、公開講座やボランティア活動などへの参加を通じて、よりよく解決する資質を身につけている。	地域課題の解決に向けた活動などにより、自分の学びを他者にわかりやすく伝えることができる。	地域と自分との関わりの中、課題解決に向けた活動などにより、自己の在り方生き方を考えることができる。

評価の方法

次の資料をもとに観点別評価によって総合的に評価する。

	講座や活動への取り組み	地域課題への取り組み	報告レポート			
関心・意欲・態度	◎	◎	◎			
思考・判断	◎		◎			
技能・表現			◎			
知識・理解		◎	◎			

函館学（選択）　平成３０年度 開講講座等実績

授業計画					実施状況	
	月（時数）	開講講座	学習のねらい	学習内容	単元実施時数	実施反省
前期	4	第1回函館てらこや	郷土函館・道南圏の「歴史」、「文化」、「産業」、「自然」、「人物」、「地域課題」等について総合的に学ぶ。	てらこや 地域の子ども達に学び・遊びの場を提供し、保護者・大人のボランティア・学生ボランティアが交流し地域を盛り上げていこうという活動を通じて、コミュニティのあり方や地域全体で行う子育て・教育のあり方について考える。		
	5	第２回函館てらこや				
	6	第３回函館てらこや				
		第１回　CCH合同公開講座 『函館学２０１８』		第１回　CCH合同公開講座 「温故知新　先人の実践を探る」		
		第２回　郷土の歴史講座		第２回　郷土の歴史講座 「箱館戦争と碧血碑百五十回忌、追悼・記念講演会」		
	7	第4回函館てらこや				
		第2回　CCH合同公開講座 『函館学２０１８』		第２回　CCH合同公開講座 「ロシア人から見た函館と石川啄木、与謝野晶子の短歌」		
	8	CCH加盟校主催『函館学』講座		CCH加盟校主催『函館学』講座 「海の巨大な渦：海の中にも高気圧と低気圧がある」		
		第5回函館てらこや				
	9	CCH加盟校主催『函館学』講座		CCH加盟校主催『函館学』講座 「凍る海のプランクトンと環境変動」		
		第6回函館てらこや				
		文化体験学習ツアー		文化体験学習ツアー 北前船が運んだ商業や文化を体験		
後期	10	未来大市民公開講座		未来大市民公開講座		
		第7回函館てらこや		「使いやすさの認知心理学」(10/6)		
				「文字認識から自動運転まで　ー画像認識入門」(10/13)		
		第６・７回　郷土の歴史講座		第６・７回　郷土の歴史講座 「函館は文化の十字路　～様々な宗教の中で育まれてきた街～」(10/13) 「公家・清水谷公考の”青雲の志”とその挫折　―箱館裁判所・箱館府創設と箱館戦争の狭間―」(10/27)		
	11	はこだて学生政策アイデアコンテスト		学生政策アイデアコンテスト 高校生大学生に「函館の街を活性化させる、元気にするための政策」を学生限定でアイデアを募集するコンテスト		
		はこだて検定		第13回函館歴史文化観光検定		
		第8回函館てらこや				
	12	第３回　合同公開講座 『函館学２０１８』		第３回　合同公開講座 日本中世の貨幣をめぐる諸問題		
		第9回函館てらこや				
	1	第10回函館てらこや				
	2	第11回函館てらこや				
	3	第12回函館てらこや				

※函館学（選択）は『函館学ニュース』で随時案内するため、年度により開講講座が異なることから、前年度の実施実績とする。